



自己点検・評価報告書

2021年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校

## ま え が き

奈良高専は開校以来 50 年以上に亘り、「都市型高専としての地の利」「研究力の高さ」「学生の質の高さ」などの強みを活かして、エンジニア人材の育成と地域産業への技術支援等を行ってきました。現在 5 学科 2 専攻で運営し、本科卒業後に就職する学生は全体の約 4 割です。製造業を中心に就職率はほぼ 100%で、第一志望の企業に学校推薦で採用内定というケースが殆どです。約 6 割は進学で、その約半数が国公立大学に編入学します。残りの殆どが専攻科に内部進学し、そのうち国公立大学の大学院にさらに進学する学生が 6~7 割です。実践的エンジニアの育成を目的として発足した奈良高専ですが、今や卒業生はエンジニアリーダーや研究者としても活躍しています。

さらに、時代の変化を捉え、産業界のニーズに対応したエンジニア人材の育成が課題です。生産拠点の海外移転を契機に産業のグローバル化が進み、デジタル化により異分野の技術が融合複合化しています。奈良高専ではこのようなダイバーシティな環境の中で協働して付加価値の高いもの・ことづくりができるエンジニアリーダー人材養成を目標に、正課外の二つの教育プログラム「グローバル工学協働教育プログラム」及び「しなやかエンジニア教育プログラム」を立ち上げております。

ダイバーシティに関連してエンジニア人材養成に関するもう一つの課題があります。急激な少子化の中で女性エンジニアの育成が急務となっていることです。奈良高専では入学者に占める女子比率は増加傾向にあります。ようやく 2 割を超えたところです。女性エンジニアリーダー養成枠を設け、優秀で意欲の高い女子の入学を促し、教育プログラムを優先的に受講してもらうことにしました。感性や表現力に秀でた女性エンジニアが一定割合増えれば、男性エンジニアとのシナジー効果でイノベーションを引き起こすことができると期待しております。

男女共同参画推進に関するもう一つの活動があります。女性研究者の活躍促進、女性研究者のすそ野拡大のための研究環境の実現を目的とした「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業（代表機関：奈良女子大学）で、2019 年度からスタートしました。本事業において、奈良高専では男女の意識改革、女性教員の比率向上、女性研究者の研究環境整備と研究力向上など、様々な取り組みを実施しております。

奈良高専を含む国立 51 高専の設置機関である（独）国立高等専門学校機構では、高専教育の質保証と関連してモデルコアカリキュラムの改訂、教学マネジメントの推進、海外展開・国際交流事業、施設整備 5 か年計画に基づく施設整備費補助金実施事業、情報セキュリティインシデント防止、学校事故対応と学校安全の推進などを重点的に進めております。R2 年度から進めている高専発！「Society 5.0 型未来技術人材」育成事業において、GEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）に防災・減災・防疫分野（エネルギー）の中核拠点校として本年度奈良高専が採択されました。連携体制という全国規模の「面」（基盤）としての体

制の下、地域密着型・課題解決型・社会実装型手法を活かし、未来技術人財育成モデルを開発・展開します。

本年度も引き続きコロナ禍にありますが、昨年度とは異なり、感染防止対策を徹底しつつ、通常の対面による授業を実施し、部活動もできる限り継続しております。地域の感染状況の悪化に対応すべく、遠隔授業への切り替えも念頭に進めていますので、コロナ収束後もいろいろな場面で利用可能な教育資源が蓄積されています。適切な運用で、教員業務の効率化のみならず、高専教育の質の向上に繋がると期待しております。

本報告書には、教育・研究・社会貢献などについての記載にとどまらず、多岐にわたる実績データを掲載しました。記載内容のみならず学校の管理・運営に関しても忌憚の無いご意見・ご批判をお待ちしております。今後とも、奈良高専の益々の社会貢献に向けて、一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和3年10月

独立行政法人国立高等専門学校機構

奈良工業高等専門学校長 後藤 景子

# 目 次

## まえがき

## 本文編

第1章 重点課題, その他特筆すべき事項 .....	1
1. 1 教務部門 .....	1
1. 2 学生部門 .....	2
1. 3 寮務・グローバル教育部門 .....	4
1. 4 専攻科・研究推進部門 .....	5
1. 5 総務部門 .....	6
1. 6 その他 .....	7
1. 7 管理運営等 .....	13
1. 7. 1 運営組織 .....	13
1. 7. 2 教員組織 .....	16
1. 7. 2. 1 専任教員の配置(現員数)状況 .....	16
1. 7. 2. 2 出身大学等の構成 .....	17
1. 7. 2. 3 年齢構成 .....	18
1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準 .....	19
1. 7. 2. 5 教員人事について .....	19
1. 7. 3 事務組織 .....	20
1. 7. 4 自己点検・評価 .....	21
第2章 学科総括 .....	23
2. 1 一般教科 .....	23
2. 2 機械工学科 .....	27
2. 3 電気工学科 .....	32
2. 4 電子制御工学科 .....	35
2. 5 情報工学科 .....	40
2. 6 物質化学工学科 .....	46
第3章 研究活動 .....	52
3. 1 教育研究支援室における研究活動 .....	52
3. 2 研究ならびに研究支援以外の活動状況 .....	52
第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト .....	54

## 資料編

### 第1章 教育に関する評価関係

資料1	入試説明会等状況	68
資料2	入学試験状況	70
資料3	編入学試験状況	71
資料4	令和2年度開講科目一覧表	72
資料5	令和2年度年間行事予定表	85
資料6	令和2年度授業時間割表(本科)	87
資料7	令和2年度特別講演会実施一覧	89
資料8	令和2年度第4学年対象進路セミナー実施一覧	90
資料9	令和2年度秋季社会工場見学, 専攻科学外研修	90
資料10	令和2年度卒業旅行一覧	90
資料11	年度別博士号取得者一覧	91
資料12	令和2年度クラブ顧問・部長・部員数一覧	92
資料13	令和2年度大会等成績一覧	93
資料14	学生会組織図	94
資料15	学生支援センター相談件数	95
資料16	令和2年度保健室利用学生数	96
資料17	平成31・令和2年度 学生事故発生件数	97
資料18	入学料免除者数	98
資料19	授業料免除者数	98
資料20	日本学生支援機構貸与奨学生採用者数	99
資料21	日本学生支援機構給付奨学生採用者数	99
資料22	進路状況	100
資料23	単車通学許可申請者	101
資料24	奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート	102
資料25	学生委員会違反件数	103
資料26	寮生数推移調	104
資料27	学寮の日課表	105
資料28	寮生会の組織	106
資料29	令和2年度学寮の年間行事	107
資料30	専攻科入学者選抜方法	108
資料31	年度別専攻科入学状況	109
資料32	専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場(令和3年度)	110
資料33	令和2年度授業時間割(専攻科)	111
資料34	専攻科特別講演会	112
資料35	専攻科修了者の進路	113

資料36	JABEE修了者進路状況	116
資料37	専攻科入学者数の推移【専攻科】	117
資料38	企業・大学等インターンシップ参加者数【専攻科】	118
資料39	専攻科生の論文等の学会発表件数【専攻科】	119
資料40	専攻科生の学外表彰実績【専攻科】	120

## 第2章 研究に関する評価関係

資料41	科学研究費等受入実績調べ	122
資料42	科学研究費採択状況一覧	123
資料43	令和2年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧	124
資料44	令和2年度 共同研究一覧	125
資料45	令和2年度 奨学寄附金一覧	126
資料46	学会賞等の受賞状況	128
資料47	特許等申請・取得状況	133

## 第3章 社会との連携，グローバル教育，男女共同参画推進関係

資料48	公開講座実施実績一覧	135
資料49	令和2年度 学市連携事業一覧	136
資料50	令和2年度 学市連携以外派遣事業一覧	136
資料51	令和2年度 展示会・地域連携事業一覧	136
資料52	施設開放状況一覧	137
資料53	留学生年度別受入一覧表	138
資料54	国際交流 派遣・受入事業一覧	139
資料55	教員の兼業状況	140
資料56	非常勤講師の配置状況	140
資料57	教務部門アンケート関係	141
資料58	総務部門アンケート関係	158

## あとがき

## 本文編

## 第1章 重点課題, その他特筆すべき事項

### 1. 1 教務部門

#### 教務委員会

#### 1. モデルコアカリキュラムによる教育の質保証の実質化 (継)

##### 1-1 授業改善のPDCAサイクル化

- ・引き続き第3ブロックAL推進研究会に参加するなど, ALやPBLの普及をさらに進める方策を検討した。また, 10月23日(金)に1~3年生を対象としてCBT型学習到達度試験を実施したが, この分析結果を教育方法の改善に生かすため教務委員会で共有した。

##### 1-2 補足的なカリキュラムの改定

- ・H31年度に改定した新カリキュラムに基づく授業の実践を通じて, カリキュラムポリシーやディプロマポリシーとの整合性を検証し, 補足的な改定をR4年度から実施できるよう改定作業を進めている。

##### 1-3 90分授業への統一化と新校時の計画

- ・H31年度に引き続き一般教科の一科目だけ協力が得られなかった。補足的なカリキュラム改定を予定しているR4年度には統一化の実現を図る。

#### 2. 新制度の検証 (継)

##### 2-1 入試制度

- ・H31年度入試より選抜方法を変更し, 推薦選抜に「女性エンジニアリーダー養成枠」を設けた。特定の学科に受験者が集中するのを避けるためR2年度から志望学科を第二希望まで可とし, R3年度入試では, 特定の学科に受験者が集中することは避けられた。学力選抜における変更点として, 5教科の学力検査の成績に中学2年と3年の9教科の成績を加味して総合的に合否を判定することとしたが, 学力試験の成績が高くない受験者が一定数合格しており, 今後も入学後の成績との相関など引き続き検証を行なっていく。

また, R3年度入試では志願者倍率がR2年度はコロナ禍のため, 感染予防対策を行なったうえで学校・入試説明会, 入試個別相談会は行なったものの, 夏の体験入学, 随時対応の学校見学会は実施を見送った。この影響が志願者倍率にどの程度影響したか検証する必要がある。

##### 2-2 進級認定制度

- ・H31年度進級要件を欠く者は60名, 内R2年度留年者は45名, R2度初めからの休



学者は 11 名であった。R2 年度進級要件を欠く者は 50 名、内 R3 年度留年者は 35 名、R2 年度初めからの休学者は 9 名である。

### 2-3 担任制度

- ・H30 年度より 1・2 年生を一般教科が、3・4 年生を専門学科が担当する新担任制度を発足させたが、学年主任制も含めて、担任が 2 回りする来 R4 年度に総括を行う予定である。

## 教育支援センター

1. 情報リテラシー教育及び情報セキュリティ教育の定常化（継）
  - ・全学生を対象とした Microsoft365 利用のための e-ラーニングを実施した。
2. 無線 LAN の教育・研究への利用促進（継）
  - ・無線 LAN アクセスポイントの増設、課外教育共用施設への LAN の敷設等を行なった。
3. 新図書館内の施設・設備の利用促進（新）
  - ・ラーニングcommonsの利用に関する申合せの制定などを行なった。
4. 情報関連業務の分担に関する考え方の整理（継）
  - ・教育研究支援室や事務電算室との間で業務の分担が定まってきたが、引き続き関係部署とともに検討する。

## R3 年度への課題

- 1) 教育支援センターとしての今後の ICT 環境の整備の方向性。
- 2) 情報リテラシー教育及び情報セキュリティ教育の充実。
- 3) 遠隔授業対応も考えた Microsoft365 のアカウント・セキュリティーグループの管理方法。
- 4) 無線 LAN の教育・研究への利用促進を考えたアクセスポイントの増設・運用方針の整理。
- 5) 図書館棟の施設・設備の利用促進。
- 6) FAB スペースの利用法と設備の運用方針の整理。 など

## 1. 2 学生部門

### 学生委員会

- 1 課外活動の在り方に関する総合的な方針に基づく教員業務の適正化の検討（継続）

「高専における課外活動の在り方に関する総合的な方針」に基づいて、H31 年度に「課外活動における休養日および活動時間に関する申し合わせ」を改正した。 R2 年

度は、この申し合わせを運用し、課題を見つけ問題点を修正することを予定。しかしながら、新型コロナウイルス感染症のため、7月まで課外活動は実施されなかった。

8月以降、段階的な課外活動の開始にあたって、学生に改正された内容を説明。同時に、申し合わせにある活動方針よりも活動条件が制限された、「課外活動の段階的開始のためのステップ」に従って、クラブごとに「クラブ活動チェックリスト」を作成し、感染防止対策を講じた上で課外活動を段階的に開始した。

このため、現在は改正された申し合わせにしたがった活動がされている状況ではないが、土日に必ず休養日を1日以上設定すること。平日についても1日以上の休養日を設定し、1週間に2日の休養日を設定することについて実施されている。また、活動時間についても、申し合わせにしたがって活動されている。また、年間の活動計画にならびに月間計画についても作成されている状況である。

一方で、10のクラブが外部コーチの制度を利用しているが、課外活動指導員の制度化にはいたっていない。

## 学生支援センター

### 1 学生支援センターの運営体制の構築（継続）

学生支援センターの運営体制は、H31年度に整備した学生相談部会と障害学生支援部会の2部会体制を継続した。また、いじめ対策に関連する組織づくりについて学生委員会と協力し、「奈良工業高等学校いじめ防止等のための基本計画」に基づき策定された「いじめ防止プログラム」の一環として、「学校適応感尺度調査」に設問を追加し、いじめ実態の把握のための調査を実施した。該当者に対しては調査、ヒアリングを行い、適切な体制で見守って行くこととした。

学生相談部会では、学生支援にあたって、必要な場合に依りて学生支援センター構成員と関係教職員で支援チームを結成し、特に議論の要する事案については支援の方策を部会で議論する体制を継続した。

カウンセリングについては、コロナ禍による登校禁止遠隔授業時は電話等による遠隔相談を実施し、遠隔授業等での不安解消のために、「スクールカウンセラーからのメッセージ」として3件の支援動画を制作し公開した。また、カウンセラーを身近に感じてもらうために、1年生全クラスにおいてクラス毎に、自己紹介を中心とするワークショップをカウンセラーがメンターとなり行なった。相談室「きららか相談室」は、社会福祉士・公認心理師1名、臨床心理士3名、特別相談員1名の体制で、月曜日から金曜日までカウンセリングを継続実施した。さらに、昼休みに学生支援副センター長が「きららか相談室」に常駐する体制を継続した。また、スクールソーシャル

ワーカーが、月曜日に勤務し、教員との情報交換・相談、学生とのカウンセリング、各部会会議同席、児童相談所等の関係機関との情報交換等を行う体制を継続して行なった。

障害学生支援部会では、「高専生活指導カード」により、支援を要する学生の実態把握と、配慮が必要な学生に対しては、早期に、面談・カウンセリングを実施する体制を継続した。R2年度、性同一性障害のある学生が入学し、合理的配慮の申請を受け、更衣時の多目的トイレの優先的な利用、通名での名列記載、女子の制服許可等の配慮を行なった。R2年度は19名が合理的配慮を要する学生として支援を行なった。

### 1. 3 寮務・グローバル教育部門

#### 寮務委員会

##### 1. 安全な寮生活のための環境整備

1-1 推薦入試制度の変更(女性エンジニアリーダー養成枠)に伴い女子寮生数の増加が見込まれるため、女子寮生の定員増が具体化した際の寮の在り方について、規則や宿直の方法などを検討する。(継続)

- R3年度概算要求事業において、管理棟居室の女子寮化を申請したが採用されなかった。R4年度概算要求事業に継続して申請する予定である。
- 女子寮生への生活指導や心のケアを行なっていただくために女性教員の宿直について検討したが、宿直環境が整備されていないことから継続して検討することとした。

##### 2. 寮業務の効率化

2-1 教員の負担軽減を目的として、土日祝宿直の外注化の実現した際を見据え、宿直に関する規定や申し合わせの改訂を行う。(継続)

- 土日祝宿直業務の外注化仕様書を作成した。今後、外注化の実現に向けて、仕様書の充実を図り、委託先を探し見積りを依頼する。

2-2 学寮関係教職員の負担軽減を目的として、H31年度導入した学寮管理システムについて、さらに、既存の寮電子システムの改善を行い、点呼システムをさらに実装することで、宿直教員の点呼業務の効率化をはかる。(継続)

- コロナ禍ルールにおいてシステムによる点呼を実現した。

#### グローバル教育センター

1. 海外インターンシップ派遣先(2週間程度)の新規開拓(継)

- コロナ禍のため派遣先を開拓できなかった。R3 年度以降、インターンシップ派遣先の開拓を継続する。
2. グローバルエンジニア育成事業による GEP/GECEP 運用 (継)
- GEP ベーシックプログラム 1 名, GECEP アドバンスプログラム 7 名の修了を認定した。
  - IVE/VTC との学術交流に関する MOU を更新した。Malaya 大学と学術交流に関する MOU を締結した。

#### 1. 4 専攻科・研究推進部門

##### 専攻科委員会

##### 1. 連携教育による新たな人材育成 (継続)

R2 年度より豊橋技術科学大学との連携教育プログラム「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」が開始されたが、専攻科 1 年生 3 名の履修学生の就学が円滑に進むようにフォローアップを行なった。また、取りまとめ校を中心にメンター教員雇用のためのクロスアポイントメント協定書の作成や連携大学・高専間で協議会を開催し、課題への対応等について協議を進めた。

##### 2. 近隣大学・大学院との教育研究の連携に向けた検討 (継続)

奈良先端科学技術大学院大学との包括協定の具体的な活動として共同研究マッチングの実施を予定していたが、R2 年度は実施できなかった。3 月に協議を再開し、R3 年度に向けて共同研究・学生の人材育成を目指した教育研究の連携について早期の制度化を目指すこととなった。

##### 3. 専攻科入学者定員の適正化 (新規)

高専機構第 3 期中期計画期間中に増員が認められなかった専攻科定員に対して、募集定員の 1.3 倍を超える入学者は、定員の適正化が必要との認識のもと議論を重ねた結果、推薦入試の合格者を 6 名以内から 4 名以内に変更した。また、学力入試において専門科目の配点を 150 点から 200 点に変更することとなった。

##### 4. 専攻科特例認定にかかる取り組み (新規)

高専機構第 4 期中期目標・計画に掲げる専攻科の充実には「不適」教員の削減が重要な課題であるため、全教員の研究力強化も含めて検討する必要がある。高専機構が 9 月より 2 年間パイロット校を対象に実施する「研究力強化プログラム」に参画した。本プログラムは校長が推薦した 4 名のプログラム対象者に対して、2 名の研究活動メンターを配して継続的な研究進捗管理と成果管理を行うものである。

## 5. 研究費の傾斜配分方法の検討（新規）

科学研究費の申請・採択や外部資金の獲得を基に傾斜配分してきた研究費を見直し、新しい配分方法について検討している。

## 産学協働研究センター

### 1. 研究の特色化への取り組み（継続）

R2年度も特色ある研究プロジェクト「農林業×工学連携プロジェクト」、「間伐材イノベーションで林業復興を目指す取り組み」、「超スマート社会に向けた ICT・IoT/エネルギー融合技術の開発」の3テーマへ校長裁量経費により30万円の配分を行った。先に記載した2テーマはH30年度からの継続テーマであり、残り1テーマはH31年度からの継続テーマである。学内外へ特色研究の取り組みを公表するため、本校ホームページにイメージしやすい図を取り入れるとともに、各テーマにおけるH31年度の報告書を掲載した。

### 2. 共通機器管理センターの展開（継続）

R2年4月より全学組織である「共通機器管理センター」を設置し、学内の分析機器について学科・専攻横断的な共有化を図っている。また、研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム（SHARE）において、大阪大学が主幹する「阪奈機器共用ネットワーク」へ大阪市立大学とともに参画し、学外機関との分析機器の共用化や保有する分析技術などの提供も行なってきた。今後はR2年度の補正予算を財源とする「先端研究設備整備補助事業」の採択を受け、研究施設・設備・機器のリモート化・スマート化による環境整備をさらに推し進める予定である。

## 1. 5 総務部門

### 総務委員会

#### 1. 教育の質保証のシステムづくりを検討(継)

原則は、「全学、カリキュラム（学科）、クラス（授業）」の三層のPDCAサイクルをもって教育の質保証を行う。

2020年度はそれに伴って、各種の規定、要項、申し合わせおよび様式の制定や改定を行なった。

また、チェック(C)として認証評価の観点に即して各種の意見聴取を実施したが、学校報告会や公開授業などコロナ禍で、縮小や中止となるものもあった。

今後は、データ分析(教学IR)が課題と思われる。

#### 2. R2(2020)年度認証評価対応準備(継)

機関別認証評価を受審し、自己報告書を提出し、オンラインによる訪問調査を受けた。2月の時点では、正式結果は出ていないが、特に問題なく認証されるものと考えている。

## 広報センター

### 1. 合理的な入試広報の検討(継)

コロナ禍で本校実施の体験入学や外部の塾主催の説明会など、多くの行事が中止された。オンラインの進学相談会や、ビデオ広報動画の作成、キャンパスガイド(学校案内リーフレット)配布を近郊中学校への依頼するなど新しい取り組みも行なった。このような特殊な状況で単年度評価することが正確かはわからないが、入試倍率は不振であった。

### 2. 本校公式ホームページのリニューアルの検討(継)

公式 SNS について、ルール整備と合わせ、ホームページとの連携を実施した。ホームページそのもののリニューアルについては、費用の大きさもあることから、継続して検討を進める。

### 3. 本校在学生への効果的な広報の検討(新規)

コロナ禍で学生活動が制限され、CAMPUS 秋号の発行を見送った。デジタルサイネージの設置について検討を行なったが、費用の大きさもあることから、継続して検討を進める。

## 1. 6 その他

### 教育研究支援室

#### 1. 新体制の整備

##### 1-1 班編成廃止に伴う人員の再配置(継)

◎R4 年度から本格運用を開始する「ものづくり領域(3名)」、「機械・電気・電子制御領域(3名)」、「ネットワーク・情報領域(3名)」、「機器分析、化学領域(2名)」の4つの領域による支援体制を構築するための体制を整えた。

- ・各領域間で受渡しが必要な業務を整理するため、教育研究支援室運営委員会の構成メンバーを各領域(4つの領域)からの代表者とし、各領域間での情報共有等を積極的に行える体制を整えた。
- ・新体制下における実験・実習科目の人員配置を明確にし、技術職員間で引継ぎや情報共有が必要となる授業科目を「見学科目」として技術職員毎に示し新体制移行後の授業支援業務を相互に理解するための体制を整えた。

◎実験・実習への支援体制については、新体制を想定した人員配置が進んでいる部分と、従来の支援体制を継続せざるを得ない部分がある。R3 年度末までを移行措置期間として、各学科との協議・調整を継続していく予定である。

1-2 業務内容の把握・整理（依頼申請書による業務、および依頼申請書を必要としない業務の精査）（継）

◎「業務支援依頼申請書」について、提出～審議の手続き不要で行う業務（口頭による依頼ではなく、技術長補佐（業務分担担当）の文書、または、メールによる依頼に限る）について整理し、業務支援依頼申請書の処理件数削減を行なった。

◎学内諸行事への支援等で「業務支援依頼申請書」の提出を不要とした業務について、技術長補佐（業務分担担当）へ集約し、可能な範囲ではあるが各技術職員への業務負担が均等となるよう整理を行なった。

◎R3 年度に向けて、時間割担当の教務委員が交代することとなったが H31 年度に整備した、教務委員と連携して実験・実習科目のコマ入れを進める体制を継続することができた。また、R3 年度前期の授業支援において各学科からの要望に対応しつつ、概ね新体制を想定した人員配置を行うことができた。

## 2. 教育研究支援室居室の運用（新）

◎R2 年 4 月 16 日から本館北棟 3 階に常勤技術職員 11 名が入る居室として「教育研究支援室」の運用を開始した。情報共有や相互支援体制の確立を目的とし各領域の職員が集まる形の座席配置とした。

◎教育研究支援室の開室について、教職員への周知は行われているが学生への正式な周知が遅れている。今後は学生に向けて、技術職員の所在する場所としての認知度を向上させ、学生からの質問や提出物の受取り等を行う場所として定着させる必要がある。

## 3. 実習工場の位置付け再確認（継）

◎学内共同利用施設としての利便性を保ちながら、新体制下における人員配置での運用体制確立を目指し業務内容を精査する作業を進めている。R3 年度末までを移

行措置期間として調整を行なっている。

◎学内利用者の利便性、担当領域職員の業務量軽減等の目的から、Web 予約システムの導入を検討中である。

◎実習工場の運用を【教員と技術職員が協働で行う】体制については引き続き検討中である。

## 施設整備委員会

### 1. キャンパスマスタープランの再検討（継）

高専機構本部のインフラ長寿命化計画（個別施設計画）の策定に向けて、H30年9月に建物別の改修順位付けを行なったが、本部からの指示により、R6年度までの順位は概算要求事業として確定している状況で、R7年度以降の改修予定分については見直し・検討を行なったうえで、R6年度までの確定分と併せてキャンパスマスタープランに反映させる予定である。

### 2. スペースの有効利用（新）

「奈良工業高等専門学校スペースの利用に関する取扱要項」の改正及びスペースの利用状況調査について検討した。

現行の取扱要項については、様式を整理し申請手続きの簡素化を図るよう改正案を作成する予定である。

利用状況調査については、R3年度夏頃を目途に実施予定である。

## 男女共同参画推進委員会

### 1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）（継）

2020年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の事業計画に基づき、以下の①～④の取り組みを行なった。

#### ①連携体制・ダイバーシティ研究環境整備 『研究支援員制度の実施』

- ✓ 女性研究者や若手研究者のための研究支援システム（きららか研究支援員制度）を継続して実施した。（6名に配置）
- ✓ ならっこネットの共同利用を開始した。（R2年度利用実績 2名）



## ②女性研究者の研究力向上

- ✓ 共同実施機関のセミナー及び異分野研究交流カフェに教職員が参加した。(3回)
- ✓ 「R2年度共同研究スタートアップ支援経費」において、4件の採択があった。(研究代表者:奈良女子大学2件,奈良工業高等専門学校1件,武庫川女子大学1件)  
(連携6機関)
- ✓ R2年度ダイバーシティ推進センター女性研究者賞を受賞した奈良高専受賞者1名に対し,授賞式を開催した。
- ✓ きららかセミナーを10/9,10/16,11/13,11/20,11/27,12/4,12/11,12/18,12/25実施した。(学内女性教員だけでなく企業女性技術者も参加した。企業技術者の延参加数は63名,うち24名が女性である)

## ③女性研究者の採用・上位職登用・裾野拡大・その他『女性研究者の採用』

- ✓ 女性限定公募,女性優先公募を実施した。助教1名(一般教科 数学),専門学科の准教授1名を4月1日以降,採用を予定している。

## ④その他

3機関が実施した3種類のダイバーシティ関連のシンポジウム,奈良女子大が開催した管理職向けFD研修会に教職員が参加した。

『奈良高専の情報発信』

- ✓ 「大学等における男女共同参画推進セミナー」(国立女性教育会館主催)において本校の女子学生教育の取り組みを発表した。
- ✓ 電気通信大学主催(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型))「withコロナ時代の働き方を考える」にパネリストとして参加した。
- ✓ ダイバーシティの取り組みについてホームページにて情報発信を行なっている。

## 女性エンジニア養成推進センター運営委員会

1. しなやかエンジニア教育プログラムベーシックコースの円滑な実施(継)
  - ・ コロナの影響で,予定していた講師を招聘できなかったが,その代わり,2年生はH31年度の講義を教材コンテンツにする課題を授業とした。また,1年生は,そのコンテンツを見て,学んだ。
2. しなやかエンジニア教育プログラムアドバンストコースの円滑な実施(新)
  - ・ 順調に実施できた。学生の評価も高かった。
3. R3年度以降の長期的なプログラムの運用計画の立案(複数学年になった場合の運

用など) (継)

- ・ コロナ対応などもあり、未検討だった。R3年度の継続課題とする。

#### 4. 高専フォーラムのオーガナイズドセッションの開催など全国高専への水平展開 (継)

- ・ オーガナイズドセッションはできなかったが、ポスターセッションで報告を行なった。

### 総務課

#### 1. 人事管理

##### 1-1 第4期教員人員枠(教育体制整備)に基づく人事マネジメント (継)

校長預かり枠を設置し、本校運営上必要な情報関係、機器共用関係の業務に専任教員を配置した。

また、R4年度以降の教員数縮減に向けた運営体制の協議を開始した。

##### 1-2 働き方改革関連法の対応(年休5日取得、長時間労働者の健康管理) (継)

常勤教職員についてR3年3月末時点で年休5日間取得を完了した。

教員の勤務時間についてタイムカード管理をしており、従来、月当たり超過勤務時間が多い教員については校長がヒアリングを行なっていたがR2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。引き続き及び是正策を協議する。職員については労使協定に基づき超過勤務に対応しており、延長することができる時間を超える場合、所属長に理由書を提出させ、状況把握及び是正策の協議を行なっている。

### 総務課・学生課

#### 2. 学内管理運営

##### 2-1 危機管理マニュアルの整備(感染症対応の整備) (継)

→どちらかというとな型新型コロナウイルス感染防止の取り組みに含まれるが、マニュアル・ガイドラインについては以下のとおり

新型コロナウイルス感染拡大のもとにおいて、危機管理対策本部のもと主に以下のものを整備したところである。また、各部門や各学科等においても、各種ガイドライン等を作成してきたところである。

- ・ 「新型コロナウイルス感染防止対策下での授業実施ガイドライン」

- ・ 「新型コロナウイルス感染症対策のための学生生活ハンドブック」
- ・ 「研究活動のためのガイドライン」
- ・ 「感染の疑いから感染までの行動・連絡について」（学生向け，新型コロナウイルスの感染に関する行動・連絡フローチャートや感染したとき等の連絡フォームも含む）
- ・ 「新型コロナウイルス感染防止のための奈良工業高等専門学校活動基準表」

## 2-2 行事等の削減，見直し(継)

委員会開催において，教職員会議のオンライン化，電子資料化を促進した。  
卒業式・修了式について新型コロナウイルス禍に対応する縮減実施を図った。  
新型コロナウイルス禍の折，積極的に削減をした学校行事はなかった。

## 2-3 緊急メール連絡網の運用について(継)

新型コロナウイルス感染拡大の影響等を受けて，学校の授業や行事の実施等に関する連絡（特に学校休業期間中）は奈良高専の web を通じて行なってきたところではある。奈良高専の web サイトによる緊急連絡を行なった際には，併行して緊急メール連絡網によりあわせて連絡してきた。これにより，保護者等は，常時奈良高専のサイトを確認しなくても，同連絡網を通じてほぼリアルタイムに緊急のお知らせを知ることができるというメリットを享受できたものと考えられる。

これまでも登録率が 100%に達していない（登録対象 1,319 件中登録なし・停止中は教職員・学生含めて 94 件）等の課題はあるが，上記システムのメリット等を保護者及び担任等に理解していただきながら，引き続き登録率の向上を進めていくことになる。

<保護者へのメリット(例)>

- ・ 学校からの緊急連絡について同連絡網を通じてリアルタイムに知ることができる。

<担任等のメリット(例)>

- ・ 大規模災害発生時には，担任等が自身の担任する学生の安否確認等を行う必要があるが，同システムを活用することにより，担任が個別に連絡することなく同システムを通じて確認することができる。

また，R2 年度から進んでいる teams による連絡等とのすみわけや整理等についても R3 年度以降の検討すべき課題である。（学生間では teams による連絡が普及しているところではあるが，緊急メール連絡網については保護者への緊急連絡手

段として引き続き活用していくかどうか、同システムの他機能（欠席連絡機能等）をどのように活用していくか）

## 総務課

### 3. その他特記案件

#### 3-1 情報関係業務体制の整備（継）

R2年度より情報セキュリティ管理委員会（5回）、情報セキュリティ推進委員会（2回）を実施し、情報関係業務体制を稼働した。

これら委員会の稼働により、規程、要項制定・改正を行い、実務上、必要な調整を図ることができた。

## 1. 7 管理運営等

### 1. 7. 1 運営組織

H16年度から運営委員会（現 運営会議）で集約できるものは運営委員会で行うこととし、その下で少人数により行うワーキングの立ち上げや小委員会設置を含めた改善を行なった。また、H17年度にJABEE受審、H18年度に認証評価への対応、H19年度に障害学生支援、H20年度に国際交流、H21年度に人事委員会、H24年度に男女共同参画推進、H26年度にハラスメント相談室の再編及び学生相談室との業務内容の見直し、人権教育推進・いじめ防止対策委員会の再編、H27年度に広報委員会の整備を図る等近年の教育現場での諸問題に対応するため随時委員会等の体制整備を行なった。また文部科学省が公募した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、奈良女子大学との協働による取組「共創郷育：「やまと」再構築プロジェクト」が採択され、本校が「地（知）の拠点大学」として文部科学省の認定を受けたことを受け、新たにCOC+実施本部、地域創生研究センター運営委員会、地域創生マインド養成教育プログラム開発委員会を設置した。

H28年度には、本校を地域イノベーションの拠点とする活動を通じて、産学官金協働による知的資源の創造と地域経済の活性化に資することを目的とした「奈良高専地域イノベーションコンソーシアム」を設立した。これにより地域産業界と、より一層の連携・交流を深めていくことができる体制ができた。

H29年度には、国際交流委員会と留学生委員会をグローバル教育センター運営委員会に統合し、更なるグローバル教育推進のための体制を整えた。

H30年度には、学内業務の効率化、教職員業務の平滑化、責任体制の明確化、運営体制の強化及び本校の特色化等のため、校長補佐（グローバル教育担当、研究推進担当、総務担当）を新設し、それぞれ寮務・グローバル教育部門、専攻科・研究推進部門、総務部門

を担当することとした。また、組織体制及び管理運用適正化のため、大幅に委員会等の数を削減し担当内容の見直しを行なった。

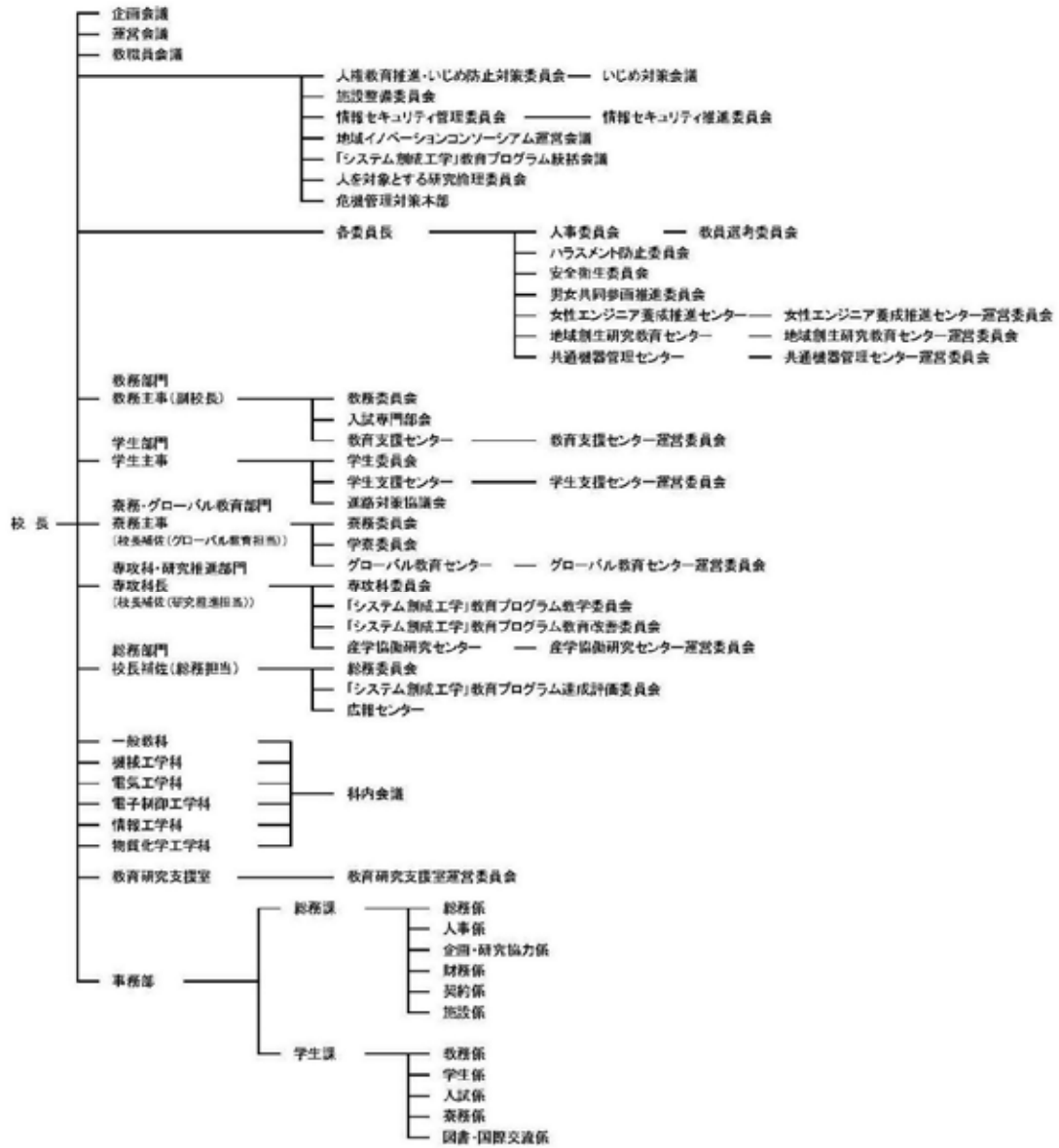
H31年度には、第1学年の学年主任を新たに配置し、学生指導の面において学科の枠を超え学年を通して指導方針を統一できた他、施設整備委員会委員に3主事及び事務部長を追加したことにより施設整備計画を学内で共有できる体制とした。また、将来計画委員会と点検・評価委員会を総務委員会に統合し、組織体制を整えた。

R2年度には、第2学年についても学年主任を新たに配置した。また、我が国の研究開発投資効果の最大化等のため研究設備・機器の共用化を促進させる科学技術振興機構（JST）先端研究基盤共用促進事業（H29年度新たな共用システム導入支援プログラム）の後継として共通機器管理センターを起ち上げた。その他、事務組織について、業務合理化及び業務に応じた人員の適正配置のため、組織体制を整えた。

なお、R3年度に向け、更なる組織体制及び管理運用について引き続き検討していく。

※ R2年度の運営組織図を次ページに示す。

## R2年度の運営組織図



## 1. 7. 2 教員組織

### 1. 7. 2. 1 専任教員の配置（現員数）状況

本校教員数の配置（現員数）は次のとおりである。

（令和3年5月1日現在）

所属 職名	校 長	一般教科	機械 工学科	電気 工学科	電子制御 工学科	情報 工学科	物質化学 工学科	合 計
校 長	1							1
教 授		6	5	3	4	5	6	29
准教授		8	4	5	4	4	5	30
講 師		3		1				4
助 教		6		1	2	1	1	11
合 計	1	23	9	10	10	10	12	75

※その他に次の教員が在籍。

電気工学科 嘱託教授1名（短時間再雇用教員）

電子制御工学科 嘱託教授1名（短時間再雇用教員）

### 1. 7. 2. 2 出身大学等の構成

本校教員の出身大学等の構成は、次のとおりである。

(令和3年5月1日現在)

大 学 名	人数	大 学 名	人数
北海道大学	2	徳島大学	1
東北大学	1	九州大学	1
東京大学	1	佐賀大学	1
東京農工大学	1	宮崎大学	1
電気通信大学	2	琉球大学	1
金沢大学	1	富山県立大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1	大阪府立大学	3
岐阜大学	1	大阪市立大学	3
豊橋技術科学大学	5	神戸市立外国語大学	1
名古屋工業大学	1	東京工芸大学	1
京都大学	4	法政大学	1
奈良教育大学	3	明治大学	1
奈良女子大学	1	同志社大学	4
奈良先端科学技術大学院大学	4	立命館大学	2
大阪大学	10	関西大学	2
神戸大学	4	近畿大学	1
広島大学	1	大阪電気通信大学	1
鳥取大学	1	関西学院大学	1
岡山大学	1	外国の大学・その他	2
山口大学	1	(うち本校卒業者)	7



### 1. 7. 2. 3 年齢構成

本校教員の年齢構成は次のとおりである。

全教員75名の平均年齢は46.6歳であり、そのうち教授（29名）は54.1歳，准教授（30名）は44.7歳，講師（4名）は37.3歳，助教（11名）は33.8歳である（次表参照）。

（令和3年5月1日現在）

年 齢	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
67							0
66	1						1
65							0
64							0
63		1					1
62		2					2
61		1	1				2
60		2					2
59		2	1				3
58			1				1
57		4					4
56							0
55		1					1
54		3					3
53		1					1
52		4	1				5
51		1	1				2
50							0
49			1				1
48		3			1		4
47			3				3
46		2	3				5
45		1	3				4
44		1		1			2
43			4				4
42			1				1
41			2				2
40			1				1
39			1				1
38			2	1			3
37			1				1
36			2		1		3
35			1		2		3
34				1	1		2
33				1			1
32					2		2
31					1		1
30					2		2
29							0
28					1		1
合計	1	29	30	4	11	0	75

#### 1. 7. 2. 4 採用・昇任等の手順・基準

教員の採用・昇任等については優秀な人材をより公正に選考するため、校長の諮問機関である人事委員会において、採用の場合は教員選考委員会から、昇任の場合は学科から推薦のあった任用候補者について、奈良工業高等専門学校教員選考基準を踏まえて審査している。

#### 1. 7. 2. 5 教員人事について

新規採用については、教員の退職等に伴う補充人事であるのが一般的である。したがって、当該教員の専門分野を継承する人材の採用が原則となっている。一方、H29年度以降は学生支援専任教員や女性エンジニア養成推進センター担当教員を採用する等、全学的な重点課題へ対応するための新たな教員人事も行なっている。

H30年11月には、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保する観点から、人事委員会の下に教員選考委員会を新設した。当委員会において公募要領の作成並びに応募書類及び面接（模擬授業を含む）により、候補者の選考審査を行うこととした。採用にあたっては採用予定者を人事委員会へ推薦し審議する。人事委員会の承認後、校長が最終的な決定を行なっている。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標にも掲げられているとおり、優れた教員を確保するため、教授、准教授について本校以外の勤務経験者、長期海外研究・経済協力者の占める割合を向上させることや、高専のみならず、大学を含めて採用校以外への人事交流を活性化させること等が必要である。

### 1. 7. 3 事務組織

本校における、事務部職員の配置状況は次のとおりである。

(令和3年5月1日現在)

課名	係名	部長	課長補佐・ 専門職員		係長・ 専門職員		主任		一般職員		看護師	計	再雇用・ 有期雇用・ 非常勤					合計	
			事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系	事務系	技術系			再雇用職員	事務補佐員	技術補佐員	技能補佐員	臨時用務員		その他
	部長	1										1							1
総務課	課長	1										1							1
	課長補佐		1									1							1
	総務係				1		1					2	1					1	4
	人事係				1		1		1			3	1						4
	企画・研究協力係				1		1					2	1				1		4
	事務電算担当				1							1							1
	財務係				1		1		1			3	2						5
	契約係				2		1					3	2						5
	施設係					1		1				2	1						3
	計	1	1	0	7	1	5	1	2	0	0	18	0	8	0	0	0	2	28
学生課	課長	1										1							1
	教務係				1		1		2			4	1						5
	学生係				1		1		1		1	4	1	1				4	10
	寮務係											0	1	1		3	1		6
	入試係				1				1			2							2
	図書・国際交流係				1		1					2	2	3					7
		計	1	0	0	4	0	3	0	4	0	1	13	4	6	0	3	1	4
教育研究支援室				3		6				2		11			3				14
電気工学科												0	1						1
電子制御工学科												0	1						1
物質化学工学科												0		1					1
合計		3	1	3	11	7	8	1	6	2	1	43	4	16	4	3	1	6	77

#### 1. 7. 4 自己点検・評価

本章においては、管理運営等にかかるこれまでの取り組みを自己点検・評価し、次年度以降の課題を明確にして、その改善を図る。

##### ○運営組織について

- ・ H29 年度に国際交流委員会と留学生委員会をグローバル教育センター運営委員会に統合し、更なるグローバル教育推進のための体制を整えたことは、高専機構が重要事項として掲げている「国際化」に対応しており、優れた取り組みである。
- ・ H30 年度に校長補佐にグローバル教育，研究推進，総務の各担当を新設し，それぞれ寮務・グローバル教育，専攻科・研究推進，総務の各部門を担当することにより責任体制を明確にし，運営体制の強化をもたらしたことは評価できる。
- ・ H31 年度に第 1 学年における学年主任の新たな配置による学科の枠を超えた学生指導方針の統一，施設整備委員への 3 主事及び事務部長の追加による施設整備計画の学内共有体制の確立及び将来計画委員会と点検・評価委員会の総務委員会への統合は組織体制の強化をもたらした。
- ・ R2 年度に第 2 学年にも学年主任を配置し，更なる学生指導方針の統一を図ることができた。また，全学組織として，共通機器管理センター（JST 先端研究基盤共用促進事業後継）を設置し，同センターに登録される設備機器の学内共用や学外からの利用を促進し，産学官連携推進を強化した。

##### ○教員組織について

- ・ 高専機構における教員数の管理は定員数管理となっており，その枠内において各校の裁量による職種間流用が行われている。本校においては主として講師・助教層に流用することにより，教育・研究活動を推進している。
- ・ 教員の出身大学等は，北海道から沖縄までの国公私立大学及び外国の大学と幅広く，多様な人材により構成されていることがわかる。なお，教員の年齢構成は全世代間に広がっていることから，適正であると判断できる。
- ・ 採用等に関しては，広く公募を行い本校選考基準に基づき選考をするとともに，模擬授業を行わせることで，研究実績だけではなく，講義力のある優秀な人材の確保を図っている。
- ・ 女性教員の採用・登用の促進等，男女共同参画推進を図るための取り組みとして，第 4 期中期目標・計画期間における教員人員枠を考慮に入れながら，各学科の基本人員枠を設定するとともに，当該人員枠を超過したポストを校長預かりポストとして管理

し、当該ポストを女性教員限定公募に使用することにより女性教員の増加につながっていることは評価できる。

- ・ 人事委員会の下に教員選考委員会を新設することにより、優れた人材の確保及び教員の採用・昇任等選考体制における公正性・透明性を担保している。

○事務組織について

- ・ 事務分掌が現状と一致していない箇所や各係等において重複している箇所があり、連携して業務を遂行しようとする意識が希薄となっている。業務の効率化を図るためにも、事務分掌の見直し及び明確化が必要である。

## 第2章 学科総括

### 2.1 一般教科

幅広い視野と教養、豊かな人間性とコミュニケーション能力、創造力と実践能力を有した技術者を育成するため、各専門学科と連携しながら教育実践を行なっている。本校での5年間あるいは専攻科を含む7年間にわたる教育をより効果的に行うため、特に本科低学年での基礎学力の獲得に重点をおいた指導を心掛けてきた。学力を定着させるには、通常の授業での学習に加え、自学自習の習慣付けが欠かせない。それには、日頃から適当な課題を課し、地道に指導を行うことが肝要となる。各学生の必要性に応じた補習や補講も必要である。

以下では学校全体の協力も得つつ、R2年度に行なった取組について述べる。

#### (1) 教育手段

##### ① 授業での取組と自学自習指導

H31年度に実施したカリキュラム改訂では、とくに本科3年次以降の実施科目の大半を、自学自習を前提とする学修単位とし、学生のより積極的な学習態度の育成を促すことを狙っている。R2年度についても同様のカリキュラムに準じて授業を行なった。また、R2年度における新たな取組は新型コロナウイルス感染症対策であり、その一環として、①Teamsを活用した遠隔授業、及び②「対面（面接）授業実施のためのガイドライン」の作成とそれに準じた対面授業を全授業において実施した。

教科ごとの具体的な取組内容は以下のとおりである。これ以外にも各教室に導入されたプロジェクターを活用した視聴覚教材の利用、授業におけるノート指導や長期休暇中の課題提出など、様々な基本的教育指導の取組があり、いずれについても教員間で情報交換しつつ工夫が重ねられてもいる。

国語：様々な文章が読め、多様なものの見方・考え方が身に付き、自分の考えを言葉で表現できるようにするため、文学作品や評論等の読解を行い、作文等の機会を設けた。毎回課題や小テストを課し学習習慣の定着や基本的語彙の習得を図った。また、グループワークで学生のアクティビティを取り入れることに学習効果を高めた。その他、論理的に「読む」ことを意識した教材を試行的に導入しているほか、「日本文化学」（5年次）は工学系の学生に幅広く文化への関心を持たせる科目としている。

社会：教科の特質を生かした技術者養成という観点から、奈良県の地域文化・産業に焦点をあてた学習を展開している。H31年度に引き続き、本科1年から専攻科にかけて地域を理解するための体系的な教育プログラムを実施し、発表を含めた実践【地理（1年次）・政治経済（3年次）・社会科学特論（5年次）・地域と世界の文化論（専攻科2年次）】、

さらにその過程で県内の行政機関や金融機関，企業と「協働」で授業を実施した。

数学：世の中の様々な事象を数学的に考察し対処する能力を身に着けるため，低学年では関数，方程式，図形，数え上げを扱い基礎力をつける，高学年では体系的に微分積分，線形代数，専門科目にすぐ繋がる応用数学を扱って応用力をつける授業を実施した。計算力をつけ知識を定着させるために課題を頻繁に出し自学自習を促した。長期休暇には専門書を自力で読む力を養うため，学習意欲を引き出すため，教科書の予習課題を各学年で出した。

理科（物理・化学・生物）：物理では数式による自然現象の記述方法や数学によって自然現象を説明する論理展開の力の養成を図り，化学・生物では化学の基礎的知識から生体高分子化学・環境問題との関連まで幅広く理解させるとともに，学生の理解を深めるための演習実験やクラス全員が取り組む実験を積極的に取り入れた。また，高専機構コアカリキュラム対応のため，全学科について新授業科目，地球惑星物理と生物（各1単位）の授業を実施している。

英語：各専門分野の英語で書かれた論文や解説書を理解し，かつ英語で論文や報告書を作成できる力を習得すること，一方で国際学会に出席する，あるいは就職後に海外に派遣される場合に支障がない程度の英語によるコミュニケーション能力を習得することを目的として授業を行なった。リスニングなどのコミュニケーション力養成はもちろん，教材ごとに文法・構文に留意し正確な解釈をする精読にも重点を置き，学習内容の定着を図る小テストや単語テストも常時実施している。

体育：5年間を通じて「保健体育」の授業を体系的に実施することで，運動技能の習得のみならず，健全な心身および社会性，生涯にわたってスポーツや武道などの身体運動に親しむ実践的な態度や知識を効果的に育成することを目的として授業を行なった。H31年度に引き続き「ニュー・スポーツ」（トランポリン，ミニ・テニス，セパ・タクロウ，エアロビクス，フリスビー等）を取り上げ，背景にある多様な文化に学生が触れるよう指導した。またH31年度のカリキュラム改訂により，3，4年次の科目名を「体育理論Ⅰ・Ⅱ」とし，理論面の学習内容の充実を図っている。なお，実技は「対面（面接）授業実施のためのガイドライン」を遵守して実施した。

芸術：選択制を導入するとともに，美術においては，美術への関心と創作者（ものづくり）としての教養を身につけるため，鉛筆でのスケッチと紙による立体表現，アートガラス教材を使い表現方法を模索した。また，コンピュータによる画像処理と作画作業や動画（アニメ）制作を行なった。音楽では幅広い活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深めるため，前半は主に座学による講義とピアノ伴奏による歌唱，後

半は、各自のギターその他の楽器演奏について、感染症対策を行いながら実施した。

## ② 課外授業、補習等

各教員は、日頃より授業中やオフィスアワー以外にも放課後に相談や質問を受けた（遠隔授業を含む）。授業内容の質問から、後述する大学編入学試験に関する質問、研究のヒントを求める5年生や専攻科生の質問まで幅広く応じてきた。また、成績不振者への学力補充の補習や再テストを随時実施するなど、きめ細かな指導も行なっている。なお、例年であれば半年または年間を通じて組織的な形で補習等を実施しているが、R2年度についてはコロナ禍ということで、中止ないしは規模の縮小を行わざるを得なかった。

〔H31年度までの実績〕

数学：1年生を対象とし、毎週木曜日の放課後に数学担当教員の指導のもとで専攻科生ティーチングアシスタントをつけた形での補習をH13年度から実施しており、教育効果のさらなる向上のためにH24年度からはTAのほか非常勤講師2名を配置して支援体制の強化を図ってきた。

英語：H22年度から毎年後期実施している成績不振者対象の補習授業は本科1、2年合同で火曜と水曜に行なった。また、グローバル教育センターと連携協力して国際交流事業として海外派遣・留学生受入などのプロジェクトに対応した学生指導（英語プレゼンテーション指導など）も行なった。シンガポール等の学生との交流においては、奈良を中心に日本文化を紹介することで、本校学生が自国の文化を理解するとともに、英語への動機付けを高めるように工夫した。

合同オフィスアワー：H30年度から、新たに複数の教員が共同で実施する合同オフィスアワーを開設している。

## ③ 外部試験利用と自学自習指導

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標に対応した1～3年対象の「学習到達度試験」（数学・物理・化学）（CBT[Computer Based Testing]方式）に参加した。学生の学習意欲を喚起し、主体的な学習姿勢の形成を促すため、事前に3年前期までの学習内容を総復習する課題を提示し、そのレポートを試験前後に提出させるなどの指導を行なった。

## （2）教育環境

R2年度における専任教員は、国語担当が3名、数学担当が7名（うち、育児休暇取得教員1名）、理科担当が4名、英語担当が4名、体育担当が2名、社会担当が2名、グローバル科目担当が1名の計23名であり、うち博士号を取得している教員が15名であった。非常勤講師は国語、社会、数学、理科、体育、芸術、英語、グローバル科目を担当した。

施設・設備に関しては、物理実験室、応用物理実験室、化学実験室があり、各種の学生実



験，教員による演示実験を行なった。また一般教科の管轄外ではあるが，情報処理演習室では英語と美術の授業を行い，大視聴覚室では音楽の授業を行なった。本校が採択された文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」に伴って整備された地域創生交流室は各教科のプレゼンテーション，外部講師の授業等でよく使用されてきた。同室の維持管理は社会科の教員が中心となって行なっている。教室外の施設，2棟の体育館，25m プール，武道場，400mトラックを含む運動場，テニスコート5面では，様々な体育実技を行なった。これらの施設の環境整備については，体育科の教員が中心となって行なっている。なお，上記設備に関しては，全学的な規模での維持管理が必要であり，今後も教育環境整備に努め，予算措置の申請計画を立てていく予定である。

### (3) 進路指導・社会貢献

就職・進学に関する相談や指導も専門学科と連携を取りながら全教科の教員が適宜対応している。各教員はオフィスアワー以外にも放課後等に相談や質問を受け付け，指導を行なった。大学編入学指導に関しては物理科においては H23 年度から大学編入学を希望する 4 年を対象とし，放課後に定期的にハイレベルな編入問題への対応を中心とした補講を継続的に実施している。その他，英語科，数学科，化学科においても，編入学試験に関する質問に随時対応しており，文系科目でも就職・進学に必要な小論文指導や志望理由書・手紙の書き方等の相談に応じている。

一方，公開講座や出前授業にも取り組んできた。国語科主催の公開講座「日本文学講座」は例年では約 70 名の参加がある。また，社会科で長年継続実施した「文化探訪講座」は H29 年度（第 26 回）で最終回となったが，H31 年度には「やたやま 社会の森 オープンセミナー」という新しい公開講座をスタートさせた。物理科の出前授業も長年にわたって多くの要請に応じて継続的に実施してきたが，R2 年度はコロナ禍のためすべての実施を見送らざるを得なかった。

一般教科では，H24 年度から教科ごとに年度別の教育計画や教育成果を文書にし，科内で報告している。教科間において互いの教育活動を理解し，情報を共有するための取組である。各教科でのまとまりを基礎に，一般教科という組織が学生の教育に有効に機能するような策を確実に実施し，冒頭に述べた教育目標を実現するための取組を今後も継続して行なっていきたい。

なお，H31 年度に実施したカリキュラム改訂では，高学年を中心に，ほとんどの科目で学修単位を導入した。これに対する点検評価とともに，自学自習を前提とする学修単位科目をより効果的に運用していくための課題と，R5 年度実施に向けてのさらなるカリキュラム改

訂案の検討が喫緊の課題である。また H31 年度には、1 年の担任をすべて一般教科の教員が担当し、併せて学年主任を置いて各クラス担任をサポートする新たな担任制度を導入した。R2 年度は、これが 1, 2 年に適用された初めての年度となった。R3 年度以降には、改めてこの新制度の有効性を検証する予定である。

## 2. 2 機械工学科

機械工学科では、各産業分野における設計開発、生産技術、保守点検、品質管理等の幅広い分野に対応できる技術者の養成を目標としている。そのため、低学年では実習や製図等の実技系科目を中心に導入教育を行い、学年進行とともに座学、実験等により工学基礎から応用までをバランス良く配置することで、機械系技術者としての素養を育む教育を行ってきた。R2年度の学科教員数は11名（教授4名、特任教授1名、嘱託教授1名、准教授5名）であり、全員が博士号取得者である。

近年、各種産業界においては、業務の多様化やグローバル化に向け、それに対応できる技術者が求められている。特に、コミュニケーション能力や語学力は、今や技術者にとっても必須スキルと捉えられ、これらの能力開発を如何に教育カリキュラム内に盛り込むかは重要な課題となっている。また、諸外国との技術力競争にも対抗できるような豊かな創造力ならびに課題克服力も持ち合わせた人材が必要とされ、クオリティーの高い技術者を育成する教育内容に改善することが求められている。このような背景のもと、機械工学科としても従来の教育方針（ものづくりに関わる専門教育）に加え、多様な状況にも柔軟に対応でき、豊かな発想力や創造力を有する技術者の育成を目指し、教育改善を行なっている。なかでも、学生自らが企画立案し、主体的に課題を解決する学習方法であるPBL（Problem Based Learning）教育の導入は、学生のデザイン能力を向上させることに大きく貢献することから工学教育の一つの指針として示されている。ただし、この場合、学生が能動的に取り組めるように授業の進行にあたっては明確な方向性を提示する必要がある。また、そのプロセスや成果等を客観的に評価し、さらなる改善策の提案とその実践を含むPDCAサイクルを機能させることが重要となる。機械工学科としても、これまで実験・実習等の実技系においてはPBL教育を念頭に入れた改善を行ってきたが、その成果をさらに発展させることが大切であると考えている。そのために、基礎学力の充実化を図るとともに、個々の学生の能力を把握しつつ、学生自らがその実力を発展させるような教育方法が必要であるとしてその方法を検討している。

特に、能動的学習法として先の問題解決型学習法（PBL）に加え、グループディスカッションやディベート等を含む新たな学習法、すなわちアクティブラーニング型学習法の積極的な導入が推進されている。この場合、対象とするのは、実技系に限らず、座学を含む広く

全般的な授業となっている。現状では、一部、その具体例が紹介されているものの、その多くは試行によるものであり、定着化させるには、まだまだ時間が必要であると感じている。その目指すべき方向性は、前述の機械工学科が取り組もうとしている教育方法の改善、すなわち「知識から実践」に即したものであり、今後、多くの具体例を参考とし、機械工学科の教育改善に積極的に取り入れたいと考えている。以下に、機械工学科の取り組み状況を述べる。

## (1) 教育手段への取り組み

### ① カリキュラムの改訂

H31年度のカリキュラム改訂によって、従来から取り組んできたPBL教育のさらなる強化及びニーズの変化への対応を行なった。具体的には、これまで3年次「創造設計製作」において展開してきたPBLをより柔軟に行うために、従来の「機械設計製図Ⅲ」を「創造設計」に置換えた。これにより、通年3時間の「創造設計製作」のうち、特に問題解決の川上側に位置する概念設計に関する内容を「創造設計」でも扱うようになり、グループワークにより多くの時間を割けるようになった。また、大学編入学試験の専門科目試験として、従来のいわゆる3力学（材料力学、流体力学、熱力学）に加え機械力学が課されることが多くみられるようになった。そのため、これまで3年次「エネルギー基礎力学」の一部と5年次「振動工学」で扱ってきた機械力学の内容の学習を3年次からに前倒しし、「機械力学Ⅰ」「機械力学Ⅱ」「機械力学演習」として4年次で終えるようにしている。この変更によって、機械工学科の学生が習得すべき4力学をより明確にする効果もみられた。従来の3力学に関しても、それぞれ「〇〇力学Ⅰ」「〇〇力学Ⅱ」「〇〇力学演習」という科目配置にすることによって、半期間に習得すべき学習目標の明確化を図っている。

その他には、5年次に「技術英語」を新設し、研究室単位での英文技術論文等の輪読とその内容の全体発表を行うこととした。これによってグローバル化、コミュニケーション力の向上のニーズに応えることができると考えている。

近年の入学生は、ゆとり教育や少子化等の影響により比較的、消極的な学生が増えているように思える。また、情報メディア機器等の発達により情報入手については容易に行える一方、他者とのコミュニケーションに関して、未発達な状況で学年進行している。これらのことから、授業の進行にあたり教科担当者は、学生の資質には注視しつつ、個々の特徴を捉えながら、彼らの学習に対する取り組み姿勢が能動的となるように教科指導を行なっている。さらに、科内会議等においても学生個々の学力ならびに取り組み姿勢について意見交換を行い、情報共有を図っている。

## ② PBL教育の取り組み

機械工学科では、従来から第3学年における「創造設計製作」で、学生自身が計画を立てて主体的に設計・製作を行うPBL的な授業展開を行ってきた。また、第5学年における設計工学演習においてもPBL手法にもとづく問題解決型授業を実施している。さらに、第4、5学年における機械工学実験や第4学年の「機械工学ゼミナール」（H31年度に新設）では、座学で得た知識の定着を図る一方で、新たな事実の発見及び課題抽出となるように授業内容を工夫している。そして、グループワークによる作業や担当教員を交えた討論の場を通して、学生間相互理解ならびにコミュニケーション能力の向上に繋がるような取り組みを始めている。

PBL科目の重要性はこれまで十分認識しているつもりであるが、その継続性と発展性については、常に議論の対象となっている。学生にとっては、内容の斬新さやユニークさから好評を得ることが多いが、学生個々の能力の向上にどれだけ貢献しているかは、今のところ明確にできない点がある。このことから、今後も改善点を明確にしつつ、引き続き取り組んでいく必要があると考えている。

## ③ 学外実習

H12年度から第4学年学生に対し学外実習を正規の授業（選択科目1単位）として実施しているが、R2年度は新型コロナウイルス感染防止に係る対応として、学外実習の実施を自粛することとなった。

学外実習は、実社会での就業体験、経験をもとに学習意欲の向上ならびに学生のキャリア支援を目的とした科目であり、例年、多くの学生が履修している（全体の70～80%）。ただし、近年、一部の企業が、実習希望者に対して公募制を採用することが増えてきたため、希望しても選考に洩れるケースが生じている。そのため、選考に洩れた学生に対しては、担当教員が個別に企業と連絡を取り、受け入れの追加依頼をする等、実習先を確保することに苦慮することがある。また、学外実習は現在、夏季休業期間中ということで実施しているが、その単位認定は、休業明けの学外実習報告会での発表で決定することとなっている。しかしながら、実習で得た経験は、本来、学習意欲の向上へと繋げるものとなるはずであるが、なかには、その連携が上手く行えない学生もいるようで、この点、実習修了後のフォローアップが必要であるとの意見がでている。そのため、学科としても、実習中の経験を一過的なものとしなような工夫が必要であるとしてその具体案を検討している。なお、学外実習成果報告会には、次年度、履修予定となる第3学年の学生全員を出席させ開催している。

## ④ カリキュラム以外の取り組み

### ○資格取得

機械工学科では、実践的かつ創造的な機械技術者を育成する支援策として、工業英語検定

試験4級もしくは3級、もしくは日本英語検定試験の取得、さらにはTOEIC試験の受験を奨励している。特に、TOEIC試験（公開テスト）は、そのスコアが大学編入学及び就職にも活かされることから、学生には積極的に受験するように指導を行なっている。今後の課題としては、技術者として英語力の向上は今や必須となっていることから、さらに成績向上に繋がるような指導が必要であると考えている。さらに、語学以外の専門的な資格として、機械設計技術者試験への受験も奨励している。特に、機械設計技術者試験の受験は、日頃の専門教科の学習が如何に理解され、実用化することができるかといった自己診断にも繋がる良い機会と捉えられることから、学生には積極的にチャレンジするように勧めている。

#### ○学会への参加の奨励

第1学年から第5学年までの学生に対して、日本機械学会に学生会員としての入会を奨励し、工場見学への参加、学術講演会、卒業研究講演発表会での発表等を通じて幅広い視野を身につけることを奨励している。日本機械学会関西支部の卒業研究発表講演会では、毎年、平均して4から5人程度の学生が大学生や他高専の学生に混ざって講演している。なお、同研究発表会においては、優秀な口頭発表に贈られるBest Presentation Awards (BPA) を受賞する学生も毎年のようにみられる。この実績は、関西地区の他高専と比べても顕著であり、このような学会発表が、プレゼンテーション能力の向上や研究内容をさらに洗練させる良いモチベーションとなっている。

#### ○編入学生への学習支援

ここ数年の受験者が少ないことと合格に至る者がいないことについては詳細な調査が必要と捉えている。編入学試験の内容は、高校の指導要領に基づき作成しているが、十分な準備と深い洞察力があれば、合格基準に容易に達することができると考えている。しかしながら、試験結果を見る限り、基準に程遠い受験生もいるようである。また、編入学試験に合格し、入学するものの、その後、授業内容についていけず成績不振状態に陥る学生もいるようである。特に、編入学試験に合格した受験生には、入学前指導として補習や課題提出等、入学後を視野に入れた学力補充を行なったりしているが、学生の学習姿勢は過去に編入学し、卒業していったものとは大いに違いがあるように感じる。工業高校からの編入生には1年次から進級してきた学生に対し、大いに刺激を与えて欲しいと期待するが、年々、その効果は薄れているようである。このことから、今後は、向学心旺盛な生徒に受験してもらえようように工業高校の進路指導の先生に対し、PRを行う必要があると考えている。

#### ○広報活動

ここ数年、奈良高専機械工学科の入学志願倍率は他学科に比べて低くなっていることから、その打開策として、H20年に科内組織として広報担当を新たに設けた。その活動は、当然、入試倍率の向上を目指すものであるが、学生の課外活動の支援も兼ねた内容を含んだも

のである。特に、ここ最近、学校全体の広報活動が活発化するなかで教員への負担が急速に増加する傾向にあり、学生への教育支援が手薄となる恐れがあった。そのため、学生と協同して広報活動に取り組むことができれば、教育支援を損なうことなく充実した活動を行うことができるであろうとの考えで活動がスタートした。具体的な活動としては、年度当初に広報活動に興味のある学生を募集し、担当教員とともに年度活動計画を立案したのち、いくつかのテーマを設定して取り組もうとするものである。テーマの中には、具体的に「ものづくり」に関わるものや各種コンテストを目指したもの等、多岐に渡っており、自ら課題設定を行い、実践することができることから機械工学全般に強い興味や関心を持つ学生にとっては好評であり、学年を問わず多くの学生が参加している。なお、その成果は、体験入学、高専祭における学科展、入試説明会等で作品として展示され、学生による説明は、各イベントに参加した中学生やその保護者からも好評であり、彼らの社会性向上にも大きく役立つものとなっている。一方、広報活動に参加する学生は、これらの活動以外にも教員の研究活動（一般向けの講座）の補助員としても参加することがあり、活動範囲を拡張させることで視野拡大にも繋がっている。なお、当初の目的であった志願倍率増への効果に関しては、未だ十分な成果を上げるまでには至っていないが、今後、さらなる企画を練り、より活発に取り組むことで倍率増につながるものと思われる。

## （２） 教育環境への取組み

H25年度の実験設備導入に引続き、H29年10月に竣工した機械工学科実験室を含む実験実習棟の改修によって、機械工学科の教育環境はさらに改善された。特にFabRoomでは、3Dプリンタやレーザ加工機、小型の工作機械等を学生が身近に利用できるように整備されており、学生の自主的な取組みを大きく推進している。また、機械工学科としての直接の取組みではないが、「機械工作実習Ⅰ」「機械工作実習Ⅱ」「創造設計製作」「創造設計」等で利用するものづくり実験実習棟では、空調の設置や工作機械レイアウトの見直し、照度の改善等を行なっていただき、機械工学科学生（だけではないが）はその恩恵に大いに与っている。技術支援室（当時）には、上記の科目での利用形態を大いに配慮いただいたと仄聞しており、この場を借りて御礼を申し上げる。

このような学生のための教育研究設備の充実の一方で、産業界との連携や地域貢献を推進する現状では、さらに新たな設備導入が必要であり、そのための施策を検討することは学科として重要課題と位置づけている。機械工学科の発展、すなわち将来像を見据えた設備計画（マスタープラン）を至急、検討する必要性が有り、その準備は急務であると考えている。

### (3) 進路指導への取組み

進路指導に関しては、ここ数年、4名の教員が分担して指導を行なっている。その内訳としては、3名が就職担当、1名が進学を主に担当している。大まかなスケジュールとしては例年、全4年生を対象とする進路ガイダンスが12月に進路対策協議会主催で行われ、その後、学科単位で指導を行うこととなっている。機械工学科としては、このスケジュールに沿って、2月上旬に4年生を対象に進路ガイダンス（就職・進学のための説明会）を行なっている。また、5年生への進級前であるが、2月下旬から機械工学科の進路指導室を開放し、学生に求人情報を閲覧させることで就職活動に対する意識を高めるように指導している。なお、応募締め切りが早い企業については、別途、企業名を掲示し、決められた期日までに申し出るよう指導している。最終的には、5年生になった4月初旬に、第1回目の就職希望先を提出させるスケジュールで進めている。なお、学生の進路相談については、進路指導担当者が主として対応するが、それ以外にも、事前に卒業研究仮配属を行い、指導予定教員からもアドバイスが受けられるような複数体制をとっている。一方、保護者向けの進路ガイダンスは、学年末試験終了後の3月上旬に開催し、学生向けのガイダンスとほぼ同じ内容を用いて説明している。なお、個別相談を必要とする場合には、進路指導担当者もしくは指導予定教員が対応し、詳細な説明を行なっている。R2年度は、新型コロナウイルス感染防止に係る対応としてMicrosoft Teamsを用いて求人情報を閲覧できるようにし、遠隔での進路指導も行なっている。

R2年度の進路内訳は、就職14名、進学21名（専攻科7名を含む）であった。就職先の分類としては、機械、建設、電気、化学等、製造業を中心に就職している。なお、就職に関しては、ここ数年、機械工学科に対する求人件数は非常に多くなっている。また、採用担当者との面談においても高専卒業生の実力を高く評価される方が多いことから、その期待の大きさを感じている。一方、進学に関しても専攻科を含め多くの国公立大学等へ進学している現状から、在校生及びその保護者の進学に対する興味は高まる一方である。いずれの場合も多様な進路を保障しているという点では、一定の成果を示しているように思えるが、現実には進路決定の際、思うような結果を導けない者が毎年、数人みられる。受験後の報告によると、概して、準備不足の一言でまとめられるが、これらの結果は、学生のキャリアデザイン支援に対する課題として捉えるべきであり、今後、指導方法を含めた改善策を示す必要があると考えている。

## 2. 3 電気工学科

電気工学科では、電気・電子機器や装置等の「ものづくり」を基盤とした知識と技術を修得させ、「あらゆる産業分野で活躍できる幅広い知識を持った電気・電子技術者の育成」、「電気・電子技術を使って環境問題の解決や社会に貢献できる技術者の養成」を目標として教育

を実施している。このため、電気・電子工学に関係する専門の基礎理論から、電力・エネルギー・制御系、電子・新素材・デバイス系、情報・通信・コンピュータ系分野等に関する専門知識を段階的に教授している。さらに演習と実験・実習を重視して、技術的な実践能力を高める指導も行なっている。学科教員数は11名（教授3名、准教授5名、講師1名、助教1名、嘱託教授1名）である。うち博士号取得者は9名である。

### （1）電気工学科における具体的な取り組み

電気工学科のH31年度までの取り組みを振り返り、解決すべき項目を明確にし、それに対する年次計画を立てて教育・学生指導・研究活動を推進した。また新型コロナウイルス感染予防対策のため、授業が長期間停止およびオンラインとなり、その間、学生の学びをサポートする対策を行なった。主な項目を以下に示す。

#### ① 授業停止およびオンライン期間におけるオンライン対策会議

新型コロナウイルス感染予防対策のため、4月当初から7月まで、対面授業が行われなかった。この期間、木曜日は電気工学科の1,2年担任と主任の相談会議、それ以外の日は電気工学科教員によるショート対策会議を毎日設け、感染予防と学生サポートに関する対策を行なった。

#### ② オンライン授業環境の整備

家庭におけるオンライン授業が困難な学生に対し、PCとルータの貸し出しを行うこととした。調査の結果5名の希望者があり、PCの貸し出しを行なった。

#### ③ 4年生による1年生のオンライン支援を実施

学生（4年生）からの提案で、学生を中心とした1年生支援プロジェクト「R.L.C.」を立ち上げた。入学式等を含め、7月まで登校できない状態が続いていた1年生に対し、不安を少しでも解消し、学校になじんでいってもらうことが目的である。Teamsを使って、1年生との雑談会を6回（夏期休業中に3回）実施し、クイズ大会、学習に関する質問対応等を行なった。結果、1年生の半数程度が参加し、1年生、4年生ともに良い効果があった。

#### ④ 電気工学科教員による教育研究会（学科FD）の実施

学生が中心となって電気工学科を広報するプロジェクトを立ち上げた。学科公式チャンネルをYouTubeに開設し、学生が企画・作成した広報動画を10月に公開した。

#### ⑤ 電気工学科教員による教育研究会（学科FD）の実施

教員の教育力の向上の勉強会や、電気の各クラスの情報交換を行うために、定例の会議以外に、学科の教員が参加する教員教育研究会をほぼ毎月開催した。この研究会により、クラスの問題点を全教員が共有するとともに、学生への的確で早い対処が可能になっている。



## ⑥ キャリア教育

4年生に対し、5月に進路ガイダンス（オンラインで開催、3年生の希望者も参加）を実施、8月に2回のキャリアサポートプログラム（1回目：履歴書と自己分析、2回目：企業分析と職種）を実施（対面）し、年度末までに複数回進路調査および教員との面談を行いながら進路選択から決定までの支援を行なった。また、東京海洋大学の米田助教（電気工学科卒業生）による進路セミナー（オンライン）、京都大学の小嶋教授、大阪大学の清野准教授による講演会（対面）や5年生による進路ガイダンス（11/30、対面）を実施し、視野を広げ、また具体的に進路対策を行うために参考となる情報を提供した。さらに、3月に2日間、就職希望者を対象としたオンライン企業説明会（複数の Teams 会議室を用意し、入れ替わり企業説明）を実施した。

3年生には、卒業生と語る会（豊橋技術科学大学の前川氏、10/22、オンライン）や、インターンシップ報告会への参加等を通して、自らの進路について考える機会を設けた。1～4年生の保護者に対する進路ガイダンス（対面）も行なっている。

## （2）R2年度卒業生の進路

### ① 概要

R2年度卒業生48名の進路は、就職が23名、専攻科・大学等への進学が22名、留学生の帰国2名、留学予定1名であった。

### ② 就職先

朝日ビルディング、アドバンスコープ、NTTワールドエンジニアリングマリン、大阪ガス、関西グリコ、キヤノンメディカルシステムズ、近畿日本鉄道、クボタ、KDDIエンジニアリング、サントリーホールディングス、ダイキン工業、鶴賀電機、ナリス化粧品、日本電気計器検定所、パナソニックアプライアンス社 & インダストリアルソリューションズ社、フジシール、フジフレックス、マツダ、三菱電機 通信機製作所、ヤクルト本社兵庫三木工場、ローム

### ③ 進学先

奈良高専専攻科（8名）、大阪府立大学高専（1名）、舞鶴高専（1名）、豊橋技科大（2名）、長岡技科大（1名）、京都大（1名）、京都工芸繊維大（1名）、大阪府立大（3名）、三重大（2名）、筑波大（1名）、同志社大（1名）

## （3）研究に関する評価

### ① 所属学協会および学協会活動

教員の所属学会は、電気学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、応用物理学学会、計測自動制御学会、ゲーム学会、自動車技術会、電気鍍金研究会、日本感性工学会、日本工学教育協会、日本神経回路学会、日本磁気学会、日本人間工学会、日本熱測

定学会，日本プラント・ヒューマンファクター学会，パワーエレクトロニクス学会，ヒューマンインターフェース学会，表面技術協会，学び教育フォーラム，American Geophysical Union，The Electrochemical Society 等多岐に渡っている。また，各学会で理事，評議員，編集委員や委員会委員等を務めている。

## ② 外部資金の獲得

宇宙航空科学技術推進委託費 1 件，NEDO プロジェクト 1 件，その他，複数教員が共同研究を行い，奨学寄附金も受けている。

## (4) 社会との連携

### ① 公開講座・出前授業等

新型コロナウイルスの影響で，計画していた出前授業と公開講座を中止せざるを得なかった。これらに代わり，以下のオンライン講座を行なったところ，多数に参加者があった。

「超伝導を作る！材料系実験を体験しよう」 11月7日（土）

「回路・IT・通信系の実験や授業を体験しよう」 11月28日（土）

「ミニ雷を発生！放電実験を体験しよう」 12月12日（土）

### ② 産学連携

奈良県および周辺地域の中小企業を中心に技術相談を受け対応するとともに，共同研究，受託研究等を積極的に行なった。

## 2. 4 電子制御工学科

電子制御工学科では，工業技術分野における急速な自動化の進展及びコンピュータによる制御技術の発達に対応できる総合的な処理能力を持った制御系技術者・研究者となりうる人材の育成を目標としている。

### (1) 教育目標達成のための取り組み及び教員組織

#### ① 実践教育

教育目標を達成するためには，実際に設計・製作するという体験学習が効果的であるとの考えに基づいて，1年から4年まで系統的に「工学実験」プログラムを構築している。また，システムデザイン能力，システム開発能力さらには問題解決能力に富む技術者を育成する教育プログラムとして，ロボットを題材とした多段階体験型課題解決プログラムを1学年から「工学実験」で行なっており，大いに学習効果を上げている。

さらに，4年次の「システム設計製作」においては，自律型ロボットを設計製作し，学科内ロボットコンテスト（『サッカーフリーキックロボット』，『ブロック積み上げ』，『茶

運びロボット』、『パイプ輸送ロボット』、『レスキューロボット』、『清掃ロボット』等、毎年競技内容とルールについて学生と共に検討・設定している。)を実施し、総合的なメカトロニクス技術を身に付けさせると共に、豊かな創造力を育成している。そして、予備知識、設備、予算、時間等色々な制約がある中で、設定された課題を解決するロボットシステムの設計、製作をプロジェクトとして進めて、より実際的な技術活動を通して問題解決能力を養っている。また、ロボットコンテストを通じて各チームのロボットを相互評価し、色々なアイデアを自身の知的財産として蓄積していくことも目的として行なっている。

R2年度のロボットコンテストは、縦1800mm、横3600mmのフィールドを使用して行なった。フィールドは1辺450mmの正方形により格子状に区切られており、縦4マス、横8マスの配置となっている。課題は“フィールド内のいずれか4つのマスに設定されたサークル（サークルは赤、青、緑、黄の4色）に、搭載された4つのブロック（赤、青、緑、黄）を自律制御動作するロボットにより置く”ことである。ブロックは同色のサークルに置くものとし、サークルの配置場所はコンテスト1時間前に発表することとした。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、R2年度コンテストも外部への公開は行わない形で2月16日（火）に開催した。R2年度は授業前半が新型コロナウイルス感染症のため、遠隔授業による開講となり、また感染予防による各種制約もあり、例年と比べて製作に充てられる時間が大幅に少ない中での活動となったが、ロボットコンテストにおいては全チームが得点を獲得することができ、設定された課題を解決するロボットシステムの設計、製作について一定程度の成果が得られたと考える。

なお、多段階体験型課題解決プログラムの特徴である、1年次からのレゴマインドストーム等を教材として、学年進行と共に多段階的に学習レベルを積み上げていく方式（多段階体験）をR2年度も継続して行なった。これにより、より高性能なロボットの製作を実現する実力を学生は着実に身につけつつある。特にH22年度以降は、ホイールの位置やセンサの位置・種類をアイデアに従って変更できる自由度の高いベースロボットを企業技術者と共同開発し、競技アリーナを一新し、コンテスト環境の充実が図られた。また、H30年度3年次後期においては、新たにTETRIX及びmyRIOを用いたベースロボットのライントレース競技を行い、課題解決のための手法について学んだ。これらの取組みにより、学生の自主性が助長され、学生の創造性の育成に大きく寄与していると考えられる。また、これらの実践教育では、自ら製作したロボットについて実演を交えたプレゼンテーションを、近隣企業・保護者・在校生に対し行うことで、プレゼンテーション能力の育成も図っている。

さらに、H28、29年度採択された教育改革推進本部プロジェクト「社会ニーズを踏まえたロボット人材の育成」の連携協力校として電子制御工学科を中心として採択された取組みで実施したPROGテストの結果を踏まえ、教育プログラムの改善検討を継続して行なっ

た。併せて公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団の教育助成への申請が採択され（H31、R2年度）、H30年度に導入したTETRIX及びmyRIOの追加導入、及び多段階体験型課題解決プログラムの改善に取り組んだ。

また、（独）工業所有権情報・研修館のR2年度「知財力開発校支援事業」に採択された。本事業では特許出願、特許取得経験のある企業技術者及び弁理士による講演会や、各学年でのロボット製作に関連した特許情報の収集や分析を行い、本学科で行なっている多段階課題解決型学習と知財教育とを連携させることで、学生の知的財産に対する興味を喚起し、知的財産権に対する知識、重要性を効果的に学習させることができた。R2年度の講演会は、4年生対象に12月7日に弁理士の先生から「高専生の将来の仕事を楽しくする特許・商標の話」と題して特許に関する知財セミナーが行われた。また、R2年度は5年生対象に11月11日、30日および12月7日の3回にわたって、特許検索競技大会に出場するための講習会が開催され、12月14日に競技大会に出場し、約8割の学生が合格した。なお、この講習会・競技大会出場は機械工学科5年生と共同で行なった。

## ② 学外実習

実社会での実務経験が今後の技術者としての学習に有効であるためインターンシップへの取組に力を入れた。また、毎年第3学年学生に聴講させる学外実習報告会を開催し、プレゼンテーション能力の育成も行なっている。H13年度に学外実習として単位認定して以来、受講者は増えており、H22年度以降はクラスの半数程度が受講し、H31年度は20名が履修した。インターンシップに参加した学生の取り組む姿勢は積極的であり、職業意識の向上の一助になっているものと考えられる。しかしながら、R2年度は新型コロナ（COVID-19）感染防止のため、インターンシップの実施を控えることになったことは残念であった。

## ③ 教員組織

R2年度における電子制御工学科の教員数は10名である。その内訳は、教授5名（内1名は嘱託教授）、准教授4名、助教1名である。博士号取得者は8名である。本学科は複合学科であり、機械系学科出身者が4名、電気・電子・情報・制御系学科出身者が6名である。また、企業等での実務経験者が4名で、高専出身者が4名おり、新規採用にあたっては特定の分野、出身に偏らないように配慮している。

## （2）電子制御工学科における進路指導と卒業生の進路

電子制御工学科では「進路対策委員会」を設置し、進路対策委員が各指導教員及び保護者との連携を図りながら、学生の就職・進学について学生本人の希望を尊重し、進路指導を行なっている。R2年度は求人企業数が480社（H31年度484社）で例年並みであり、企業の採用意欲が高い状態が続いていることが窺えた。このような状況にあって、卒業生34名中、就職

を希望した学生は11名でこの数年同様な状況が続いている。ただし、新型コロナウイルス感染症のため、就職活動では面接日が延びたりオンライン面接に切り替わったりなど企業側も本科側も手探りの状況であった。一方、19名の学生が専攻科、大学等へ進学した。専門分野は本学科が複合系学科であることから、機械系、電気系、情報系等多岐に渡ってきているのが最近の特徴である。19名の内、本校専攻科には8名が進学した。進学においても新型コロナウイルス感染症のため、入試日程が大幅に延びるなどして例年に比べて進路決定が遅くなった。なお、1名が奈良高専研究生になった。

学生への指導は、4年次学年末に進路に対するガイダンスを行うとともに、就職、進学各卒業生との懇談会を持ち、進路決定の参考としている。また、年末以降にH31年度分の各企業からの求人資料を公開し、将来の進路に対する意識を喚起している。さらに、例年ならば新5年生とその保護者に対する進路ガイダンスを3月下旬に実施しているが、R2年度は新型コロナウイルス感染症のため直前で中止とし、その代わりに4月初旬にオンラインにて就職ガイダンスを実施し、就職活動を遅滞なく行うよう指導を強化した。5年次当初に就職・進学の希望調査を行い、進路対策委員、指導教員、保護者等のアドバイスのもと4月中旬に具体的な受験企業及び進学受験先を決定した。なお、R2年度の採用選考等就職活動時期の変更に対しては、学生重視の観点から、各企業側の計画に応じて対応した。また、今後の就職活動時期については臨機応変に対応し、学生が不利益を被らないような対策、及び学生指導、保護者との懇談等が必要になる。

### (3) 電子制御工学科独自の事項

電子制御工学科においては学生の自主性と創造力の育成を重んじており、学生の自主学習を期待している。本学科に所属する学生の特徴の一つとして言えることは、入学当初からNHK主催「ロボットコンテスト」への参加を希望する学生が多いことに代表されるように、ものづくりに大変興味を持っている学生が多いということである。また、彼らの独創性や自主性を尊重しつつ、ものづくりへの興味を育てていくためにも、「多段階体験による課題解決プログラム」を実施している(前述の(1)①の項を参照)。課題解決用のロボットの開発を最終目的とし、アクティブラーニングの要素を取り入れたPBLを導入し、PDCAサイクルを循環できる教育を行なっている。このプログラムは学生へのアンケートではよい評価を得ており、学生の自主的、積極的な取組、総合力の育成がされていると考えられる。また、5年生の卒業研究は、5年間の学業の集大成とも言えるものであり、学内にとどまらず、彼らの研究成果を広く社会に情報発信すべきとの考えから、毎年中間報告会と最終報告会を近隣企業と5年生の保護者に対して開催・聴講案内を送付しているが、R2年度は新型コロナウイルス感染症のため中間報告会を中止し、最終報告会は4、5年生のみの参加として実施した。

一方、文部科学省と廃止措置人材育成高専等連携協議会が主催する「第2回廃炉創造ロボコン」に卒業研究の一つとして継続して参加し、H28年度の「優秀賞」を上回る最優秀賞である文部科学大臣賞をH29年度に受賞した。これは、前述の「多段階体験による課題解決プログラム」教育の効果の一部であると考えられる。

#### (4) 社会との連携

##### ① 公開講座

例年、小学校高学年生を対象とした「楽しく作るライン追跡ロボット」を8月下旬に実施している。本公開講座は、毎回参加希望者が定員の2倍近くに達しており、抽選により参加人数を調整している。実施アンケートの結果を見ても概ね好評であり、数年後に本校を受験し入学している参加者がいる等、長期的視点においても有効であることがわかる。しかしながら、新型コロナ（COVID-19）感染防止のため、R2年度はこれら実施を見送ることとなったことは残念であった。

##### ② 産学連携

産学連携への取組にも力を入れ、各種展示会等への展示、奈良県内外企業からの技術相談、共同研究や受託研究等を積極的に行なった。

##### ③ 地域連携

本校電子制御工学科棟電子工学実験室を会場として開催された大和郡山市科学教室・高専教室、学市連携出前授業として大和郡山市治道小学校、生駒市生駒北小学校等に参加し、近隣地域の小中学生の科学技術に対する興味の一層の増進に貢献した。ただし、新型コロナ（COVID-19）感染防止のため、R2年度はこれら実施を見送ることとなった。

##### ④ 人材育成

機関横断的な原子力人材育成事業『国立高専における原子力分野のキャリアパス拡大に向けた人材育成の高度化』に本学科の島岡囑託教授が学校代表として参画し、学生の指導にあたっている。また、H28年度から実施されている「廃炉創造ロボコン」に毎年エントリーしており、H28年度に「優秀賞」、H29年度は「文部科学大臣賞」を受賞し、3年目のH30年度は「特別賞」を受賞し、本校学生の創造力、技術力の高さを知らしめている。5年目のR2年度は新型コロナ（COVID-19）感染拡大に伴ってコンテストはオンライン開催となった。競技の公正性に難はあるとは言え、参加各校のロボットの特徴を把握することができたことは有意義であった。

#### (5) 国際交流

##### ① 学生の国際交流派遣

グローバルエンジニア養成教育プログラム（GEP）及びグローバル工学協働教育プログラム（GECEP）へ20名弱が参加した。さらに、文部科学省の“トビタテ！留学JAPAN”のプログラムに採択され、参加した。

## ② 留学生の受け入れ

マレーシア政府派遣より、1名の留学生を受け入れている。

## 2. 5 情報工学科

情報工学科ではめざましい勢いで進展する情報通信技術や情報処理技術に対応し、これらの技術を基盤とする情報化社会の飛躍的な革新に挑戦する高度な知識と能力を持った技術者を育成することを教育目標に掲げている。具体的には組み込みシステムやIoT等のハードウェア技術、AI、画像／音声情報処理、情報セキュリティ、ソフトウェア工学等のソフトウェア技術、高速インターネット回線や高機能携帯情報端末等を支えるネットワーク技術の各分野をカバーするため、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの3本柱を軸とする教育カリキュラムを編成し、教育目標の達成を目指して教育・研究活動に取り組んでいる。

### （1）教育手段への取組み

#### ① サイバーセキュリティ教育研究部門

情報工学科では、サイバーセキュリティの重要性を認識し、これまでも情報系専門学科としてサイバーセキュリティ教育研究に取り組んできた。特に近年は、高等教育機関に対するサイバーセキュリティ人材の育成ならびにサイバーセキュリティに関する研究の推進の要望が高まっている。そこで情報工学科では、H28年末に「サイバーセキュリティ教育研究部門」を設置し、より深化したサイバーセキュリティ教育研究に取り組んでいる。これまでの活動は以下のとおりである。

#### ・サイバーセキュリティ対策アドバイザー

R元年7月31日に情報工学科教員が奈良県警察からサイバーセキュリティ対策アドバイザーの委嘱（～現在）を受け、R元年12月10日及びR2年1月15日にログ解析手法やメモリフォレンジック手法に関する実技演習を実施した。更に、R2年11月17日にモバイル端末の活用における留意点と電子決済の不正利用事案について講演した。

#### ・サイバー防犯ボランティア活動

H30年11月8日に、情報工学科が奈良県警察からサイバー防犯サポーターの委嘱を受けた。以降、学生が奈良県警察と協力して、サイバー空間の浄化活動等のサイバー防犯ボランティア活動を行なっている。

- ・情報セキュリティ教育研究会 2019（木更津高専情報工学科と合同で開催）
- ・佐世保高専におけるサイバーセキュリティ人材育成事業の視察

## ② 社会のニーズに対応したカリキュラム改訂

科内のカリキュラム検討 WG で検討を重ねた上で改訂した新カリキュラムを H31 年度に導入している。H20 年 3 月に情報処理学会で取りまとめられた「大学情報系専門学科におけるカリキュラム標準 J07」をベースにハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの 3 本柱を軸とし、更に社会のニーズの変化に合わせて上述の情報セキュリティ分野を含めて新しい科目を多く取り入れ、カリキュラムを大幅に見直した。なお、H26 年度から全学年で新カリキュラムとなり、2 年間のカリキュラム検討 WG での議論を経て、H28～29 年度には、情報分野のコアカリキュラムに対応した新カリキュラム案を作成した。H31 年度以降実施のカリキュラムの主な変更点を以下に示す。

- ・確実な基礎力を身につけるために、2 年時にプログラミング基礎と電気回路基礎を実施
- ・課題解決の手段としてのデータ処理能力を養うために、4 年時に統計処理を実施
- ・他者と協調・協働して行動できる能力を養成するため、3、4 年時に学年横断科目の課題解決型講義である情報アクティブラーニング I, II を実施

## ③ 社会のニーズに対応した演習科目の内容の見直し

PBL 科目教育のニーズの高まりに対応して上述の情報アクティブラーニング I, II を 1 グループ 8 名程度による本科 3、4 年生の混成グループで実施する。

## ④ インターンシップへの取組み

H30 年度からは受講率 80%以上を目標に取り組んでいる。例年の受講希望者は 8 割を超えているが、公募型のインターンシップの増加に伴う競争状況や学生の希望する受け入れ先の確保の問題等があり、実際の参加率は 7 割前後である。H31 年度は 37 名中 35 名 (95%) がインターンシップを希望し、うち 26 名の学生が 27 社 (1 名のみ 2 か所で実施) の約 73% がインターンシップに参加した。なお、R2 年度は、インターンシップを中止した。

## ⑤ 卒業研究と特別研究に関する学内外発表

情報工学科所属の学生が卒業研究及び特別研究の成果を外部で発表するよう指導を行なっている。専攻科生は 2 年間で 1 回以上の学外発表を行うよう指導している。それらの発表に対し学会からの表彰を毎年複数件受賞している。H31 年度は、9 月に情報コースの専攻科生 1 名のポスター発表が Finalists of SICE2019 Annual Conference Award に選ばれた。ほかにも 11 月には、一般社団法人関西ニュービジネス協議会主催のビジネスコンテスト「NBK ニュービジネスアワード 2019」において、情報コースの専攻科生 1 名がビジネスプラン部門において最優秀賞を受賞した。2020 年の「関西 NBC ニュービジネスアワード 2020」においても専攻生 1 名がビジネスプラン最優秀賞を受賞した。



R3年3月2日(火)に開催された「令和2年度第3ブロック専攻科研究フォーラム」の発表で、専攻科生1名が優秀賞を受賞した。

なお、学内の発表に関しても、学外発表において広く実施されているポスターによる発表形式をH25年度から卒業研究中間発表会に導入している。更に提出された論文を教員が査読を行い、研究内容を精査する。論文内容が不十分であるときは、提出後から卒業までの残った期間で追加研究を実施する等して、研究や論文内容の質を高める指導を実施している。

#### ⑥ カリキュラム以外での学生教育

学生の情報工学専門科目の学習意欲と学力及び能力の向上を図るために、おもに以下の資格取得への推奨と各種コンテストへの参加の取り組みをそれぞれ担当教員の指導の下で行なっている。

##### ・情報処理技術者資格の取り組み

情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験をはじめとする各種情報処理技術者資格を取得することを推奨している。具体的には1~2年次でITパスポート試験以上、3年次で基本情報技術者試験以上の合格を目標に設定し、受験希望学生に対して放課後や長期休業期間中に情報処理演習室で個別指導等を実施している。

##### ・プログラミングコンテスト等への取り組み

全国高等専門学校プログラミングコンテストの競技部門、課題部門、自由部門にそれぞれ学生チームを出場させている。H30年度の第30回プログラミングコンテストの競技部門に2年生から5年生の3名が参加する等、プログラミングのスキルアップを図っている。R2年度は競技部門が中止となり、課題部門、自由部門のみとなり、課題部門に2チーム8名の学生が応募した。

H29年度からは、全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2017, 2018, 2019, 2020)のプログラミング部門、モバイル部門等に出場している。H31年度、R2年度は、プログラミング部門で予選を通過し、本選出場を果たした。

##### ・セキュリティ・コンテストへの取り組み

H28年度は、11月27日にKOSENセキュリティ・コンテスト2016に4名(内、情報工学科3年から2名)参加し、B部門第2位となった。H29年度は、KOSENセキュリティ・コンテスト2017に4名(内、情報工学科4年から2名)参加し、優勝(第1位)となり、H30年2月17日に開催されたセキュリティ技術を競う日本国内最大のコンテストSECCON2017国内決勝大会への出場権(招待枠4チーム)を得て、大学生、社会人チーム等オンライン予選上位20チームを加えた参加24チーム中19位となった。H30年度は、「KOSEN ハッカソン2018」(学生向け情報セキュリティイベント)に学生3名が参加した。H31年度KOSENセキュリティ・セキュリティコンテスト2019には、2チームが参加した。専攻科生4名のチ

ーム（うち3名が情報コース）が4位，本科生の3年から5年の混合チーム4名が12位であった。R2年度は，11月14日にオンラインで開催されたKOSENセキュリティコンテスト2020において，本科生1名，専攻科生3名のチームが参加し，優勝した。

- ・情報オリンピックの取り組み

情報オリンピックに1，2年生の有志を参加させ，思考力の育成を図っている。H31年度は，2年生4名が参加し，1次予選で4人とも1次予選では最高のBランク，2次予選では，Aランク1名，Bランク3名で，このうちAランクの1名は本戦に出場することができた。R2年度は，2年生が4名参加したが，残念ながら予選通過とならなかった。

- ・デザインコンペティションへの取り組み

H31年度は，12月に全国高等専門学校デザインコンペティションのAMデザイン部門に4年生4名が参加し，全国で11位という成績をおさめた。

- ・他コンテストへの取り組み

他にも，ICTSC（ICTトラブルシューティングコンテスト）では，H31年，R2年に本学科学生が参加し，R2年度には優勝した。

- ・留学生に対する補講の取り組み

留学生1名に対して情報工学科学生2名をチューター選任し，寮生活・学校生活に対する支援と勉学に対する支援を行なっている。H30年度は3年次に入学した国費ラオス留学生に対して，週2時間，非常勤講師によるプログラミング（論理回路を含む）の補講を実施した。

## （2）教育環境への取り組み

### ① 教員組織

H29年度に助教1名を新規採用し，R2年度は，教授5名，准教授4名，助教1名，技術職員1名のほか，合計11名のスタッフで教育・研究に当たっている。

### ② 情報処理実習室等の施設・設備の更新

H27年度に，カリキュラム改訂に伴うソフトウェア及びネットワーク系演習科目増への対応を目的とした第2演習室化への設備更新を実現した。H30年度末には，情報工学科1階の情報処理実習室のセンター教室化及び2階の情報工学実験室（第2演習室）の更新を行い，PC設備を一新した。まず情報処理実習室では，年度末にH31年度の図書館棟改修工事に伴うLL教室の移転先として学内共用施設化して総合情報センター第3演習室に改称し，PC設備がセンターの新設備へと更新された。並行して情報工学実験室では，H30年度末に，老朽化した情報工学科PC設備を更新し，合わせてアカウントを総合情報センターに統合し，センター3教室と同一のアカウントで利用できるよう利用学生の利便性を高めた。

### ③ 学科の情報発信と広報活動

学科紹介パンフレット、学校案内、学校概要、ポケットガイドの記述内容をそれぞれ見直し、現状に即した文章、データ、写真等に更新した。体験入学については、H29年度からは、スクラッチを用いたプログラミング体験を実施している。秋の学校・入試説明会では新しい試みとして、学生による学科紹介や、学生チャレンジプロジェクトチームの活動成果デモンストレーションを導入し、参加者から好評を得た。これらの取り組みは、情報工学科の入学試験の受験倍率の維持・増加の一役を担っている。

### ④ e-Learning システムの活用

一部の授業において本格的にブレンディット e-Learning による授業を実施している。これにより、学生の授業に対する授業理解度の把握や、課題、レポート作成等の進捗把握、成績評価の学生への提示が速やかに実施されている。さらに、e-Learning システムのアンケート機能を利用して、授業や e-Learning に対する満足度調査を行い、調査結果に基づいた授業改善を行なっている。また、学生の資格取得、放課後における自学自習のための e-Learning コンテンツの提供も開始しており、学力向上とキャリア教育にむけた取組と成果が得られている。また、e-Learning システムを活用し、アクティブラーニングの試行を実施している。H25年度に教育支援用ソフトウェアを導入し、H26年度からそのソフトウェアと e-Learning システムを活用した授業展開を開始している。

### ⑤ ネットワーク環境の整備

情報工学科の LAN は他の学科に先駆けて H20 年度に高速ネットワーク環境に移行した。更に H28 年 8 月にネットワークの張替えを行い、それまでの Cat5 から Cat6 に移行し、更に通信速度が向上した。H31 年度からはそれまでの LL 教室にあった設備を情報工学科 1 階に移転、共同施設の情報処理演習室 3 とし、他学科や他専攻でも利用できるようにした。また、同じ H31 年 3 月からこれまで情報処理センターと 2Gbps でつないでいた回線を 20Gbps で接続できるようになった。このように基幹ネットワークとの接続整備を随時行なっていくことで、情報工学科の高度なネットワーク系の教育を支えている。

## (3) 進路指導への取り組み

情報工学科での進路指導は学科主任、副主任、5 年学級担任を含む 5~6 名の教員（内資料管理 1 名）で進学、就職をそれぞれ分担して行なっている。毎年 7~9 月頃に 1~3 年生の保護者向けに学級担任教員らと協力して合同保護者懇談会を開催し、学科主任が学科の進路指導状況について説明している。最近では 3、4 年生の学級担任と協力して、まず進学・就職どちらかの進路選択を早めに行うよう学生に指導している。主な狙いは、進学希望者は科目平均点 80 点以上を目標に学業に取り組むこと、就職希望者は 3 年次の段階で部活動や

課外活動に積極的に取り組むことである。第4学年では夏休みでの学外実習を経て、12月頃から本格的に進路指導を開始し、翌年3月に主任が新5年生対象進路説明会を実施するとともに、進路希望を調査する。それ以降、卒業研究の研究室配属を決定し、主任、副主任、5年学級担任で保護者対象の進路説明会を開催し、各指導教員のもとで進路指導を開始している。

本科生の5年次4月時点での希望進路先は、例年進学希望者が25名程度、就職希望者が15名程度である。進学希望者のうち3名程度が夏休み以降、就職に進路変更しており、最近3年間は、進学16～23名程度、就職12～18名程度、研究生0～2名程度で推移している。R2年度は、卒業生名35名中、進学17名（奈良高専専攻科システム創成工学専攻8名）、就職15名、研究生1名、未定2名である。

#### ・支援学生の指導

支援対象学生の保護者と連絡を取りながら、本科1～4年生は在籍クラスの学級担任、本科5年生及び専攻科生は、指導教員が教科担当と連携し、学習相談を中心に行なっている。

#### ・国際交流

H27年、H30年にそれぞれ10月から12月の2か月間で2名のシンガポールのナンヤンポリテク短期留学生を受け入れた。H30年8月には香港IVE受入イベントとして『Program with scratch』Work Shopを開催した。

### （4）社会貢献

以下のように公開講座、学市連携、出前授業において複数の教員が小中学生対象の講座を開設し、積極的に社会貢献を行なっている。

#### ① 公開講座

毎年、電子情報通信学会関西支部と共催で小中学生向けのプログラミング入門に関する公開講座を実施している。H28年度から小学校高学年向けの初級講座と中学生向けの中級講座の2コースに分けて開催している。親子ペアでの申し込みで、各コースの定員は、初級:20組40名、中級:10組20名である。H31年度を受講生及び保護者それぞれのアンケート結果は半数以上の受講生が高い満足度を示し、全体的に好評であった。

#### ② 学市連携

大和郡山市との学市連携協定に基づく科学教室の一環として、情報工学科は「少年少女パソコン教室（パソコンでアニメーションを作ろう）」を年3日間担当している。H31年度は6月～7月の休日の3日間にわたって実施し、小学4～6年生15名が参加した。この教室は毎年、教員3名、技術職員1名、学生6名程度で運営している。

### ③ 出前授業

H29年度から、生駒市教育委員会からの依頼で、プログラミングに必要な問題解決の手順(アルゴリズム)を試行錯誤しながら学ぶ出前授業を実施している。H31年度は「いこまっこチャレンジ教室『プログラミングに挑戦』」を12月に教員3名、技術職員1名、学生10名で実施した。他にも8月には、近鉄百貨店橿原店において「夏休みこども博」の一環で出前授業「パズルの達人」を教員2名、補助学生5名で実施、他にも『IKOMAサマーセミナー』において「音を見てみようーフリーソフトで音を分析するー」として、教員1名、事務職員1名で出前授業を実施した。生駒市以外でも出前授業を実施しており、1月に川西町子ども探検隊「プログラミングに挑戦」に教員3名、技術職員1名、補助学生10名で、9月には田原本町青垣生涯学習センター、「子ども科学教室『プログラミングに挑戦!』」を教員3名、技術職員1名、補助学生10名で実施した。H31年、R2年10月には奈良市立三笠中学校において「高校授業体験」にて教員1名、事務職員1名で出前授業を実施した。

## 2. 6 物質化学工学科

化学と生物の二つの学問領域は基礎学問である。一方で、近未来のエネルギー・環境、食料、医療分野での課題を工学的アプローチで解決する上でも、重要な役割を果たすことが再認識されている。物質化学工学科では、この二つの学問領域を基礎として、幅広い技術領域で活躍でき、かつ、急速な時代の流れにも対応できる創造的人材の育成を目指している。応用化学からバイオテクノロジーの基礎と応用力を使って、分子・ナノレベルの微小な世界から化学工学によるプラント設計や地球環境の保護といったマクロ的な世界にも対応できる人材の育成である。この目的を達成するために、H9年4月の改組以来、低学年における基礎教育課程から高学年の専門科目履修に加えて、4年次からの応用化学工学及び生物化学工学の2コース制を導入し、それぞれのコース分野における専門科目課程に基づいた密度の高い高度な専門教育を実践してきた。一方で、モデルコアカリキュラムによる工学教育における質と効率の両立という時代の要請を受け、H31年度から全学的なカリキュラムの改訂が実施されることになった。物質化学工学科では、すでにモデルコアカリキュラムをほぼ含有した教育を実施してきたが、今後ますます生物と化学の境界に新しいニーズが出てくることが予想される科学技術情勢のなかで、教科の枠に囚われない知識が必要となっていることを踏まえ、『化学と生物の二つの学問領域を礎とする幅広い技術領域で活躍できる、時代に流されない確かな学問と技術を有したダイナミックレンジの広い創造的人材の育成』という基本的な教育目標を達成するとともに、物質化学工学科の学生全員が、化学と生物の専門分野での基礎力とその工学的な応用力を習得できるように、両コースの知識の全体を網羅する形態で総合カリキュラムを再構築し、SDGs (Sustainable Development Goals) に即応で

きる課題解決型人材の育成を目指している。

### (1) 教育手段

新たなカリキュラムでは、初学段階においては、IOT 技術を含めた技術者としての幅広い視野と知識を涵養しながら、自分の専門分野の位置づけを明確にして技術の本質を見抜く力をより強固にし、目的意識を持って学問や技術の修得に取り組めることを目指した。具体的には、情報科学(2年2単位)を情報リテラシーとして1年で2単位配当しIOT教育を充実させるとともに、化学に関する学問を学ぶための基礎力と化学と生物分野における低学年教育を充実させ、低学年の段階から、広範にわたる化学・生物分野における工学的応用分野に触れることで、幅広い視野と知識の定着と想像力の向上をはかっている。また、一般化学演習(1年1単位, 2年2単位)を2年までに3単位配当し、充実した演習を通じて2年までの段階で化学分野における基礎力の定着と応用力の向上を目指している。さらに、生物化学(3年2単位)を生物化学ⅠからⅢとして2年から3年生に各2単位ずつ配当するとともに、生物の工学的応用分野に関する基礎力も修得できるよう、応用微生物学, 分子生物学, 生物化学工学を必修としている。

高学年では、低学年で涵養した基礎をもとに、技術革新に即応して幅広い分野で対応できる学生を育成できるよう、化学の骨幹的な基礎学問領域である有機化学, 無機化学, 物理化学, 分析化学, そして工学分野の柱となる化学工学分野について、各専門分野における大学学部レベルの基本事項を習得できるよう専門基本教科を段階的に配当した。また、当学科の特徴である実験重視のカリキュラム編成は伝統的に継承されており、第1学年後期から第4学年まで、週4時間、合計14単位を実験に配当し、安全教育とともに、基本的な実験技術とデータ整理法の習得、自然現象の観察や考察を通じた理解力の向上、報告・プレゼンテーション力の修得といった技術者・研究者としての実践的な能力の育成を図っている。なお、第3学年ではH17年度から導入した創造力の育成を目的とした問題解決型テーマを設定した実験とプレゼンテーションを継続して実施し、グループワークを通じて能動的な行動ができる学生の育成に取り組んでいる。

さらに、4年次では選択教科として企業での学外実習(インターンシップ)による実践的実習と高専教育の総決算でもある卒業研究への早期導入を行なっている。4年生学外実習報告会への3年生出席や4年次後期からの早期卒業研究室配属を継続することで、教育研究活動の連続性と学生のコミュニケーション能力向上も目指している。例年は、夏季休業中に4年生のクラスの大半の学生が学外実習を履修し、様々な業界の企業の協力のもと、インターンシップを実施している。学生は、企業実習を通して学校では体得し難い貴重な経験をしており、後期以降の学習に対する姿勢や卒業後の進路決定に大いに役立っている。学外実習

報告会は、3年生同席のなか、例年、夏季休業明けの10月～11月ごろに実施している。ただし、R2年度は新型コロナウイルスの蔓延の影響で実施はできず、一部の学生がオンラインを通じて会社見学会に参加した。また、卒業研究指導では持続可能な産業と社会を実現するために、環境、エネルギー、バイオ、新材料に関して、有機合成化学、電子応用化学、生物化学工学、プロセス工学の4グループで教育・研究体制を構築し、4年次後期からの卒業研究室配属を通じて、専攻科生や上位学年の学生による学年の枠を超えた教育活動の実践を含む、少人数による質の高い技術者・研究者の育成に取り組んでいる。例年、5年生卒業研究中間発表会をポスター発表形式で11月～12月に実施している。ポスター発表会には、教職員、専攻科生だけでなく物質化学工学科の4年生も参加しており、5年生は自分の研究を熱心に説明し質疑に答えている。ポスター形式での発表の導入によって、5年生が自分の研究テーマに対する理解を深める効果が高まっただけでなく、説明力やプレゼンテーション力を高める効果も得られている。4年生にとっても、卒業研究室の配属先を選ぶ上での情報を得る貴重な機会になっている。ただし、R2年度は新型コロナウイルスの蔓延の影響で、上記の中間発表会はオンラインで行なった。4年次11月での卒業研究室配属は、H4年から当学科が独自に導入したシステムで、4年生にとっては、早くから指導教員に進路相談をできることに加え、専攻科生や5年生に体験談を聞けるため大きな心の支えとなっている。5年生にとっても4年生への指導を通じてコミュニケーション能力の向上や人格形成にも役立つ等、高い教育効果が望めることから現在も継続して実施している。

なお、H31年度に入学した現2年生は、現カリキュラムが適用される初年度の学年である。また、他の学年についても、一斉に新カリキュラムに移行している。これらを踏まえて、新カリキュラムへの移行にあつては、教育効果に加え、学習内容に無理や重複が生じないように十分配慮した。

## (2) 教育環境

R2年度の物質化学工学科は、教員数12名（教授5名、准教授5名、講師1名、助教1名）の体制で教育・研究を行なった。当学科の教員は全員が学位（博士）を有しており、うち、衛生管理者の資格を有する教職員が2名、エックス線作業主任者資格を有する教員が2名、その他危険物や圧力容器取扱の資格を有する教員が在籍している。危険な試薬を取り扱うことの多い学科であることから、このような有資格教職員による定期的な学科棟内巡回と環境測定を通じて、安全な教育研究環境を維持してきた。

施設・設備面では、AV機器を備えた多目的に利用できる視聴覚製図室への機材増強を図り、特別講演、講習会、実験・演習、講義、卒業及び特別研究等での積極的に活用した。視覚教材を用いた教育効果を高める取り組みだけでなく、学生のプレゼンテーション能力の

向上も図っている。また、教育予算の削減で分析機器の更新には苦慮しているが、学生が機器分析技術や原理を習得することの重要性と学生・教職員の教育研究活動の高度化と活性化、さらには産学連携活動の推進を鑑み、物質化学工学科機器分析センター（H25年度に高専教育の高度化予算の支援を受けて設立）では、引き続き高度な能力を有する技術者の育成、教職員及び学生の研究活動、さらには産学官連携活動の一端を担う重要な総合分析拠点としての活動を行なっている。分析装置の有効利用と維持管理の観点から、学内だけでなく学外にも広く門戸が開かれたとしての役割を担えるよう、文部科学省（JST）先端研究基盤共用促進事業に申請し、全国高専で唯一、採択され、H29年度より機器分析センターに設置されている研究設備・機器を共用化し、県内企業や近隣大学等による有効活用が進んでいる。さらに、これら分析機器は、R2年度に新たに設置される共通機器管理センターに登録され、運用が進められている。上記に加え、高専発「Society5.0型未来技術人財」育成事業のGEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）にも参画して、分析機器を通じた教育・研究だけではなく、技術開発を通じて人材を育成する社会貢献も行う方向で検討されている。

### （3）進路指導

物質化学工学科では、卒業研究室の仮配属を行うH31年度から進路説明会や卒業研究指導教員等を通じて個別に進路相談が行える体制を構築し、早期から進路指導を継続的に実施している。例年、4年生の1月に、クラス全員に4月の始業式直後に実力試験を実施する旨を告げるとともに、進路希望調査、履歴書作成や面接指導を実施し、春季休業中に4年間の総復習をして実力をつけるように指導している。また、例年、4年生の12月末から2月中旬ごろの適当な時期に保護者対象懇談会を開催し、前年度5年生の進路状況と次年度の進路状況予測とともに、学科の進路指導方針について説明を行い、面接等に向けて家庭での協力を依頼と三者面談を実施している。さらに、2月下旬から3月上旬には、学科主催の卒業生による企業説明会の開催、3月上旬には就職希望学生を集めた個人面談を実施し、選考を受ける企業決定を促している。ただし、H31年度はコロナ感染拡大防止のための緊急事態宣言発令による登校禁止措置のため、マイクロソフト社のTeamsを通じた遠隔面談による進路指導体制を早期に構築し、シームレスな対応を行なった。したがって、対面式の保護者懇談会と三者面談の実施は見送られた。また、卒業生による会社説明会はオンラインで実施した。なお、就職希望学生については、4年生の3月中にオンラインによる二者面談により進路指導を行なった。

また、進学希望の学生については、例年、4月の始業式直後に実施する実力試験結果と4年生までの成績を踏まえて進路指導を行なっている。なお、実力試験は、専門科目について、物質化学工学科の教員が分担して出題・採点を行なった。実力試験で基準以上の成績を収め



た場合、4年生までの成績が推薦基準に満たない学生でも、大学編入や専攻科への推薦を受けられる場合があること、あるいはその逆もあり得ることを事前に伝えており、勉学の励みとなっている。なお、R2年度は、4月の実力試験も見送られ、各研究室の指導教員を通じて進学指導を行なった。大学編入や専攻科のための成績の推薦では、実力試験の点数を加味せずに4年生までの成績で算出する形での基準を設定した。R2年度卒業した本科生の進路状況は、就職13名、進学21名（内、奈良高専専攻科9名）であった。

R3年度卒業予定者については、4年生の3月中旬に学科主催の卒業生による企業説明会をすでに開催して、就職希望学生については3月中に二者面談を行なって方向性を検討した。また、R3年4月上旬に4年生保護者対象懇談会を開催して学科の進路方針についての説明を行い、各研究室の指導教員を通じて、進路指導を行なっている。

#### **（４）社会貢献と研究**

例年、若手教員を中心に学生の高専祭における学科展を支援するとともに、公開授業や出前授業等を通じた学外協力にも積極性に参画し、理科教育支援及び産学連携活動を推進している。また、学科としての入試対策及び広報活動としては、学科紹介パネル、各教員の研究紹介パネル、パワーポイントを用いた学科紹介スライドの整備を推進し、学校説明会や各種産学連携行事において、学外からの訪問者や中学生等への学科説明に活用している。さらに、これらの広報資料は、低学年の学生のホームルームや保護者懇談会等においても積極的に活用し、当学科に所属する学生やその保護者への情報提供に役立っている。さらに、学科内掲示用の英語版ポスターを作成して、海外からの訪問者等グローバル対応も強化している。

研究活動を通じた社会貢献は、各教員レベルで取り組んでいる。各教員は、それぞれ専門分野での学協会に所属して学会活動を行なっている。また、各学会の評議員や幹事、その他大会運営委員等を兼務している教員も多く、学内外で活発に活動している。さらに、科学技術研究費をはじめとする競争的資金、企業との共同研究・受託研究あるいは奨励寄付金を獲得する教員も多数おり、その研究成果を通じた社会貢献にも積極的に取り組んでいる。R2年度の科学研究費の採択件数は、新規3件と継続5件であった。

#### **（５）国際化に対応した先端的技術教育**

グローバル人材の育成に対応した技術教育への対応として、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムに基づいた英文電子ジャーナルを活用した卒業研究・講義等における文献調査の推進を行なっている。特に、学生に対する技術分野の外国語教育は、卒業研究において、英語の文献調査等、研究遂行による実践的な取り組みを通じて推進し、専門用語に

慣れる機会を増やして英語力の増強をはかっている。なお、卒業研究の時間は、週で8時間を確保している。また、卒業研究の図表作成時に英語表記を義務付けるとともに、教員だけでなく専攻科生を中心とした学生のグローバルな研究活動も推進しており、例年、複数名の学生が国内外で開催される国際会議において研究発表を行なっている。R2年度はオンラインで開催された国際会議に2名の専攻科生が参加・発表を行なった。また、H31年度は3年次以上のクラスにマレーシア、モンゴル、インドネシアからの留学生3名が在籍している。留学生と本校学生が英語を用いて無理なく交流できる環境が整っている。

例年、学生の海外派遣も積極的に推奨しており、タイプリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校で行われる日タイICTフェア・ゲームプログラミングハッカソンや高専機構主催海外インターンシップを通じてクアラルンプール（マレーシア）の現地企業において企業実習を経験したりしているが、H31年度はコロナ禍の影響で残念ながら海外への渡航は催行されていない。また、例年、国際工学教育シンポジウムISATEにも教員がTPC委員として参加し、工学教育手法に関して高専機構協定校と積極的に情報共有を行なっているが、H31年度は催行されなかった。

### 第3章 研究活動

#### 3.1 教育研究支援室における研究活動

【学会講演等】3件

◎ 技術職員のみ（1件）

1. 風の可視化とペーパークラフト風車の製作で風力を学ぶ教材の開発  
井上 智弘  
第12回全国高専技術教育研究発表会 in 久留米 プログラム・概要集, 2021年3月, pp.35-36

◎ 教職員(\*1)と本科生(\*2)および学外共同研究者(\*4)との連名（2件）

1. 高圧クーラント供給を用いた焼入れ鋼 SKD11 の断続切削における cBN の工具摩耗  
和田 任弘\*1, 藤原 聡大\*2, 森合 勇介\*4, 島田 大嗣  
日本設計工学会関西支部 2020 年度研究発表講演会, 2021 年 3 月, pp.23-24
2. 高圧クーラント供給を用いた Ti-6Al-4V 合金の切削  
和田 任弘\*1, 大島 伸\*2, 森合 勇介\*4, 井上 智弘  
日本設計工学会関西支部 2020 年度研究発表講演会, 2021 年 3 月, pp.31-32

#### 3.2 研究ならびに研究支援以外の活動状況

【広報活動等】（1件）

タイトル：「歯ブラシで動く金魚ロボットを作ろう！」  
開催日時：R3年3月7日（日）  
参加者名：島田 大嗣  
開催場所：三の丸会館  
開催組織：「第2回おしごとフェスタ in 大和郡山」

【研修・講習等への参加】（5件）

研修名：アルバックファイによるXPS講習会  
開催日時：R2年8月27日（木）～28日（金）  
参加者名：笹山 智仁, 加藤 綾子  
開催場所：奈良高専 視聴覚・製図室, 第2機器分析室  
主催：奈良高専 共通機器管理センター

研修名：AHEAD JAPAN CONFERENCE 2020 ONLINE PROGRAM  
開催日時：公開期間 R2年8月25日（火）～10月31日（土）  
参加者名：加藤 綾子  
開催場所：オンライン <https://vimeo.com/showcase/7448825>  
主催：一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会  
AHEAD JAPAN 2020年オンライン大会事務局

研修名：JEOLによるNMR講習会  
開催日時：R2年11月12日（木）  
参加者名：笹山 智仁，加藤 綾子  
開催場所：奈良高専 視聴覚・製図室，第2機器分析室  
主催：奈良高専 共通機器管理センター

研修名：島津テクノリサーチによるSPM講習会  
開催日時：R3年2月18日（木）  
参加者名：笹山 智仁，加藤 綾子  
開催場所：奈良高専 視聴覚・製図室，第3機器分析室  
主催：奈良高専 共通機器管理センター

研修名：2021技術職員研修会「幾何公差方式図面と三次元測定器教材の紹介」  
開催日時：R3年3月25日（木）～26日（金）  
参加者名：尾崎 充紀，島田 大嗣，井上 智弘，福田 龍一，萩原 奈月  
開催場所：Teams オンライン  
主催：沼津高専

## 第4章 奈良高専自己点検評価チェックリスト

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高専 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
1 教育の内部質保証システム	1-1 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。	1-1-① 【重点評価項目】教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。	1-1-①-(1)	1	学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門	
			1-1-①-(2)	2	(1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
			1-1-①-(3)	3	(1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。 ■設定している □設定していない	総務部門	
			1-1-② 【重点評価項目】内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	1-1-②-(1)	4	根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■収集・蓄積している □収集・蓄積していない	総務部門
				1-1-②-(2)	5	自己点検・評価を定期的実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
				1-1-②-(3)	6	(2)の結果を公表しているか。 ■公表している □公表していない	総務部門
			1-1-③ 【重点評価項目】学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。	1-1-③-(1)	7	自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、□就職・進学先関係者	教務部門
						自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、■就職・進学先関係者	学生部門
						自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、□卒業（修了）時の学生、□卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、■保護者、■就職・進学先関係者	養務・グローバル 教育部門
		自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教員、■職員、■在学生、■卒業（修了）時の学生、■卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生、□保護者、■就職・進学先関係者				専攻科・研究推進 部門	
		1-1-③-(2)	8	自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	教務部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、□学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 □卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 □外部有識者の検証、□教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	学生部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、■学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	養務・グローバル 教育部門		
				自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） 【在学生の意見聴取】 □学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価）、□その他 【卒業（修了）時の意見聴取】 □卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、□卒業（修了）時の学生による満足度評価、□その他 【卒業（修了）後の意見聴取】 ■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価、■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。）、□設置計画履行状況調査、□その他	専攻科・研究推進 部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等		
					自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) 【在学生の意見聴取】 ■学習環境に関する評価、■学生による授業評価、□学生による教育・学習の達成度に関する評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、■学生による満足度評価(進級時等、卒業(修了)前の評価)、□その他 【卒業(修了)時の意見聴取】 ■卒業(修了)時の学生による教育・学習の達成度に関する評価、■卒業(修了)時の学生による満足度評価、□その他 【卒業(修了)後の意見聴取】 □卒業(修了)後の学生による学習成果の効果に関する評価、□卒業(修了)後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価、□その他 【外部評価】 ■外部有識者の検証、■教育活動に関する第三者評価(機関別認証評価、JABEE等。)、□設置計画履行状況調査、□その他	総務部門		
		1-1-④	【重点評価項目】自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。	1-1-④-(1)	9	自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。 ■整備されている □整備されていない	総務部門	
				1-1-④-(2)	10	前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	教務部門	
						前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	専攻科・研究推進部門	
						前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■対応している □対応していない □指摘を受けていない	総務部門	
				1-1-④-(3)	11	(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	教務部門	
						(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	学生部門	
						(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	寮務・グローバル教育部門	
						(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	専攻科・研究推進部門	
						(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■改善に向けた取組を行っている □改善に向けた取組を行っていない	総務部門	
	1-2	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて定められていること。	1-2-①	準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-①-(1)	12	ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門
				1-2-①-(2)	13	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようにするか」に重点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの。)と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門	
				1-2-①-(3)	14	卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質、能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	教務部門	
		1-2-②	準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-②-(1)	15	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他	教務部門	
				1-2-②-(2)	16	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	教務部門	
				1-2-②-(3)	17	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している ■学習成果をどのように評価するかを示している □その他	教務部門	
		1-2-③	準学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-③-(1)	18	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■準学士課程全体として定めている □学科ごとに定めている □その他	教務部門(入試)	
				1-2-③-(2)	19	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)は、学校の目的や学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの。)、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	教務部門(入試)	
				1-2-③-(3)	20	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)	
				1-2-③-(4)	21	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「求める学生像(受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門(入試)	
				1-2-③-(5)	22	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	教務部門(入試)	

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専修学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-④-(1)	23	ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門	
			1-2-④-(2)	24	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的と整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門	
			1-2-④-(3)	25	修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。 ■示している □示していない	専攻科・研究推進部門	
			1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑤-(1)	26	ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑤-(2)	27	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ■整合性を有している □整合性を有していない	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑤-(3)	28	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■どのような教育課程を編成するかを示している ■どのような教育内容・方法を実施するかを示している □学習成果をどのように評価するかを示している □その他	専攻科・研究推進部門
			1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	1-2-⑥-(1)	29	ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■専攻科課程全体として定めている ■専攻ごとに定めている □その他	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑥-(2)	30	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■目的・方針等を踏まえて策定している □目的・方針等を踏まえて策定していない	専攻科・研究推進部門
				1-2-⑥-(3)	31	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門
		1-2-⑥-(4)		32	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■明示している □明示していない	専攻科・研究推進部門	
		1-2-⑥-(5)		33	受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。 ■含まれている □含まれていない	専攻科・研究推進部門	
		1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。	1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。	1-3-①-(1)	34	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門
						学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門
						学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
				1-3-①-(2)	35	学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	教務部門
				学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	専攻科・研究推進部門		
				学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない	総務部門		
2 教育組織及び教員・教育支援者等	2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。	2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-①-(1)	36	学科の構成が学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	教務部門	
		2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。	2-1-②-(1)	37	専攻の構成が学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。 ■整合性がとれている □整合性がとれていない	専攻科・研究推進部門	
		2-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。	2-1-③-(1)	38	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	奈良・グローバル教育部門	
					教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進部門	
				教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門		

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			2-1-③-(2)	39	(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	業務・グローバル 教育部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
					(1)の体制の下、必要な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
	2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。	2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	2-2-①-(1)	40	一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(2)	41	専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(3)	42	専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			2-2-①-(4)	43	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	教務部門
			2-2-①-(5)	44	適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■博士の学位 □ネイティブスピーカー(担当する言語を母国語とする) □技術資格 ■実務経験(教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等) □海外経験 □その他	総務部門
		2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。	2-2-②-(1)	45	専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。 ■適切に確保している □適切に確保していない	専攻科・研究推進 部門
			2-2-②-(2)	46	適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門
			2-2-②-(3)	47	適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。 ■担当が適切である □担当が適切でない	専攻科・研究推進 部門
		2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。	2-2-③-(1)	48	教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。 ■配慮している □配慮していない	総務部門
			2-2-③-(2)	49	(1)以外に配慮している措置はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■教育経歴 ■実務経験 ■男女比 □その他	総務部門
			2-2-③-(3)	50	在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学位取得に関する支援 ■任期制の導入 ■公募制の導入 ■教員表彰制度の導入 □企業研修への参加支援 ■校長裁量経費の予算配分 □めどりの時間確保策の導入 □サバティカル制度の導入 ■他の教育機関との人事交流 □その他	総務部門
	2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。	2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。	2-3-①-(1)	51	全教員(非常勤教員を除く。)に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			2-3-①-(2)	52	(1)の体制の下、教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
			2-3-①-(3)	53	把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。(該当する選択肢にチェック■する。) □給与における措置 ■研究費配分における措置 □教員組織の見直し ■表彰 □その他	総務部門
			2-3-①-(4)	54	非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。 ■実施している □実施していない	教務部門
		2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。	2-3-②-(1)	55	教員(非常勤教員を除く。)の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門
			2-3-②-(2)	56	(1)で定められている基準等では、教育上の能力等を確認する仕組みとなっているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■模擬授業の実施 ■教育歴の確認 ■実務経験の確認 □海外経験の確認 □国際的な活動実績の確認 ■その他	総務部門
			2-3-②-(3)	57	(1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			2-3-②-(4)	58	非常勤教員の採用基準等を定めているか。 ■定めている □定めていない	総務部門



基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等				
2-4	教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。	2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。	2-4-①-(1)	59	学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門				
			2-4-①-(2)	60	定期的なFDを実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門				
			2-4-①-(3)	61	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	教務部門				
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	学生部門				
					(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	寮務・グローバル 教育部門				
			2-4-②	2-4-②-(1)	62	(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない	専攻科・研究推進 部門			
		(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない				総務部門				
		(2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない				総務部門				
		2-4-③	2-4-③-(1)	64	教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	総務部門				
					図書館に司書の専門的職員を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない	総務部門				
					教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。 ■行っている □行っていない	総務部門				
		3	学習環境及び 学生支援等	3-1-① 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。	3-1-①-(1)	65	校地面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門		
3-1-①-(2)	66				校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門				
3-1-①-(3)	67				運動場を設けているか。 ■校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている □その他の適当な位置に設けている □設けていない	総務部門				
3-1-①-(4)	68				高等専門学校校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。 ■備えている □備えていない	総務部門				
3-1-①-(5)	69				学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■実験・実習工場 □練習船 □その他	総務部門				
3-1-①-(6)	70				自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	教務部門				
					自主的学習スペースを設けているか。 ■設けている □設けていない	寮務・グローバル 教育部門				
3-1-①-(7)	71				教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	教務部門				
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■厚生施設 □コミュニケーションスペース □その他	学生部門				
					教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □厚生施設 ■コミュニケーションスペース □その他	寮務・グローバル 教育部門				
3-1-①-(8)	72				施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門				
3-1-①-(9)	73				(8)の体制が有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	総務部門				
3-1-①-(10)	74				施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門				
3-1-①-(11)	75				整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門				
3-1-①-(12)	76				(11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門				
3-1-②	2-4-②				3-1-②-(1)	77	教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備されているか。 ■整備している □整備していない	教務部門		
							3-1-②-(2)	78	ICT環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
							3-1-②-(3)	79	ICT環境は有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			3-1-②-(4)	80	(3)について学生や教職員のICT環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			3-1-②-(5)	81	(4)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門
		3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	3-1-③-(1)	82	図書館の設備を法令に従い備えているか。 ■備えている □備えていない	教務部門
			3-1-③-(2)	83	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。 ■系統的に収集、整理している □系統的に収集、整理していない	教務部門
			3-1-③-(3)	84	(2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。 ■活用されている □活用されていない	教務部門
			3-1-③-(4)	85	(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
	3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。	3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。	3-2-①-(1)	86	教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 ■編入学生 ■留学生 ■障害のある学生 □社会人学生 □その他 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■学科生 ■専攻科生 □編入学生 □留学生 ■障害のある学生 ■社会人学生 □その他	教務部門 専攻科・研究推進部門
		3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	3-2-②-(1)	87	学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 □資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □担任制・指導教員制の整備 □オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の整備 ■オフィスアワーの整備 □対面型の相談受付体制の整備 □電子メールによる相談受付体制の整備 □ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備 ■資格試験・検定試験等の支援体制の整備 ■外国への留学に関する支援体制の整備 ■その他	教務部門 寮務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(2)	88	(1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない (1)は、学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	教務部門 寮務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(3)	89	学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 ■学生との懇談会 ■意見投書箱 □その他 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■担任制・指導教員制の導入 □学生との懇談会 □意見投書箱 □その他	教務部門 専攻科・研究推進部門
			3-2-②-(4)	90	(3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない (3)は、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	教務部門 寮務・グローバル教育部門 専攻科・研究推進部門
		3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われ	3-2-③-(1)	91	留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル教育部門
			3-2-③-(2)	92	(1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	寮務・グローバル教育部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専修学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
		ているか。	3-2-③-(3)	93	編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
			3-2-③-(4)	94	(3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
			3-2-③-(5)	95	社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(6)	96	(5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(7)	97	障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(8)	98	(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					(7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(9)	99	障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	教務部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	学生部門
					障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条 項も含む。）に対応しているか。 ■対応している □対応していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-③-(10)	100	上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	学生部門
					上記以外の特別な支援を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
		3-2-④ 学生の生活や経済 面に係る指導・ 相談・助言等を行 う体制が整備され、機能している か。	3-2-④-(1)	101	学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備し ているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■学生相談室 ■保健センター ■相談員やカウンセラーの配置 ■ハラスメント等の相談体制 ■学生に対する相談の案内等 ■奨学金 ■授業料減免 □特待生 ■緊急時の貸与等の制度 □その他	学生部門
			3-2-④-(2)	102	(2)健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に行っているか。 ■実施している □実施していない	学生部門
			3-2-④-(3)	103	(3)(2)以外で、(1)の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助 言等の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない	学生部門
		3-2-⑤ 就職や進学等の進路 指導を含め、 キャリア教育の体 制が整備され、機 能しているか。	3-2-⑤-(1)	104	就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
					就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(2)	105	(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校とし てどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■キャリア教育に関する研究会・講演会の実施 ■進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 ■進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 □資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	学生部門
					(1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校とし てどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） □キャリア教育に関する研究会・講演会の実施 □進路指導用マニュアルの作成 ■進路指導ガイダンスの実施 □進路指導室 ■進路先（企業）訪問 ■進学・就職に関する説明会 □資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談 □資格取得による単位修得の認定 ■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等 □その他	専攻科・研究推進 部門
			3-2-⑤-(3)	106	(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専修学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
					(2)の取組が機能しているか。 ■機能している □機能していない	専攻科・研究推進 部門
		3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	3-2-⑥-(1)	107	学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	学生部門
			3-2-⑥-(2)	108	(1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	学生部門
			3-2-⑥-(3)	109	学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。 ■機能している □機能していない	学生部門
		3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	3-2-⑦-(1)	110	学生寮を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル 教育部門
			3-2-⑦-(2)	111	生活の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル 教育部門
			3-2-⑦-(3)	112	勉学の場として整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル 教育部門
			3-2-⑦-(4)	113	(2)(3)について、有効に機能しているか。 ■機能している □機能していない	寮務・グローバル 教育部門
			3-2-⑦-(5)	114	管理・運営体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	寮務・グローバル 教育部門
4 財務基盤及び 管理運営	4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。	4-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-1-①-(1)	115	過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
			4-1-①-(2)	116	校地、校舎等の資産を保有しているか。 ■保有している □保有していない	総務部門
			4-1-①-(3)	117	過去5年間に於いて運営費交付金、授業料、入学科、検定料等の経常的な収入を確保しているか。 ■確保している □確保できない年があった	総務部門
			4-1-①-(4)	118	過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。 ■支出超過となっていない □支出超過となった年があった	総務部門
		4-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等を策定され、関係者に明示されているか。	4-1-②-(1)	119	収支に係る方針、計画等を策定しているか。 ■策定している □策定していない	総務部門
			4-1-②-(2)	120	(1)を関係者（教職員等）へ明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門
		4-1-③ 学校の目的を達成するために、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	4-1-③-(1)	121	学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
			4-1-③-(2)	122	資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。 ■整合性がある □整合性がない	総務部門
			4-1-③-(3)	123	資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明示しているか。 ■明示している □明示していない	総務部門
		4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-1-④-(1)	124	設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公表しているか。 ■作成・公表している □作成・公表していない	総務部門
			4-1-④-(2)	125	財務に係る監査等を実施しているか。 ■実施している □実施していない	総務部門
	4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。	4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	4-2-①-(1)	126	管理運営体制に関する規程等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(2)	127	委員会等の体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(3)	128	校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	総務部門
			4-2-①-(4)	129	事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-①-(5)	130	教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連絡体制を確保しているか。 ■確保している □確保していない	総務部門
			4-2-①-(6)	131	(1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	4-2-②-(1)	132	学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-②-(2)	133	危機管理マニュアル等を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門
			4-2-②-(3)	134	(1)(2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門
		4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	4-2-③-(1)	135	外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学金助成金、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 整理番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等							
		4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。	4-2-③-(2)	136	公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。 ■ 整備されている □ 整備されていない	総務部門							
			4-2-④-(1)	137	外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■ 活用している □ 活用していない  外部の教育・研究資源を活用しているか。 ■ 活用している □ 活用していない	教務部門 専攻科・研究推進部門							
			4-2-⑤	138	S/D等を実施しているか。 ■ 実施している □ 実施していない	総務部門							
		4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。	4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規定される事項を含む。）が公表されているか。	4-3-①-(1)	139	教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェックする。） ■ 高等専門学校での教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■ 教育研究上の基本組織 □ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■ 入学者の数、取容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■ 授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■ 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	教務部門						
						教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェックする。） □ 高等専門学校での教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 □ 教育研究上の基本組織 □ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 □ 入学者の数、取容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 □ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 □ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 ■ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■ 授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■ 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	学生部門						
						教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェックする。） ■ 高等専門学校での教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■ 教育研究上の基本組織 ■ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■ 入学者の数、取容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 □ 授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 □ 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	専攻科・研究推進部門						
						教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェックする。） ■ 高等専門学校での教育上の目的及び学校教育法施行規則第165条の2第1項の規定により定める方針 ■ 教育研究上の基本組織 ■ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績 ■ 入学者の数、取容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 ■ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画 ■ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 □ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ■ 授業料、入学科その他の高等専門学校が徴収する費用 ■ 高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	総務部門						
						5-1 準学士課程の教育課程・教育方法	5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。	5-1-①-(1)	140	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■ 配置している □ 配置していない	教務部門		
						5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。				5-1-②-(1)	145	学生が多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢にチェックする。） □ 他学科の授業科目の履修を認定 ■ インターシップによる単位認定 ■ 正規の教育課程に関する補充教育の実施 ■ 専攻科課程教育との連携 □ 外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成 ■ 資格取得に関する教育 ■ 他の高等教育機関との単位互換制度 ■ 個別の授業科目内での工夫 ■ 最先端の技術に関する教育 □ その他	教務部門
												5-1-②-(2)	146
5-1-②-(3)	142	進級に関する規定を整備しているか。 ■ 整備している □ 整備していない	教務部門										
		5-1-②-(4)	143	1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。 ■ 確保している □ 確保していない	教務部門								
				5-1-②-(5)	144								
5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。	5-1-③-(1)	147	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■ 行っている □ 行っていない	教務部門									

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
			5-1-③-(2)	148	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
	準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。	5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	5-2-①-(1)	149	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	教務部門
5-2-①-(2)			150	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■教材の工夫 □少人数教育 ■対話・討論型授業 □フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	教務部門	
5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。		5-2-②-(1)	151	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業科目名 ■単位数 ■授業形態 ■対象学年 ■担当教員名 ■教育目標等との関係 ■達成目標 ■教育方法 ■教育内容（1授業時間ごとに記載） ■成績評価方法・基準 ■事前に行う準備学習 ■高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ■教科書・参考文献 □その他	教務部門	
5-2-②-(2)		152	教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。 ■改善を行っている □改善を行っていない	教務部門		
5-2-②-(3)		153	設置基準17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。 ■確保している □確保していない	教務部門		
5-2-②-(4)		154	(3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。 □1単位時間=50分で規定・運用 ■1単位時間=50分で規定、45分で運用	教務部門		
5-2-②-(5)		155	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 ■明示している □明示していない	教務部門		
5-2-②-(6)		156	(5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■授業外学習の必要性の周知 ■事前学習の徹底 ■事後展開学習の徹底 ■授業外学習の時間の把握 □その他	教務部門		
準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。		5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	5-3-①-(1)	157	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	教務部門
			5-3-①-(2)	158	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門
	5-3-①-(3)		159	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門	
	5-3-①-(4)		160	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	教務部門	
	5-3-①-(5)		161	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	教務部門	
	5-3-①-(6)		162	追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門	
	5-3-①-(7)		163	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	教務部門	
	5-3-①-(8)		164	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 ■成績分布のガイドラインの設定 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	教務部門	
5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に	5-3-②-(1)	165	学期等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門		
					成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 ■成績分布のガイドラインの設定 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	総務部門

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専門学校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等			
			5-3-②-(2)	166	卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	教務部門			
			5-3-②-(3)	167	卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 ■認定している □認定していない	教務部門			
			5-3-②-(4)	168	卒業認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知をしていない	教務部門			
			5-3-②-(5)	169	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握をしていない	教務部門			
6	準学士課程の 学生の受入れ	6-1-① 入学者の受入れが、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。	6-1-①-(1)	170	入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門			
			6-1-②-(1)	171	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門			
			6-1-②-(2)	172	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門			
			6-1-②-(2)	172	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	教務部門			
			6-1-②-(2)	172	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	総務部門			
			6-1-②-(3)	173	(2)の検証の結果を入学選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	教務部門			
			6-1-③-(1)	174	実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。 ■定めている □定めていない	教務部門			
			6-1-③-(2)	175	学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門			
			6-1-③-(3)	176	過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ■適正である □超過又は不足がある	教務部門			
			6-1-③-(4)	177	過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 □行っている □行っていない ■過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	教務部門			
			7	準学士課程の 学習・教育の 成果	7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。	7-1-①-(1)	178	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	教務部門
						7-1-①-(2)	179	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	教務部門
7-1-①-(3)	180	(2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない				教務部門			
7-1-②-(1)	181	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない				専攻科・研究推進部門			
7-1-②-(1)	181	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない				教務部門			
7-1-②-(2)	182	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない				総務部門			
7-1-②-(3)	183	学生が卒業時に身に付けてきた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない				専攻科・研究推進部門			
7-1-②-(3)	183	学生が卒業時に身に付けてきた学力、資質・能力について、卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない				総務部門			
7-1-②-(4)	184	学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない				専攻科・研究推進部門			
7-1-②-(5)	185	(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない				専攻科・研究推進部門			
7-1-②-(5)	185	(2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない				総務部門			
7-1-③-(1)	186	就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない				教務部門			

基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専修校 番号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等
		られるか。			学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	学生部門
			7-1-③-(2)	187	学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない  学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	教務部門  学生部門
8 専攻科課程の教育活動の状況	8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)並びに修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、成績評価、単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	8-1-①-(1)	188	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■配置している □配置していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	8-1-②-(1)	189	専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ■考慮している □考慮していない	専攻科・研究推進部門
		8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	8-1-③-(1)	190	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■採用されている □採用されていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-③-(2)	191	教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 □基礎学力不足の学生に対する配慮 □一般科目と専門科目との連携 □その他	専攻科・研究推進部門
		8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	8-1-④-(1)	192	学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	8-1-⑤-(1)	193	成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(2)	194	成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(3)	195	1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置していることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(4)	196	成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(5)	197	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(6)	198	追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(7)	199	成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑤-(8)	200	成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) ■成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 □成績分布のガイドラインの設定 □複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	専攻科・研究推進部門
		8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	8-1-⑥-(1)	201	学則等に、修業年限を1年以上と定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(2)	202	修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、修了認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(3)	203	修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 ■認定している □認定していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(4)	204	修了認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない	専攻科・研究推進部門
			8-1-⑥-(5)	205	(4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	専攻科・研究推進部門
	8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	8-2-① 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な入学選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	8-2-①-(1)	206	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)、特に入学選抜の基本方針に沿った入学選抜方法(学生募集の方針、選抜区分(学力選抜、推薦選抜等)、面接内容、配点・出題方針等)となっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進部門



基準	評価の視点	観点	項目	奈良高等 専修 用整理番 号	自己点検・評価結果欄	チェックを担当 する部門等	
		8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	8-2-②-(1)	207	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門	
			8-2-②-(2)	208	検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	総務部門	
			8-2-②-(3)	209	(1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門	
		8-2-③ 実入学人数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学人数との関係の適正化が図られているか。	8-2-③-(1)	210	学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	専攻科・研究推進 部門	
			8-2-③-(2)	211	専攻ごとの入学定員と実入学人数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門	
			8-2-③-(3)	212	過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学人数が適正であるか。 □適正である ■超過又は不足がある	専攻科・研究推進 部門	
			8-2-③-(4)	213	過去5年間で、実入学人数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ■行っている □行っていない □過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	専攻科・研究推進 部門	
		8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-①-(1)	214	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-①-(2)	215	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-①-(3)	216	(2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
			8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-②-(1)	217	学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-②-(2)	218	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-②-(3)	219	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-②-(4)	220	学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	専攻科・研究推進 部門
				8-3-②-(5)	221	(2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門
8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-③-(1)		222	学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門		
	8-3-③-(2)		223	学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	専攻科・研究推進 部門		
8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-3-④-(1)		224	過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	専攻科・研究推進 部門		
9 その他	9-1 いじめの未然防止、早期発見等のための対策が組織的に取られていること。		9-1-① 全学的にいじめ防止等対策に取り組んでいるか。	9-1-①-(1)	225	(1)いじめ対策の基本計画は定められているか ■定められている □定められていない。	学生部門
				9-1-①-(2)	226	(2)いじめ対策マニュアルを整備しているか ■整備している。 □整備していない。	学生部門
				9-1-①-(3)	227	(3)いじめ対策プログラムは計画しているか ■計画している。 □計画していない。	学生部門

## 資料編

### 第 1 章 教育に関する評価関係

## 入試説明会等状況

## 中学校教諭対象入試説明会

年度	奈良	大阪	京都	その他	合計
H23	69名	16名	7名	3名	95名
24	70名	7名	8名	5名	90名
25	67名	16名	3名	2名	88名
26	66名	12名	7名	1名	86名
27	67名	13名	4名	0名	84名
28	58名	7名	2名	4名	71名
29	63名	7名	2名	0名	72名
30	73名	10名	13名	1名	97名
31	57名	18名	7名	2名	84名
R2	58名	21名	7名	3名	89名

## 中学生・保護者対象 学校&amp;入試説明会等

年度	学校・入試説明会				学校・入試説明会以外の 本校主催入試説明会の計		合計	
	10月下旬の土曜日		10月下旬の日曜日					
H23	117組	252名	158組	358名	108組	196名	383組	806名
24	97組	205名	172組	369名	129組	249名	398組	823名
25	119組	235名	128組	251名	170組	312名	417組	798名
26	80組	171名	117組	255名	152組	287名	349組	713名
27	92組	206名	134組	280名	214組	422名	440組	908名
28	85組	187名	90組	194名	215組	428名	390組	809名
29	113組	233名	99組	212名	249組	484名	461組	929名
30	組	名	127組	273名	278組	574名	405組	847名
31	98組	214名	139組	295名	114組	230名	351組	739名
R2	99組	196名	89組	177名	85組	145名	273組	518名

※H30:12/9 1日開催

## 学習塾指導者対象入試説明会

年度	参加者数	
H23	33塾	37名
24	21塾	25名
25	40塾	45名
26	23塾	29名
27	28塾	32名
28	25塾	27名
29	28塾	29名
30	31塾	39名
31	21塾	25名
R2	17塾	17名

## 中学校訪問

年 度	訪 問	左のうち県内
H23	212 校	88 校
24	218 校	90 校
25	216 校	90 校
26	221 校	91 校
27	242 校	92 校
28	243 校	93 校
29	114 校	75 校
30	92 校	71 校
31	92 校	71 校
R2	- 校	- 校

R2年度 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み中止

## 体験入学

年 度	1日目	2日目	3日目	計
H23	181 名	169 名	169 名	519 名
24	185 名	181 名	192 名	558 名
25	201 名	194 名	175 名	570 名
26	206 名	174 名	163 名	543 名
27	189 名	196 名	153 名	538 名
28	187 名	190 名	144 名	521 名
29	182 名	180 名	136 名	498 名
30	167 名	164 名	178 名	509 名
31	199 名	193 名	189 名	581 名
R2	- 名	- 名	- 名	- 名

R2年度 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み中止

## 塾・中学校主催 学校説明会等参加状況

年 度	塾主催説明会	中学校主催説明会	中学校からの本校訪問	計
H23	10 回	10 回	1 回	21 回
24	12 回	11 回	6 回	29 回
25	13 回	10 回	3 回	26 回
26	13 回	7 回	2 回	22 回
27	13 回	7 回	8 回	28 回
28	12 回	8 回	4 回	24 回
29	8 回	6 回	1 回	15 回
30	6 回	8 回	1 回	15 回
31	8 回	5 回	3 回	16 回
R2	3 回	3 回	0 回	6 回

## 入 学 試 験 状 況

( )は女子で内数

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合 計
H23	総志願者	80	65	70	69	98	382 (54)
	志願者倍率	2.0	1.6	1.8	1.7	2.5	1.9
	推薦志願者数	26	45	28	38	65	202 (41)
	入学者数	41 (1)	42 (3)	40 (2)	42 (7)	40 (11)	205 (24)
24	総志願者	68	84	63	75	69	359 (48)
	志願者倍率	1.7	2.1	1.6	1.9	1.7	1.8
	推薦志願者数	17	61	32	44	45	199 (33)
	入学者数	40 (5)	40 (6)	42 (1)	41 (4)	40 (9)	203 (25)
25	総志願者	74	64	73	89	72	372 (59)
	志願者倍率	1.9	1.6	1.8	2.2	1.8	1.9
	推薦志願者数	29	40	39	44	54	206 (48)
	入学者数	40 (1)	42 (4)	42 (5)	42 (3)	41 (18)	207 (31)
26	総志願者	68	49	85	86	78	366 (44)
	志願者倍率	1.7	1.2	2.1	2.2	2.0	1.8
	推薦志願者数	30	26	50	37	43	186 (34)
	入学者数	42 (1)	42 (9)	40 (2)	41 (2)	41 (10)	206 (24)
27	総志願者	52	64	64	56	54	290 (43)
	志願者倍率	1.3	1.6	1.6	1.4	1.4	1.5
	推薦志願者数	25	30	35	27	36	153 (25)
	入学者数	42 (2)	42 (5)	40 (0)	42 (6)	41 (14)	207 (27)
28	総志願者	59	56	67	79	53	314 (60)
	志願者倍率	1.5	1.4	1.7	2.0	1.3	1.6
	推薦志願者数	33	35	40	43	33	184 (46)
	入学者数	41 (7)	41 (9)	41 (7)	40 (7)	42 (14)	205 (44)
29	総志願者	52	49	53	51	59	264 (50)
	志願者倍率	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5	1.3
	推薦志願者数	21	23	32	26	34	136 (33)
	入学者数	42 (5)	42 (9)	40 (4)	41 (8)	42 (15)	207 (41)
30	総志願者	52	51	69	75	52	299 (50)
	志願者倍率	1.3	1.3	1.7	1.9	1.3	1.5
	推薦志願者数	30	40	37	38	32	177 (39)
	入学者数	41 (3)	41 (4)	42 (2)	40 (4)	40 (20)	204 (33)
31	総志願者	55	48	53	88	64	308 (67)
	志願者倍率	1.4	1.2	1.3	2.2	1.6	1.5
	推薦志願者数	27	26	35	48	44	180 (45)
	入学者数	42 (6)	40 (6)	41 (2)	41 (12)	41 (19)	205 (45)
2020	総志願者	52	70	60	71	58	311 (51)
	志願者倍率	1.3	1.8	1.5	1.8	1.5	1.6
	推薦志願者数	41	44	41	38	46	210 (42)
	入学者数	41 (4)	42 (9)	42 (0)	40 (6)	40 (18)	205 (37)
R3	総志願者	35	39	50	78	45	247 (50)
	志願者倍率	0.9	1.0	1.3	2.0	1.1	1.2
	推薦志願者数	19	23	32	49	30	153 (44)
	入学者数	40 (6)	42 (8)	41 (3)	42 (13)	40 (16)	205 (46)

※ 志願者倍率は、総志願者数を入学定員(学科欄は40名、合計欄は200名)で割ったもの。

## 編入学試験状況

年度		機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科	合計	志願者数 内訳	
								工業系	普通科
H22	志願者数	1	3	2	5	0	11	10	1
	合格者数	0	1	2	1	0	4	工業系	普通科
	入学者数	0	1	2	1	0	4		
23	志願者数	1	2	1	4	0	8	6	2
	合格者数	1	0	0	1	0	2	工業系	普通科
	入学者数	1	0	0	1	0	2		
24	志願者数	3	2	1	2	1	9	9	0
	合格者数	1	1	1	2	1	6	工業系	普通科
	入学者数	1	1	1	1	1	5		
25	志願者数	0	1	1	2	1	5	5	0
	合格者数	0	1	0	0	0	1	工業系	普通科
	入学者数	0	1	0	0	0	1		
26	志願者数	1	3	0	2	0	6		
	合格者数	0	1	0	1	0	2		
	入学者数	0	1	0	1	0	2		
27	志願者数	3	1	0	1	0	5		
	合格者数	1	1	0	0	0	2		
	入学者数	1	1	0	0	0	2		
28	志願者数	0	1	0	2	0	3		
	合格者数	0	0	0	2	0	2		
	入学者数	0	0	0	2	0	2		
29	志願者数	1	0	1	2	0	4		
	合格者数	0	0	0	0	0	0		
	入学者数	0	0	0	0	0	0		
30	志願者数	1	1	0	3	0	5		
	合格者数	0	1	0	2	0	3		
	入学者数	0	1	0	2	0	3		
31	志願者数	1	2	0	3	0	6		
	合格者数	0	0	0	3	0	3		
	入学者数	0	0	0	3	0	3		
2020	志願者数	1	1	1	3	0	6		
	合格者数	0	1	0	3	0	4		
	入学者数	0	1	0	3	0	4		
R3	志願者数	0	3	0	3	1	7		
	合格者数	0	2	0	0	0	2		
	入学者数	0	2	0	0	0	2		

普通科の  
合格者1名普通科の  
合格者なしH26年度より  
普通科系廃止

一般科目 [令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語Ⅰ	3	3					学修単位
	国語Ⅱ	3		3				
	国語Ⅲ	2			2			
	国語表現法	2				2		
	地理	2	2					
	歴史	2		2				
	公共	2			2			
	政治・経済	2			2			
	現代社会と法	2					2	
	基礎数学α	4	4					
	基礎数学β	2	2					
	微分積分Ⅰ	4		4				
	微分積分Ⅱ	2			2			
	線形代数	2		2				
	数学特論α	2			2			
	数学特論β	1			1			
	地球惑星物理	1	1					
	物理Ⅰ	1	1					
	物理Ⅱ	3		3				
	生物	1	1					
	化学Ⅰ	2	2					
	化学Ⅱ	2		2				
	化学	4	4					
	保健・体育Ⅰ	2	2					
	保健・体育Ⅱ	2		2				
	体育理論Ⅰ	2			2			
	体育理論Ⅱ	2				2		
体育実技	1					1		
英語Ⅰ	3	3						
英語Ⅱ	3		3					
英語Ⅲ	2			2				
英語Ⅳ	4				4			
英語Ⅴ	2					2		
英文法Ⅰ	2	2						
英文法Ⅱ	2		2					
英文法Ⅲ	1			1				
選択必修科目	美術	2	※2					学修単位
	音楽	2	※2					※の内いずれか1科目を選択
	人間環境学	2					△2	学修単位
	地域学	2					△2	△の内いずれか1科目を選択
	日本文化学	2					△2	
必修科目 (留学生)	留学生の日本語	2			2			
選択科目	実用英語Ⅰ	1			1	(1)	(1)	( )は未修得者
	実用英語Ⅱ	1				1	(1)	
	実用英語Ⅲ	1					1	
	異文化交流Ⅰ	1	1					
	異文化交流Ⅱ	1		1				
	異文化交流Ⅲ	1			1			
	異文化交流Ⅳ	1				1		
	異文化交流Ⅴ	1					1	
	海外協働研修Ⅰ	1	1					
	海外協働研修Ⅱ	1		1				
	海外協働研修Ⅲ	1			1			
	海外協働研修Ⅳ	1				1		
	海外協働研修Ⅴ	1					1	
修得単位計		79[79]	25[27]	23[21]	16[16]	8[8]	7[7]	

専門科目（機械工学科）[令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 $\alpha$	2				2		学修単位
	応用数学 $\beta$	2				2		学修単位
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	機械工学基礎	2	2					
	機械工学ゼミナール	1				1		
	技術英語	2					2	学修単位
	材料学Ⅰ	1		1				
	材料学Ⅱ	2			2			
	機械工作法Ⅰ	2		2				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	2				2		学修単位
	材料力学演習	1				1		
	流体力学Ⅰ	2				2		学修単位
	流体力学Ⅱ	2				2		学修単位
	流体力学演習	1					1	
	熱工学Ⅰ	2				2		学修単位
	熱工学Ⅱ	2				2		学修単位
	熱工学演習	1					1	
	機械力学Ⅰ	2			2			
	機械力学Ⅱ	2				2		学修単位
	機械力学演習	1				1		
	電気電子工学	2			2			
	計測工学	2					2	学修単位
	制御工学Ⅰ	2				2		学修単位
	制御工学Ⅱ	2					2	学修単位
	応用制御工学	2					2	学修単位
	情報処理	2			2			
	数値計算法	1				1		
	機械設計製図Ⅰ	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	2		2				
創造設計	1			1				
機構学	2		2					
機械設計工学	2					2	学修単位	
機械設計工学演習	2					2		
生産システム工学	2					2	学修単位	
機械工作実習Ⅰ	3	3						
機械工作実習Ⅱ	3		3					
創造設計製作	3			3				
機械工学実験Ⅰ	3				3			
機械工学実験Ⅱ	2					2		
卒業研究	6					6		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	9	10	18	28	24	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	9	10	18	27	24	
	計	167	34	33	34	35	31	



専門科目 (電気工学科)[令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 $\alpha$	2				2		
	応用数学 $\beta$	2				2		
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2				2		
	基礎電気回路	2	2					
	電気・電子工学入門	1	1					
	環境リテラシー	1	1					
	電気回路Ⅰ	2		2				
	デジタル回路Ⅰ	1		1				
	プログラミング	2		2				
	電気回路演習	1		1				
	電磁気学Ⅰ	1		1				
	電磁気学Ⅱ	2			2			
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電子工学	2			2			
	計測工学	2			2			
	電気工学演習Ⅰ	2			2			
	デジタル回路Ⅱ	1			1			
	環境エレクトロニクス	1			1			
	アナログ回路	2				2		
	デジタルシステム	1				1		
	電磁気学Ⅲ	2				2		
	電気回路Ⅲ	2				2		
	電力変換回路	2				2		
	電気電子材料	2				2		
	通信工学	2				2		
	電気機器工学	2				2		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	環境エネルギー工学	2					2	
	制御工学Ⅱ	2					2	
	工業外国語	1					1	
	電気・電子工学実験Ⅰ	2		2				
ものづくり基礎実習	2		2					
電気・電子工学実験Ⅱ	2			2				
ものづくり応用実習	2			2				
電気・電子工学実験Ⅲ	2				2			
電気・電子工学創造実験	2				2			
電気・電子工学実験Ⅳ	4					4		
卒業研究	6					6		
選択必修	電気工学演習Ⅱ	1				1	いずれか 1単位を選択	
	電気機器設計	1				1		
選択科目	学外実習	1				1	学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 学修単位 10単位以上 を選択	
	電力系統工学	2				2		
	電気製図	2				2		
	高電圧工学	2				2		
	伝送工学	2				2		
	組み込みシステム	2				2		
	電気法規・設備工学	2				2		
	半導体工学	2				2		
専門科目開設単位計		94	6	11	18	30	29	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	28	25	
	計	167	31	34	34	36	32	

## 専門科目（電子制御工学科）[令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 $\alpha$	2			2			
	応用数学 $\beta$	2			2			
	応用物理Ⅰ	2			2			
	応用物理Ⅱ	2			2			
	基礎製図法	3	3					
	プログラミング	2		2				
	電気回路Ⅰ	2		2				
	材料・加工学	1		1				
	アルゴリズムとデータ構造	1			1			
	計算機アーキテクチャ	1			1			
	電気回路Ⅱ	2			2			
	電磁気学	2			2			
	電子工学	2			2			
	熱力学	2			2			
	計測工学Ⅰ	2			2			
	システム要素設計	2			2			
	熱工学	2				2		
	電子回路	2				2		
	材料力学	1				1		
	流体力学	1				1		
	制御工学Ⅰ	2				2		
	制御工学Ⅱ	2				2		
	計測工学Ⅱ	2				2		
	電磁気学演習	2				2		
	材料力学演習	1				1		
	流体力学演習	1				1		
	計測工学演習	1				1		
	数値解析	2					2	
	機械力学	2					2	
	機能性材料	2					2	
	制御工学Ⅲ	2					2	
	ロボティクスⅠ	2					2	
	ロボティクスⅡ	2					2	
システム工学	2					2		
応用システム設計	2					2		
システム設計製作	2				2			
機械工学実習	2		2					
電子制御工学実験Ⅰ	3	3						
電子制御工学実験Ⅱ	3		3					
電子制御工学実験Ⅲ	3			3				
電子制御工学実験Ⅳ	2				2			
卒業研究	7					7		
選択科目	学外実習	1				1	1単位以上選択	
	電子制御工学総合演習Ⅰ	1				1		
	電子制御工学総合演習Ⅱ	1				1		
専門科目開設単位計		90	8	10	19	28	25	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	8	10	19	27	24	
	計	167	33	33	35	35	31	

## 専門科目 (情報工学科)[令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					学修単位 学修単位
	応用数学 $\alpha$	2			2			
	応用数学 $\beta$	2			2			
	応用物理 I	2		2				
	応用物理 II	2			2			
	デジタル回路	2	2					
	情報工学概論	2	2					
	電気回路基礎	1		1				
	プログラミング基礎	1		1				
	プログラミング I	1		1				
	コンピュータシステム概論	1		1				
	論理回路 I	1		1				
	IT活用	2		2				
	情報数学	2		2				
	論理回路 II	2			2		学修単位	
	データベースとWebアプリケーション	1			1			
	情報アクティブラーニング I	2			2			
	プログラミング II	2			2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			2			
	データ構造とアルゴリズム	2			2			
	計算機ネットワーク I	2			2			
	数値計算・統計	2				2		
	コンピュータ援用論理設計	2				2		
	オペレーティングシステム	2				2		
	計算機言語処理	2				2		
	情報理論	2				2		
	情報セキュリティ	2				2		
	計算機ネットワーク II	2				2		
	プログラミング III	2				2		
	情報アクティブラーニング II	2				2		
	集積回路	2					2	
	情報工学特論	2					2	
	マルチメディア情報処理	2					2	
	信号処理	2					2	
	ソフトウェア工学	2					2	
情報戦略システム	2					2		
人工知能	2					2		
ヒューマンコンピュータインタラクション	2					2		
工業外国語	1					1		
情報工学実験 I	2		2					
情報工学実験 II	3			3				
情報工学実験 III	3				3			
卒業研究 I	4					4		
卒業研究 II	5					5		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	11	18	28	26	
修得単位	一般科目	79	25	23	16	8	7	
	専門科目	88	6	11	18	27	26	
	計	167	31	34	34	35	33	

## 専門科目 (物質化学工学科)[令和2年度開講科目一覧表]

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	情報リテラシー	2	2					
	応用数学 $\alpha$	2				2		学修単位
	応用数学 $\beta$	2				2		学修単位
	応用物理 I	2			2			
	応用物理 II	2				2		
	一般化学演習 I	1	1					
	一般化学演習 II	1		1				
	一般化学演習 III	1		1				
	化学特論 I	1	1					
	化学特論 II	1		1				
	分析化学	2			2			
	機器分析	2					2	学修単位
	有機化学 I	2		2				
	有機化学 II	2			2			
	有機化学 III	2				2		
	有機材料合成化学	1					1	
	機能性高分子化学	2					2	学修単位
	無機化学 I	2		2				
	無機化学 II	2			2			
	固体化学	2				2		学修単位
	基礎電気化学	2					2	学修単位
	物理化学 I	2			2			
	物理化学 II	2				2		
	基礎量子化学	2				2		
	生物化学 I	2		2				
	生物化学 II	2			2			
	生物化学 III	2				2		
	応用微生物学	1				1		
	分子生物学	2					2	学修単位
	生物化学工学	1				1		
	化学工学 I	2			2			
	化学工学 II	2				2		
	微粒子工学	2				2		学修単位
反応工学	2					2	学修単位	
環境分離工学	2					2	学修単位	
プロセス制御	2					2	学修単位	
物質化学工学実験 I	2	2						
物質化学工学実験 II	4		4					
物質化学工学実験 III	4			4				
物質化学工学実験 IV	4				4			
卒業研究	10					10		
選択科目	学外実習	1				1		
専門科目開設単位計		89	6	13	18	27	25	
修得単位	一般科目	79	27	21	16	8	7	
	専門科目	88	6	13	18	26	25	
	計	167	33	34	34	34	32	

## 特別活動

単位時間数	学年別配当		
	1年	2年	3年
90	30	30	30

## グローバルエンジニア養成教育プログラム [令和2年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考	
		本科	専攻科		
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1			
	英語アクティブラーニングII	1			
	グローバルコミュニケーション	2			
	異文化交流 I	1		※1, ※3	
	異文化交流 II	1			
	異文化交流 III	1			
	異文化交流 IV	1			
	異文化交流 V	1			
	海外協働研修 I	1		※2, ※3	
	海外協働研修 II	1			
	海外協働研修 III	1			
	海外協働研修 IV	1			
	海外協働研修 V	1			
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2	
		海外インターンシップ		2	
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2		
※1 異文化交流 I～Vのうち、1単位以上修得すること 異文化交流を修得している場合は選択不要 ※2 海外協働研修 I～Vのうち、1単位以上修得すること 海外研修 I～Vのいずれかを修得している場合は選択不要 ※3 グローバルエンジニア養成教育プログラム履修者以外の学生も受講できる					

## グローバル工学協働教育プログラム [令和2年度開講科目一覧表]

区分	科目名	単位数		備考
		本科	専攻科	
ベーシック	英語アクティブラーニングI	1		
	英語アクティブラーニングII	1		
	グローバルコミュニケーション	2		
	異文化交流 I	1		※1, ※3
	異文化交流 II	1		
	異文化交流 III	1		
	異文化交流 IV	1		
	異文化交流 V	1		
	海外協働研修 I	1		※2, ※3
	海外協働研修 II	1		
	海外協働研修 III	1		
	海外協働研修 IV	1		
	海外協働研修 V	1		
	グローバルチャレンジ	1		
	アドバンスト	アドバンスト・グローバルコミュニケーション		2
海外インターンシップ			2	※3, ※4
アドバンスト・グローバルエンジニアスキル			2	
アドバンスト・グローバルチャレンジ			2	※4
※1 異文化交流についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※2 海外協働研修についてはI～Vのうち、1単位以上修得すること ※3 グローバル工学協働教育プログラム履修者以外の学生も受講できる ※4 2単位以上修得すること				

## しなやか教育プログラム [令和2年度開講科目一覧表]

区分	科 目 名	単位数		備 考
		本科	専攻科	
ベーシック	エンジニアの感性と表現Ⅰ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅱ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅲ	1		
	エンジニアの感性と表現Ⅳ	1		
	基礎イノベティブワークショップ	1		
	応用イノベティブワークショップ	1		
	統合イノベティブワークショップ	1		
	ダイバーシティとインクルージョン	1		
アドバンス	エンジニアと経営		2	
	リーダーシップと意志決定		2	
	ビジネスデザイン		2	



## 専攻科 [令和2年度開講科目一覧表]

教養・専門基礎科目

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
教 養	選択必修	特修英語Ⅰ	2	2		4単位以上選択すること
		特修英語Ⅱ	2	2		
		プレゼンテーション英語	2		2	
		アドバンスト・グローバルコミュニケーション	2	2		
	選択必修	地域と世界の文化論	2		2	2単位以上選択すること
		リーダーシップと意思決定	2	2		※2
		ビジネスデザイン	2		2	※2
開設単位数計		14				
専 門 基 礎	必修	地域社会技術特論	2	2		
		技術者倫理	2	2		
	選択必修	数理科学	2	2		2科目以上を選択
		物理学特論A	2	2		
		物理学特論B	2		2	
	選 択	エンジニアと経営	2	2		※2
		インターンシップ	2		2	※3
		海外インターンシップ	2		2	※3、4
		アドバンスト・グローバルエンジニアスキル	2	2		※1
		アドバンスト・グローバルチャレンジ	2	2		※4
開設単位数計		20				
教養・専門基礎科目開設単位数計		34				
<p>教養 専門基礎科目修得単位数 計 20単位以上修得すること</p> <p>(※1) グローバル工学協働教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※2) しなやかエンジニア教育プログラム履修生は必修</p> <p>(※3) 物質化学工学科以外の出身学科で本科で「学外実習」未履修の場合はいずれかの科目を必修</p> <p>(※4) グローバル工学協働教育プログラム履修生はいずれかを履修すること</p>						

## 専攻科 [令和2年度開講科目一覧表]

専門科目 (システム創成工学専攻)

区分	科目名		単位数	学年別配当		備考	
				1年	2年		
専 門 必 修	工学基礎研究		10	10		いずれかを選択	
	地域創生工学研究		10	10			
	特別研究		10		10		
	システムデザイン演習		3	3			
	システム設計論Ⅰ		2	2			
	システム設計論Ⅱ		2	2			
	機械制御システムコース		電子情報設計技術基礎	2	2		
	電気電子システム、情報システムコース		機械設計技術基礎	2	2		
	機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅠ (機械制御系)	2	2		
	機械制御システムコース		研究力向上セミナーⅡ (機械制御系)	2	2		
	電気電子システムコース		研究力向上セミナー (電気電子系)	2	2		
	情報システムコース		研究力向上セミナーⅠ (情報系)	2	2		
	情報システムコース		研究力向上セミナーⅡ (情報系)	2		2	
	専門必修開設単位数 計			51	39	12	
専 門 選 択	機械制御システムコース		実用技術英語 (機械系)	2	2		
	電気電子システム、情報システムコース		実用技術英語 (電気電子・情報系)	2	2		
	3コース共通		計測工学特論	2		2	
			ヒューマンインターフェース	2		2	
	機械制御システムコース		油空圧制御工学	2	2		※1
			制御工学特論	2	2		
			特殊加工学	2		2	
			工業材料	2		2	
			流体力学特論	2		2	
			計算機援用設計	2		2	
	電気電子システムコース		電気電子回路特論	2	2		
			電磁気学特論	2	2		
			電子物性	2		2	
			エネルギーエレクトロニクス	2		2	
			情報伝送	2		2	
			電力システム工学特論	2		2	
	情報システムコース		計算理論	2	2		
			計算機ハードウェア	2	2		
			ソフトウェア設計	2		2	
			情報工学基礎論	2		2	
メディアシステム論			2		2		
専門選択開設単位数 計			44	16	28		
専門科目開設単位 計			95	55	40		
システム創成工学専攻 合計			129				
専門科目修得単位数 計 42単位以上							

(※1)電子制御工学科出身者は必修

## 専攻科 [令和2年度開講科目一覧表]

専門科目 (物質創成工学専攻)

区分	科目名	単位数	学年別配当		備考	
			1年	2年		
専 門	必 修	工学基礎研究	10	10		いずれかを選択
		地域創生工学研究	10	10		
		特別研究	10		10	
		研究リテラシー	2	2		
		実践化学英語	2	2		
		先端工学特論	2		2	
		専門必修開設単位数 計	36	24	12	
	選 択	量子化学	2	2		
		現代有機合成化学	2	2		
		物質分析工学	2	2		
		細胞工学	2	2		
		応用反応工学	2	2		
		選択的有機反応論	2		2	
		電子応用化学	2		2	
		資源エネルギー工学	2		2	
		生物構造化学	2		2	
		生物化学工学特論	2		2	
		拡散工学特論	2		2	
		専門選択開設単位数 計	22	10	12	
専門科目開設単位数 計		58	34	24		
物質創成工学専攻 合計		92				
専門科目修得単位数 計 42単位以上						

令和2年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

(前期)

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	水	1	金	1	月	1	水	1	土	1	火
	↑ 春季休業(5日まで)										
2	木	2	土	2	火	2	木	2	日	2	水
3	金	3	日	3	水	3	金	3	月	3	木
			憲法記念日								第1~3学年授業再開 全校集会(短縮授業)
4	土	4	月	4	木	4	土	4	火	4	金
			みどりの日								
5	日	5	火	5	金	5	日	5	水	5	土
			こどもの日								令和3年度専攻科入学試験(学力)
6	月	6	水	6	土	6	月	6	木	6	日
			振替休日				一部対面授業開始				
7	火	7	木	7	日	7	火	7	金	7	月
			HR 専攻科オリエンテーション(1年)								
8	水	8	金	8	月	8	水	8	土	8	火
			HR 専攻科ガイダンス(2年)								本科夏季休業(8月30日まで) ↑ 専攻科夏季休業(8月30日まで)
9	木	9	土	9	火	9	木	9	日	9	水
10	金	10	日	10	水	10	金	10	月	10	木
											山の日
11	土	11	月	11	木	11	土	11	火	11	金
			前期遠隔授業開始(本科・専攻科)								令和3年度専攻科入学試験合 格発表(学力)
12	日	12	火	12	金	12	日	12	水	12	土
13	月	13	水	13	土	13	月	13	木	13	日
14	火	14	木	14	日	14	火	14	金	14	月
			令和3年度専攻科入学試験(推薦)								↑ 前期末試験(本科・9/18まで)
15	水	15	金	15	月	15	水	15	土	15	火
16	木	16	土	16	火	16	木	16	日	16	水
17	金	17	日	17	水	17	金	17	月	17	木
			開校記念日(振替無し)								令和3年度編入学願書受付 (21日まで)
18	土	18	月	18	木	18	土	18	火	18	金
											↑ 専攻科前期授業終了
19	日	19	火	19	金	19	日	19	水	19	土
20	月	20	水	20	土	20	月	20	木	20	日
			令和3年度専攻科入学試験合 格発表(推薦)								
21	火	21	木	21	日	21	火	21	金	21	月
											敬老の日
22	水	22	金	22	月	22	水	22	土	22	火
											秋分の日
23	木	23	土	23	火	23	木	23	日	23	水
											補講日 試験受付日 令和3年度専攻科入学試験(社会人)
24	金	24	日	24	水	24	金	24	月	24	木
											令和3年度専攻科入学願書受 付(学力・社会人,28日まで)
25	土	25	月	25	木	25	土	25	火	25	金
26	日	26	火	26	金	26	日	26	水	26	土
27	月	27	水	27	土	27	月	27	木	27	日
28	火	28	木	28	日	28	火	28	金	28	月
29	水	29	金	29	月	29	水	29	土	29	火
											令和3年度専攻科入学試験合 格発表(社会人)
30	木	30	土	30	火	30	木	30	日	30	水
											令和3年度編入学試験 ↑ 開業
31	日	31	日	31	金	31	日	31	月	31	日
											第4~5学年及び専攻科編入期間 補講期間(第1~3学年 9月2日(水)ま で)

(後期)

令和2年度 年間行事予定表

奈良工業高等専門学校

日曜	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	日	曜	月	日	曜	月	日	曜	月	日	曜	月	日	曜	月	日	曜	月
1	木	後期授業開始(本科・専攻科)	1	日	↓ 学校・入試説明会(10月31日から)	1	火	1	金	元日	1	月	1	月	1	月	1	月
2	金		2	月		2	水	2	土		2	火	2	火	2	火	2	火
3	土		3	火	文化の日	3	木	3	日		3	水	3	水	3	水	3	水
4	日		4	水	眼科検診(全年)	4	金	4	月	全国高専体育大会(ラグビーフットボール9日まで)	4	木	4	木	4	木	4	木
5	月	心電図・X線検査(1年生・留學生)	5	木	火曜振替授業	5	土	5	火	開寮	5	金	5	金	5	金	5	金
6	火		6	金	高専祭準備日 健康診断(内科検診等)	6	日	6	水	全校集会	6	土	6	土	6	土	6	土
7	水		7	土	高専祭(オンライン)	7	月	7	木		7	日	7	日	7	日	7	日
8	木		8	日		8	火	8	金	臨時休業	8	月	8	月	8	月	8	月
9	金		9	月	金曜振替授業	9	水	9	土		9	火	9	火	9	火	9	火
10	土		10	火		10	木	10	日		10	水	10	水	10	水	10	水
11	日		11	水		11	金	11	金	成人の日	11	土	11	土	11	土	11	土
12	月		12	木		12	土	12	火		12	火	12	火	12	金	12	金
13	火		13	金		13	日	13	水	月曜振替授業	13	月	13	土	13	土	13	土
14	水		14	土	近畿地区英語プレゼン(18日まで) ↑ 公開授業(18日まで) 近畿地区高専体育大会(ラグビーフットボール)	14	月	14	木	入学試験前全校清掃 保健衛生教室(1年)	14	日	14	日	14	日	14	日
15	木		15	日		15	火	15	金	特別日課(登校禁止17日まで)	15	月	15	月	15	月	15	月
16	金		16	月		16	水	16	土	令和3年度入学試験(推薦)	16	火	16	火	16	火	16	火
17	土		17	火	補講日	17	木	17	日	(登校禁止)	17	水	17	水	17	水	17	水
18	日	近畿地区高専ロボコン	18	水	↑ 後期中間試験(本科・25日まで)	18	金	18	月		18	月	18	木	18	木	18	木
19	月		19	木		19	土	19	火		19	火	19	金	19	金	19	金
20	火		20	金		20	日	20	水		20	水	20	水	20	土	20	土
21	水		21	土		21	月	21	木		21	木	21	木	21	日	21	日
22	木	卒業生と語る会(3年)	22	日		22	火	22	金		22	金	22	月	22	月	22	月
23	金	OB・OG帰国試験日(1~3年) 特別日課(4~5年)	23	月	勤労感謝の日	23	水	23	土		23	土	23	火	23	火	23	火
24	土		24	火		24	木	24	日		24	日	24	水	24	水	24	水
25	日		25	水	救急法講習会(AFD) ↑ 月曜振替授業(専攻科)	25	金	25	月	通年度不可(A)解消期限 閉寮	25	月	25	木	25	木	25	木
26	月		26	木	歯科検診(1~3年)	26	土	26	火	↑ 冬季休業(1月5日まで)	26	火	26	火	26	金	26	金
27	火		27	金		27	日	27	水		27	水	27	水	27	土	27	土
28	水		28	土		28	月	28	木		28	木	28	日	28	日	28	日
29	木		29	日	全国高専ロボコン	29	火	29	金	↑ 1 年来年休業(1月3日まで)	29	金	29	月	29	月	29	月
30	金		30	月		30	水	30	土		30	土	30	土	30	火	30	火
31	土	↑ 学校・入試説明会(11月1日まで)	31	木		31	木	31	日		31	日	31	日	31	日	31	日



奈良工業専門学校

令和2年度 授業時間割 (後期)

Table with columns for year/department (一学年 to 五学年), month (1-8), and day (1-8). Rows list various courses such as 基礎数学α, 英語Ⅰ, 物理Ⅰ, etc., with their respective times and locations.

## 令和2年度 特別講演会実施一覧

学科	実施日	演題	講師
M	令和2年12月3日(木)	「自己理解で磨こう! 「あなたらしい強み」の発信力」	大阪府立大学工業高等専門学校 総合工学システム学科メカトロニクスコース 教授 女性ライフ・キャリア支援センター 副センター長
E	令和2年12月7日(月)	「宇宙電磁環境の観測について」	京都大学 生存圏研究所 教授
S	令和2年12月3日(木)	「社会人の心構え 技術者とデザインの関わり方」	株式会社本田技術研究所 デザイン開発室 プロダクトスタジオ 研究員
I	令和2年12月3日(木)	「感染やリスクの拡がりのモデル・シミュレーションとスーパーコンピュータ」	兵庫県立大学大学院 シミュレーション学研究科 教授
C	令和2年12月1日(火)	「レドックスフロー電池の開発状況と材料技術」	京都大学大学院 工学研究科 物質エネルギー化学専攻 特定教授
専攻科	令和3年1月21日(木)	「ソフトウェアエコシステム研究: ドキュメンテーション・オープンサイエンス・エコノミクス」	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室 助教



資料 8

令和2年度 第4学年対象進路セミナー実施一覧

学科	実施日	講師
M	令和2年12月10日(木)	平成25年度卒業生 (島津プレジジョンテクノロジー株式会社)
E	令和2年12月1日(火)	平成23年度専攻科修了生 (東京海洋大学学術研究院 海洋電子機械工学部門 助教)
I	令和2年10月23日(金)	令和元年度卒業生 (大阪府立大学及び株式会社オプテージ)

資料 9

令和2年度 秋季社会工場見学, 専攻科学外研修

新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、中止

資料 10

令和2年度卒業旅行一覧

令和2年度から卒業旅行は廃止

## 年度別博士号取得者一覽

年 度	区分		学科別博士号取得者数						
	現員	校 長	一 般	機 械	電 気	電 制	情 報	物 化	合 計
平成28年度	76	1	14	11	9	8	8	13	64
平成29年度	74	1	15	9	8	8	8	12	61
平成30年度	77	1	17	10	8	8	9	12	65
平成31年度	75	1	15	10	9	8	9	12	64
令和2年度	75	1	15	9	8	6	9	12	60

## 令和2年度 クラブ顧問・部長・部員数一覧

## 体育部

クラブ名	顧問教員 (一番左が連絡担当)	部員数					計
		1年	2年	3年	4年	5年	
アーチェリー	三木功次郎 石丸裕士 山口賢一 岩田大志 本間啓道	0	6	0	0	0	6
合気道	石飛学 片倉勝己 池田陽紀 松浦幸仁	3	2	3	2	2	12
弓道	鍵本有理 谷口幸典 北村誠	13	9	11	7	0	40
剣道	池田陽紀 土井滋貴 須田敦	3	4	7	1	0	15
硬式野球	酒井史敏 小柴孝 平俊男 内田真司 竹原信也	14	4	7	6	11	42
サッカー	竹原信也 上野秀剛 山口智浩 中山大輝 松尾賢一	5	11	5	4	4	29
柔道	森弘暢 矢野充志 樋口真須人 山田裕久	0	4	0	0	0	4
少林寺拳法	直江一光 松井真希子	4	0	0	0	1	5
水泳	石飛学 橋爪進 島岡三義 松村寿枝 廣和樹	5	12	9	6	15	47
ソフトテニス	伊月亜有子 米田京平 宇田亮子 西田茂生	4	9	4	5	0	22
卓球	飯田賢一 武田充啓 亀井稔之 榑原和彦 上島智史 松井真希子 和田任弘	8	7	5	4	0	24
テニス	中村秀美 福岡寛 山口賢一 亀井稔之 中村篤人 伊月亜有子	7	8	5	3	2	25
バスケットボール	新野康彦 頭師孝拓 稲田直久 島田芳	8	5	2	3	0	18
バドミントン	林啓太 岡村真吾 中村篤人 玉木隆幸 伊月亜有子	1	12	3	2	0	18
バレーボール	松井良明 金澤直志 早川恭弘 矢野順彦 石水明香 太田孝雄 板倉和裕	7	10	5	1	0	23
ハンドボール	大谷真弘 小坂洋明 豊田洋平 坂本雅彦	1	9	7	4	4	25
ラグビー	森弘暢 矢野充志 山口和也 市川嘉裕	11	4	3	8	5	31
陸上競技	飯間圭一郎 安田智之 稲田直久 中村篤人 米田京平 森弘暢	11	7	7	2	0	27
	小計	105	123	83	58	44	413

## 文化部

からくり	池田陽紀 橋爪進 中村篤人 頭師孝拓 石飛学 伊月亜有子 飯間圭一郎	20	8	10	3	1	42
機械研究会	谷口幸典 須田敦 頭師孝拓	3	8	11	7	2	31
軽音楽	谷口幸典 大谷真弘 武田充啓 山口和也	23	12	12	8	4	59
茶道	西田茂生 松村寿枝	0	5	4	2	5	16
システム開発研究会	中村篤人 山口和也 橋爪進 玉木隆幸	0	3	3	1	4	11
将棋	玉木隆幸 岡村真吾	0	3	0	1	0	4
情報処理研究会	山口賢一 松尾賢一 上野秀剛 岩田大志	5	5	7	4	4	25
吹奏楽	芦原佑樹 林啓太 名倉誠 土井滋貴 藤田直幸 島岡三義	4	13	11	3	1	32
美術	市川嘉裕 竹原信也	5	7	9	1	0	22
放送	芦原佑樹 山口賢一 矢尾匡永	5	5	11	12	5	38
	小計	65	69	78	42	26	280

## 同好会

化学同好会	山田裕久 林啓太 米田京平	0	8	9	3	0	20
合唱同好会	安田智之 松井良明	0	0	4	5	4	13
クイズ研究会	安田智之	10	1	11	2	0	24
現代視覚文化研究会	飯間圭一郎 北村誠 上野秀剛 上島智史	0	7	3	5	1	16
生協学生同好会	飯間圭一郎	0	4	2	0	0	6
電気技術研究会	芦原佑樹 大谷真弘	0	2	6	1	0	9
祭アスレチック同好会	内田真司 石水明香 福岡寛 飯田賢一	27	20	26	21	23	117
数学同好会	矢野充志	0	2	0	2	0	4
手芸同好会	石水明香	0	4	6	0	7	17
	小計	37	48	67	39	35	226

各学年部員数※	1年	2年	3年	4年	5年	合計
	207	240	228	139	105	919

※各学年部員数はのべ数(複数の部に所属している者もカウント)

学生会執行部	稲田直久 石飛学 岩田大志	16	13	4	11	6	50
--------	---------------	----	----	---	----	---	----

## 令和2年度 大会等成績一覧

## &lt;体育系&gt;

大会名	月・日	種目	成績	選手名
令和2年度奈良県高等学校 弓道選手権代替大会	8.5~6	弓道 男子個人	9位	渡邊 幹 (31)
令和2年度奈良県高等学校夏季野球大会 メモリアルゲーム	8.13	野球 対 奈良情報商業 9-6	勝利	
第57回近畿地区高等専門学校体育大会	11.14	ラグビーフットボール 対 神戸高専 45-12	優勝	
全国高専サッカー大会近畿地区予選 (高専体育大会代替大会)	11.8.22	サッカー 対 舞鶴高専 0-1	1回戦敗退	
第54回全国高等専門学校体育大会	1.4~10	ラグビーフットボール 対 宇部高専 43-0	優勝	
令和2年度県高等学校 新人大会兼学年別弓道大会	1.30	弓道 男子団体の部	3位	渡邊 幹 (31) 清水 健輔 (3M) 松山 鼓 (31)

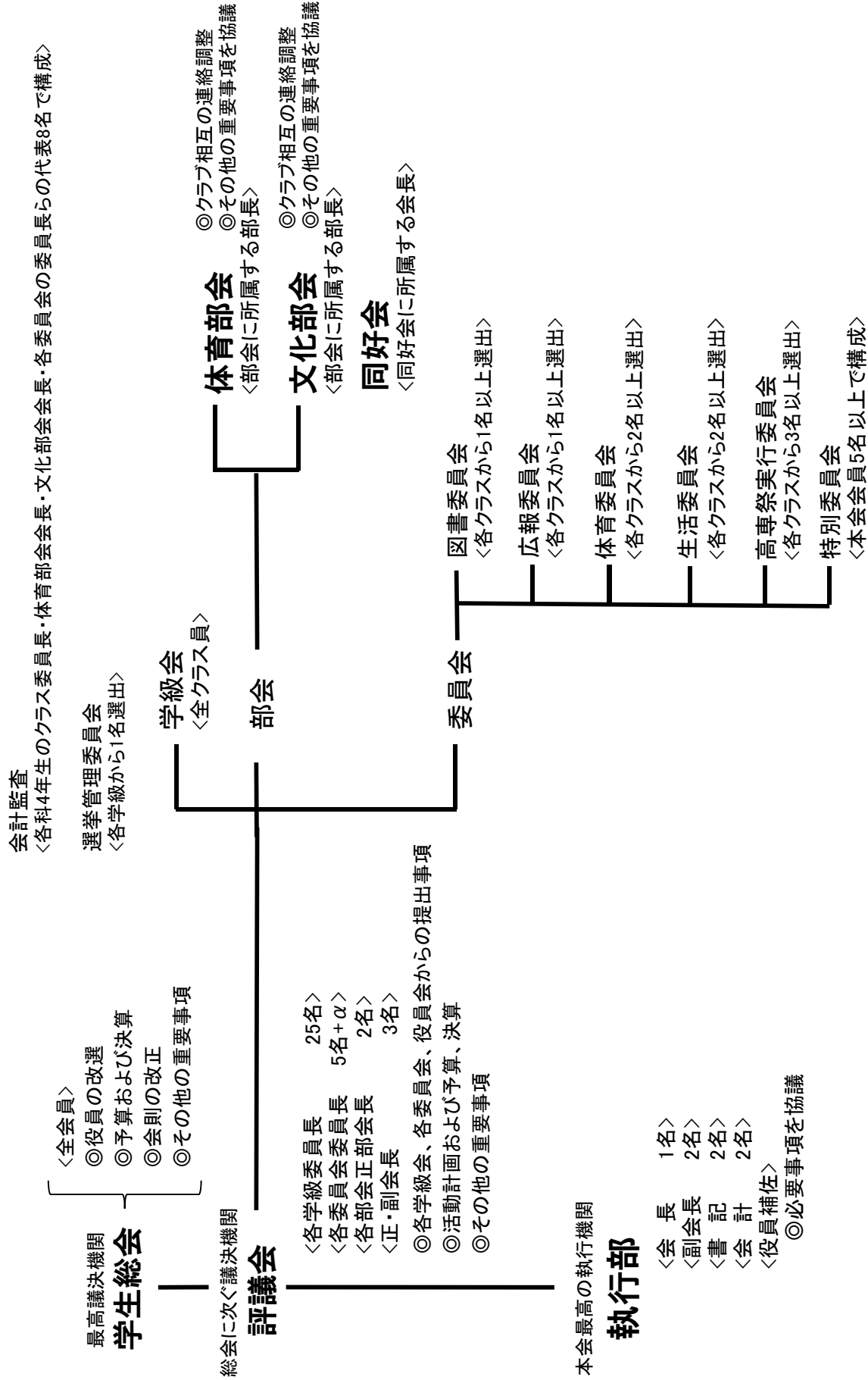
## &lt;文化系&gt;

大会名	月・日	種目	成績	選手名
KOSENセキュリティ・コンテスト2020	11.14	チーム名「inconspicuous」	優勝	

## &lt;コンテスト&gt;

大会名	月・日	種目	成績	選手名
アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2020 近畿地区大会	10.18	ロボコンプロジェクト Aチーム「Tetra (テトラ)」 Bチーム「葉支持 (やくしじ)」	予選敗退 特別賞	
第14回近畿地区高等専門学校 英語プレゼンテーション コンテスト	11.14	シングル部門	「Pressing Award (評論賞)」 「Internet Society Defender Award (インターネット社会擁護者賞)」 「Internationally-minded Award (国際人賞)」	ブスバ (3C) ブスバ (3C) 吉田 彩人 (11)

# 《学生会組織図》



注 < >は構成メンバー・◎印は審議事項、協議事項および任務

## 学生支援センター相談件数

年度	相談項目		学年					専攻科	保護者	教職員	合計
			1年	2年	3年	4年	5年				
H28	心理相談	人数	2	7	2	1	2	1	5	4	24
		延べ数	4	12	6	6	4	10	10	7	59
	学業	人数	6	9	7	1	5	0	9	4	41
		延べ数	21	10	7	3	7	0	13	4	65
	対人関係	人数	5	8	3	3	5	2	2	3	31
		延べ数	20	23	6	5	14	11	3	9	91
	進路相談	人数	1	5	9	15	20	4	6	0	60
		延べ数	1	8	17	17	36	6	7	0	92
	異性問題	人数	0	4	0	3	0	0	0	0	7
		延べ数	0	9	0	3	0	0	0	0	12
	家庭内問題	人数	0	1	0	3	0	1	5	2	12
		延べ数	0	1	0	6	0	5	12	4	28
	その他	人数	6	4	4	6	3	1	2	12	38
		延べ数	9	5	4	8	6	1	2	25	60
合計	人数	20	38	25	32	35	9	29	25	213	
	延べ数	55	68	40	48	67	33	47	49	407	
H29	心理相談	人数	7	7	4	5	6	1	11	11	52
		延べ数	22	13	16	20	7	1	18	16	113
	学業	人数	11	12	16	4	24	0	12	8	87
		延べ数	19	36	17	4	44	0	21	13	154
	対人関係	人数	8	9	1	5	2	1	4	15	45
		延べ数	16	12	4	6	2	3	6	24	73
	進路相談	人数	5	2	4	46	21	9	7	1	95
		延べ数	12	2	4	72	26	19	8	2	145
	異性問題	人数	0	0	0	1	1	0	0	1	3
		延べ数	0	0	0	1	3	0	0	1	5
	家庭内問題	人数	1	2	3	1	2	0	3	9	21
		延べ数	1	2	12	2	5	0	8	15	45
	その他	人数	5	8	4	7	3	3	5	44	79
		延べ数	7	13	4	11	5	3	10	79	132
合計	人数	37	40	32	69	59	14	42	89	382	
	延べ数	77	78	57	116	92	26	71	150	667	
H30 (SSW除く)	心理相談	人数	20	10	9	14	6	3	19	17	98
		延べ数	43	14	10	33	20	15	39	27	201
	学業	人数	14	10	12	8	23	4	9	5	85
		延べ数	17	13	30	38	54	4	10	10	176
	対人関係	人数	18	16	10	5	7	2	5	8	71
		延べ数	32	20	13	9	12	6	7	14	113
	進路相談	人数	4	7	7	21	19	8	6	0	72
		延べ数	7	7	9	30	27	10	9	0	99
	異性問題	人数	1	3	1	0	4	1	0	1	11
		延べ数	1	5	1	0	11	1	0	1	20
	家庭内問題	人数	8	2	1	3	3	0	7	5	29
		延べ数	12	3	1	5	4	0	11	6	42
	その他	人数	11	5	6	8	1	1	11	28	71
		延べ数	12	5	9	11	1	14	24	59	135
合計	人数	76	53	46	59	63	19	57	64	437	
	延べ数	124	67	73	126	129	50	100	117	786	
H31 (SSW含む)	心理相談	人数	21	11	5	13	5	11	16	71	153
		延べ数	60	38	7	18	7	19	17	160	326
	学業	人数	15	14	18	16	3	1	9	17	93
		延べ数	38	32	24	43	3	3	14	39	196
	対人関係	人数	7	24	11	5	3	0	1	68	119
		延べ数	15	65	24	6	3	0	4	201	318
	進路相談	人数	1	3	1	13	7	0	0	6	31
		延べ数	1	9	1	33	7	0	0	9	60
	異性問題	人数	4	0	3	4	0	1	0	15	27
		延べ数	4	0	3	7	0	1	0	53	68
	家庭内問題	人数	2	2	1	0	3	2	1	20	31
		延べ数	2	2	1	0	3	2	1	33	44
	その他	人数	11	14	3	5	1	2	9	56	101
		延べ数	15	31	3	5	1	4	23	128	210
合計	人数	61	68	42	56	22	17	36	253	555	
	延べ数	135	177	63	112	24	29	59	623	1222	
R2 (SSW含む)	心理相談	人数	5	4	3	0	1	1	4	4	22
		延べ数	23	16	9	0	6	1	9	51	115
	学業	人数	17	3	3	8	3	3	11	0	48
		延べ数	23	7	10	12	3	3	15	0	73
	対人関係	人数	1	1	2	1	1	0	0	2	8
		延べ数	5	1	17	1	1	0	0	15	40
	進路相談	人数	1	1	0	13	19	2	4	1	41
		延べ数	7	6	0	23	23	21	14	1	95
	異性問題	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延べ数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家庭内問題	人数	2	1	1	1	1	0	0	4	10
		延べ数	6	1	6	1	1	0	0	17	32
	その他	人数	5	6	3	7	6	3	8	18	56
		延べ数	15	33	12	11	6	82	10	19	188
合計	人数	31	16	12	30	31	9	27	29	185	
	延べ数	79	64	54	48	40	107	48	103	543	

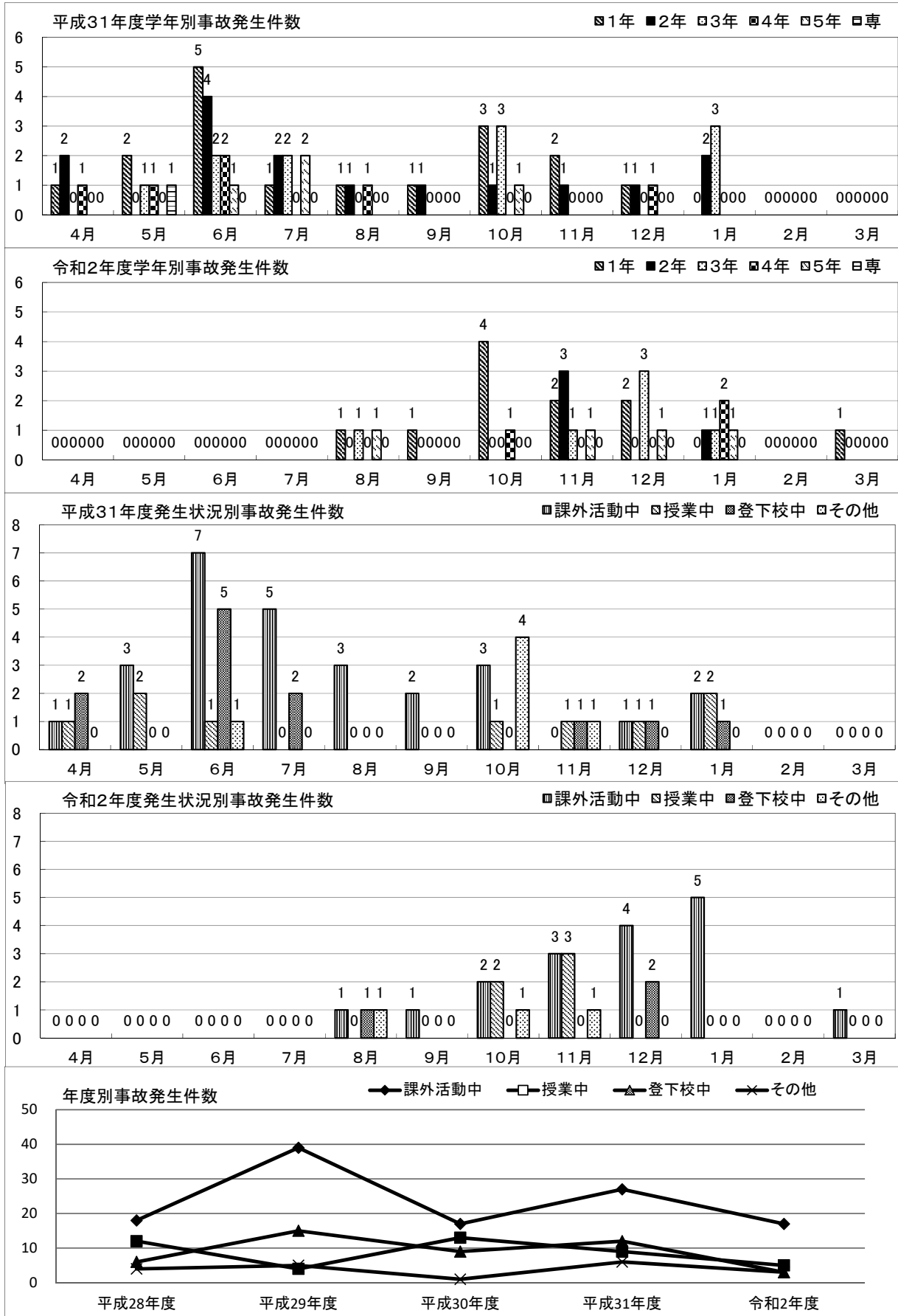
## 令和2年度 保健室利用学生数

区分 月	怪我等	体調不良等	相談等	総数	登校日数
4	0	0	2	2	0(春季休業)
5	0	0	0	0	0
6	0	0	2	2	0
7	7	12	7	26	18
8	10	16	5	31	6(夏季休業)
9	16	27	17	60	20(前期末試験)
10	28	22	22	72	21
11	18	18	4	40	19(後期中間試験)
12	24	24	5	53	18(冬季休業)
1	7	9	4	20	15(冬季休業・学年末試験)
2	0	6	5	11	14(学年末試験)
3	0	0	0	0	0(学年末休業)
合計	110	134	73	317	131

## 保健室利用状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
怪 我 等	215	109	151	274	110
体 調 不 良 等	208	113	272	313	134
相 談 等	146	141	133	216	73
合 計	569	363	556	803	317

平成31・令和2年度 学生事故発生件数





## 資料 18

入学科免除者数（高専機構）

年 度	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成28年度	0	0	0	0
平成29年度	0	0	0	0
平成30年度	0	0	0	0
平成31年度	2	2	0	0
令和2年度	0	0	0	0

入学科減免者数（高等教育の修学支援新制度）

年 度	申請者数	満額減免	2/3減免	1/3減免	不認定
令和2年度	15	4	2	3	6

## 資料 19

授業料免除者数

授業料減免者数（高等教育の修学支援新制度）

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」（4年生以上の学生（収入等の要件有）に対し、①授業料等の減免（授業料と入学科の免除または減額）と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う）が開始。

※減免額については、(1)「第Ⅰ区分：満額（上限の範囲内）」 (2)「第Ⅱ区分：第Ⅰ区分の減免額の2/3」  
(3)「第Ⅲ区分：第Ⅰ区分の減免額の1/3」 (4)「停止：適格認定（家計）により支援対象外」 (5)「不認定」

年 度		申請者数	(1) 全額減免	(2) 2/3 減免	(3) 1/3 減免	(4) 停止	(5) 不認定
令和2年度	前期	83	33	13	10	0	27
	後期	56	32	11	9	4	0

授業料免除者数（高専機構）

年 度	前 期				後 期			
	申請者数	全額免除	半額免除	不許可	申請者数	全額免除	半額免除	不許可
平成28年度	30	13	7	10	26	13	7	6
平成29年度	23	14	6	3	22	15	6	1
平成30年度	27	12	8	7	25	12	9	4
平成31年度	29	14	11	4	28	15	10	3
令和2年度	24	11	11(3)※	2	21	9	10(2)※	2

※令和2年度半額免除許可者のうち前期3名・後期2名について、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3減免）より、「経過措置による授業料免除」（半額免除）の方が免除額が減少するので、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免」（2/3減免）を適用している。

資料 20

日本学生支援機構貸与奨学生採用者数

	本 科					専 攻 科					採用者数 合計 (第一種)	採用者数 合計 (第二種)	
	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	緊急採用 (第二種)	予約採用	在学採用 (第一種)	在学採用 (第二種)	緊急採用 (第一種)	緊急採用 (第二種)	無利子 (第二種)			
平成28年度													
申請者数	2	1	0	0	/	2	0	0	0	0	/	5	1
推薦者数	2	1	0	0		2	0	0	0	0			
採用者数	2	1	0	0		2	0	0	0	0			
平成29年度													
申請者数	5	2	0	0	/	5	0	0	0	0	/	12	2
推薦者数	4	2	0	0		4	0	0	0	0			
採用者数	4	2	0	0		4	0	0	0	0			
平成30年度													
申請者数	6	1	0	0	/	6	0	0	0	0	/	15	1
推薦者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0			
採用者数	6	1	0	0		6	0	0	0	0			
平成31年度													
申請者数	2	1	1	1	/	1	0	0	0	0	/	4	1
推薦者数	1	0	1	1		1	0	0	0	0			
採用者数	1	0	1	1		1	0	0	0	0			
令和2年度													
申請者数	5	1	0	0	/	2	1	0	0	1	/	6	2
推薦者数	5	1	0	0		2	1	0	0	1			
採用者数	4	1	0	0		2	0	0	0	1			

※予約採用は、中学校で予め申請をし、本校入学後に届け出ることで採用が決定される。  
 ※第一種・第二種併用貸与者は第一種・第二種それぞれに計上する。

資料 21

日本学生支援機構給付奨学生採用者数

	本科4年			本科3年（予約採用）			
	自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生	社会的養護
平成30年度							
進学届提出者数	1	0	0	申請者数	1	1	0
採用者数	1	0	0	推薦者数	1	1	0
				採用候補者数	1	1	0
平成31年度							
進学届提出者数	1	1	0	申請者数	21	3	0
採用者数	1	1	0	推薦者数	21	3	0
				採用候補者数	15	2	0

令和2年度		本科4年～専攻科2年			本科3年（予約採用）			採用者数 合 計	採用 候補者数	
		自宅生	自宅外生	社会的養護		自宅生	自宅外生			社会的養護
進学届 提出者数	採用者	13	2	0	申請者数	11	2	1	56	13
進学届 提出者数（編入）	採用者	1	0	0	推薦者数	11	2	1		
在学予約採用	申請者	22	7	0	採用 候補者数	10	2	1		
	推薦者数	21	6	0						
在学採用	採用者	11	4	0	/	/	/	/		
	申請者	40	2	0						
	推薦者数	40	2	0						
	採用者	24	1	0						

※令和2年4月から「高等教育の修学支援新制度」(4年生以上の学生(収入等の要件有)に対し、①授業料等の減免(授業料と入学金の免除または減額)と②給付型奨学金の2つの経済支援を行う)が開始。

## 進路状況

年度	学科	卒業生数	求人		就職者			進学・その他
			企業数	求人数	民間企業	官公庁	計	
平成28年度	機械工学科	32	867	264	10	1	11	21
	電気工学科	38		233	15	0	15	23
	電子制御工学科	42		198	15	0	15	27
	情報工学科	31		170	12	0	12	19
	物質化学工学科	34		128	17	0	17	17
平成29年度	機械工学科	33	958	251	15	0	15	18
	電気工学科	36		251	21	0	21	15
	電子制御工学科	32		225	10	0	10	22
	情報工学科	39		200	16	0	16	23
	物質化学工学科	45		130	16	0	16	29
平成30年度	機械工学科	37	1,090	354	15	1	16	21
	電気工学科	39		236	11	0	11	28
	電子制御工学科	36		240	15	0	15	21
	情報工学科	38		186	14	0	14	24
	物質化学工学科	37		131	17	0	17	20
平成31年度	機械工学科	36	1,120	332	13	1	14	22
	電気工学科	34		237	16	0	16	18
	電子制御工学科	34		221	11	0	11	23
	情報工学科	40		227	16	0	16	24
	物質化学工学科	34		131	14	0	14	20
令和2年度	機械工学科	36	935	260	13	1	14	22
	電気工学科	48		235	23	0	23	25
	電子制御工学科	34		227	11	0	11	23
	情報工学科	35		195	15	0	15	20
	物質化学工学科	35		119	13	0	13	22

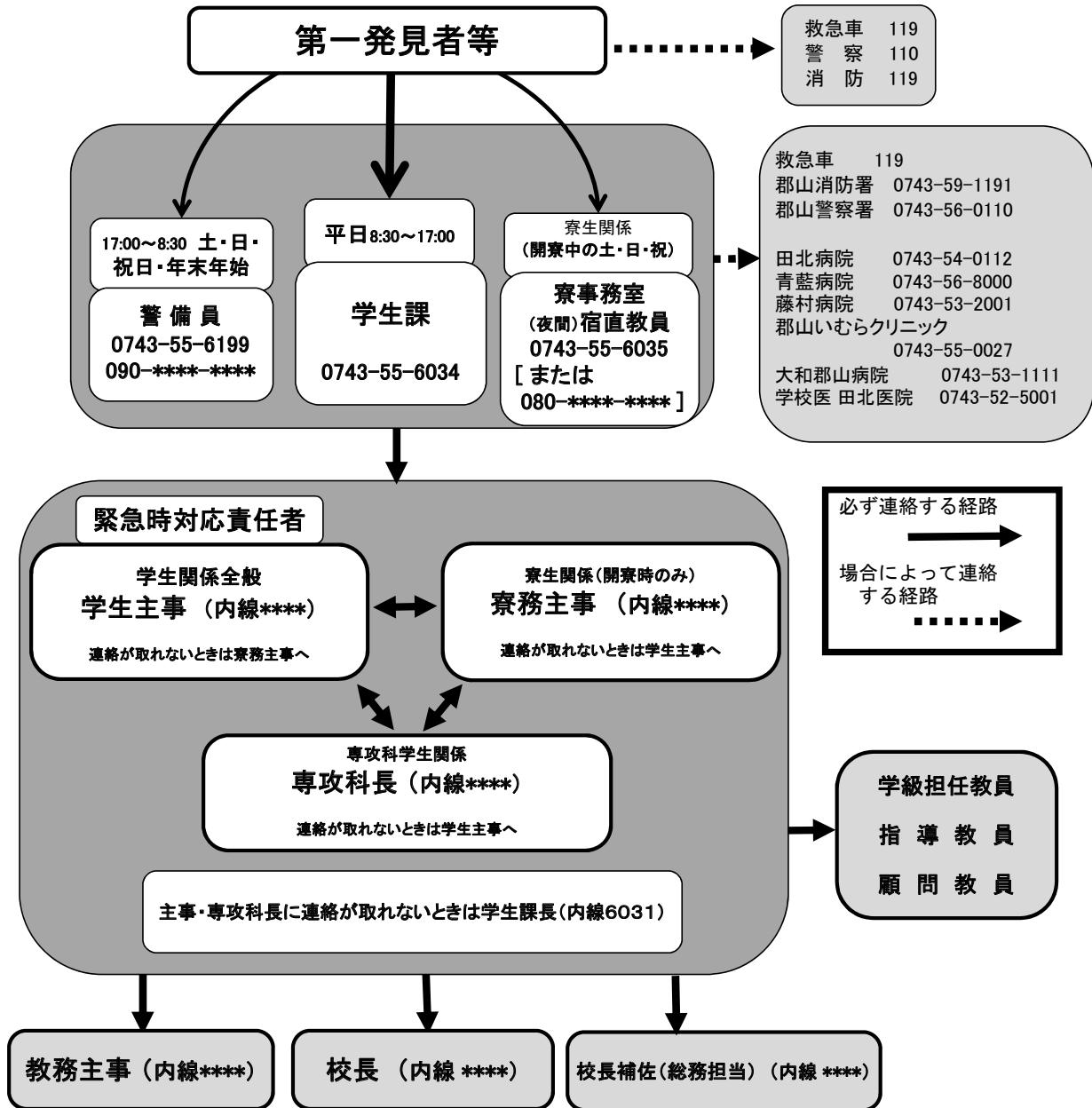
## 単車通学許可申請者

	学 年	申請者数	許可数
平成28年度	2	0	0
	3	4	3
	4	4	3
	5	5	5
	専攻科	12	12
	合 計	25	23
平成29年度	2	0	0
	3	0	0
	4	4	4
	5	3	3
	専攻科	17	12
	合 計	24	19
平成30年度	2	0	0
	3	2	2
	4	2	2
	5	1	1
	専攻科	15	15
	合 計	20	20
平成31年度	2	0	0
	3	4	3
	4	2	2
	5	2	2
	専攻科	11	11
	合 計	19	18
令和2年度	2	0	0
	3	4	2
	4	3	3
	5	2	2
	専攻科	10	10
	合 計	19	17

※1年生は運転免許の取得を認めていない

## 奈良高専学生関係事故等緊急時連絡ルート

(图中「内線」は令和3年8月現在の対象教員研究室の内線電話番号)



- 事故等の第一発見者は、生命の安全に留意し現場対応(救急車要請、警察通報)を行うとともに、速やかに関係部署へ連絡し応援を求める。
- 緊急時対応責任者は、状況に応じ速やかに校長に報告するとともに、関係教職員とともにその対応に当たる。
- 緊急時には次のことに留意する。
  - (1) 生命の維持を最優先し、全教職員が適切な応急措置、救急体制がとれるように周知しておく。
  - (2) 冷静で的確な判断と指示をする。
  - (3) 救急車が必要だと判断した際には、直ちに救急車の要請を行う。
  - (4) けが等で病院に搬送するときは、緊急時を除き、保護者の意向を確認する。
  - (5) 事故について、保護者に事故発生状況、程度、今後の対応など詳細に納得のいく説明をする。
  - (6) 事故等緊急時連絡チェックリスト(別記)により関係教職員等に確実に連絡する。
  - (7) 緊急時対応責任者は、経過及び対応を簡潔かつ正確に記録しておく(またはその指示をする)。

## 学生委員会違反件数

( ) は関係者数

年度 違反・事件内容	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度	
	無許可単車・自動車通学 免許取得要項違反	0	(0)	14	(11)	5	(5)	18	(14)	4
交通違反・事故	17	(21)	20	(21)	29	(33)	73	(72)	21	(20)
不祥事件 (条例違反・窃盗・不正利用等)	5	(6)	7	(7)	4	(4)	3	(3)	4	(4)
暴力・脅迫行為	1	(1)	2	(2)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合 計	23	(28)	43	(41)	38	(42)	94	(89)	29	(28)

## 寮生数推移調(平成28年度～令和2年度)

	4 月		1 0 月			4 月		1 0 月			
	学 年	男 子	女 子	男 子		女 子	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
平成 28 年度	1年	17	6	18	6	平成 29 年度	1年	16	6	17	6
	2年	22	4	21	4		2年	15	6	15	6
	3年	26 (3)	8 (2)	25 (3)	8 (2)		3年	18	6 (2)	18	6 (2)
	4年	20 (3)	2 (1)	20 (3)	2 (1)		4年	24 (3)	8 (2)	24 (3)	8 (2)
	5年	15 (2)	2	15 (2)	2		5年	20 (3)	2 (1)	19 (3)	2 (1)
	小計	100 (8)	22 (3)	99 (8)	22 (3)		小計	93 (6)	28 (5)	93 (6)	28 (5)
	合計	122 (11)		121 (11)			合計	121 (11)		121 (11)	

	4 月		1 0 月			4 月		1 0 月			
	学 年	男 子	女 子	男 子		女 子	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
平成 30 年度	1年	22	6	21	6	平成 31 年度	1年	15	4	15	4
	2年	17	4	17	4		2年	20	6	20	5
	3年	17 (4)	5	17 (4)	5		3年	18 (2)	4	18 (2)	4
	4年	17	5 (2)	16	5 (2)		4年	19 (4)	5	19 (4)	5
	5年	22 (3)	6 (2)	22 (3)	6 (2)		5年	14	5 (2)	12	5 (2)
	小計	95 (7)	26 (4)	93 (7)	26 (4)		小計	86 (6)	24 (2)	84 (6)	23 (2)
	合計	121 (11)		119 (11)			合計	110 (8)		107 (8)	

	4 月		1 0 月		
	学 年	男 子	女 子	男 子	女 子
令和 2 年度	1年	21	6	23	7
	2年	16	4	16	3
	3年	21 (3)	5 (1)	21 (3)	5 (1)
	4年	17 (2)	4	17 (2)	4
	5年	18 (4)	5	17 (4)	5
	小計	93 (9)	24 (1)	94 (9)	24 (1)
合計	117 (10)		118 (10)		

※ ( )は留学生で内数

※ 短期留学生を除く

## 学 寮 の 日 課 表

寮生は、基本的に以下の日課表に従って自主的に規則正しい生活をしなければならない。

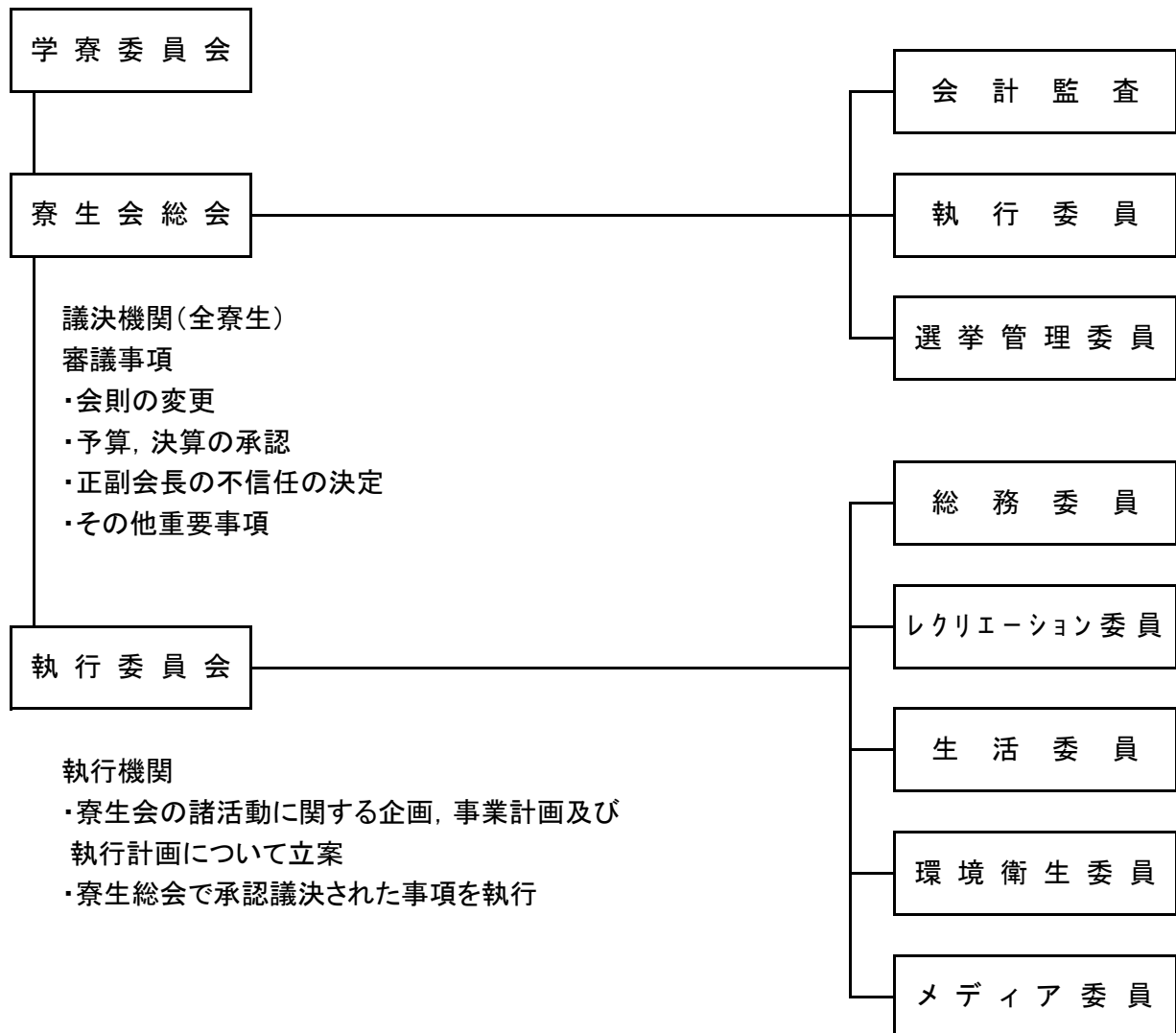
時 間		内 容
男 子	女 子	
7:00	7:00	起床
7:00 ~ 7:25	7:00 ~ 7:25	清掃
7:50	7:50	朝食を知らせる放送
7:50 ~ 8:30	7:50 ~ 8:30	朝食時間
8:15	8:15	登校を促す放送
8:30 ~ 8:40	8:30 ~ 8:40	食堂の片づけ
12:00 ~ 13:00	12:00 ~ 13:00	昼食時間
17:30 ~ 19:15	17:30 ~ 19:15	夕食時間
18:30 ~ 21:30	18:00 ~ 21:00	入浴時間
22:00	21:30	門限・点呼報告
23:30	23:30	1年生の消灯時間
1:00	1:00	全寮棟の消灯時間

### 備考

- ◎ 消灯時刻は、定期試験の1週間前から試験最終日までは自由とする。
- ◎ 冬季は一部変更することがある。



## 寮生会の組織



## 学寮の年間行事(令和2年度)

月	諸 行 事
4 月	<del>開寮, 寮生集会, 入寮式, 新入寮生歓迎会</del> ※新型コロナウイルスの影響により中止
5 月	<del>連休に伴う開寮, 開寮, 寮生集会, 春季スポーツ大会(夕食会), 避難訓練</del> ※新型コロナウイルスの影響により中止
6 月	寮祭 ※新型コロナウイルスの影響により中止
7 月	1年生寮生保護者との懇談会 ※新型コロナウイルスの影響により中止 第2-5学年開寮, 第1学年入寮
8 月	大掃除, 1年生部屋替え, ※新型コロナウイルスの影響により中止 夏季休業による閉寮, 寮通信の発行, 第4-5学年開寮, 寮生集会(放送)
9 月	第1-3学年開寮
10 月	秋季スポーツ大会(夕食会) ※新型コロナウイルスの影響により中止 寮長・副寮長選挙(オンライン)
11 月	
12 月	防災避難訓練, 5年生と語る会(オンライン)、寮通信の発行, 大掃除, 冬季休業による閉寮
1 月	開寮, 寮生集会, 留学生と語る会(オンライン)
2 月	学寮送別会(オンライン), 部屋替え, 学年末・春季休業による閉寮
3 月	寮通信の発行, 入寮予定者オリエンテーション

## 専攻科入学者選抜方法

年 度	選 抜 方 法 ・ 日 程		
平成29年度	推 薦 6月1日(水)	学力A日程 6月18日(土)	学力B日程 10月1日(土)
平成30年度	推 薦 5月25日(木)	学 力 検 査 6月17日(土)	社 会 人 9月25日(月)
平成31年度	推 薦 5月24日(木)	学 力 検 査 6月16日(土)	社 会 人 9月26日(水)
2020年度	推 薦 5月23日(木)	学 力 検 査 6月15日(土)	社 会 人 9月25日(水)
令和3年度	推 薦 5月14日(木)	学 力 検 査 9月5日(土)	社 会 人 9月23日(水)

※1 令和3年度推薦選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み面接は実施せず

※2 令和3年度学力選抜 新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を6月13日(土)から9月5日(土)に変更した

## 年度別専攻科入学状況

年度	専攻名	コース名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳 ( )は社会人で内数
平成二十八年度	機械制御工学	-	8	3.1	25	17	17	本校 16 他高専 1
	電子情報工学	-	8	3.3	26	18	17	本校 17
	化学工学	-	4	5.5	22	13	13	本校 13
	合計		20	3.7	73	48	47	本校 46 他高専 1
平成二十九年度	機械制御工学	-	8	2.9	23	16	16	本校 16
	電子情報工学	-	8	2.5	20	15	14	本校 14
	化学工学	-	4	4.3	17	9	9	本校 9
	合計		20	3.0	60	40	39	本校 39 他高専 0
平成三十年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	1.6	19	13	11	本校 11
		電気電子システムコース	6	1.5	9	8	6	本校 6
		情報システムコース	6	2.7	16	12	10	本校 9 他高専 1
	物質創成工学	-	6	2.3	14	13	10	本校 10
	合計		30	1.9	58	46	37	本校 36 他高専 1
平成三十一年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.5	30	21	15	本校 15
		電気電子システムコース	6	3.5	21	18	14	本校 14
		情報システムコース	6	2.7	16	12	9	本校 9
	物質創成工学	-	6	2.2	13	12	7	本校 7
	合計		30	2.7	80	63	45	本校 45 他高専 0
2020年度	システム創成工学	機械制御システムコース	12	2.1	25	20	12	本校 12
		電気電子システムコース	6	2.7	16	13	12	本校 11 他高専 1
		情報システムコース	6	2.5	15	15	12	本校 12
	物質創成工学	-	6	2.7	16	11	7	本校 7
	合計		30	2.4	72	59	43	本校 42 他高専 1

## 専攻科学力検査科目と学力検査の日時及び検査場（令和3年度）

区 分		出 題 分 野 (内 容)	
各専攻共通（一般科目）		数学（微分積分，線形代数）	
専 門 科 目	システム創成 工学専攻	機械制御システムコ ース	熱・水力学，材料力学，電気回路 以上3分野から2分野選択
		電気電子システムコ ース	電気電子工学（電磁気学，電気回路，アナ ログ電子回路）
		情報システムコース	情報工学（論理回路，情報数学，情報理論， データ構造とアルゴリズム，プログラミング， 計算機ネットワーク）
	物質創成工学専攻	化学工学（流動，伝熱，物質移動）， 物理化学（熱力学及び反応速度論）， 無機化学（元素の性質，化学結合論， 固体化学）， 分析化学（酸塩基平衡，沈殿平衡， 錯生成平衡，化学量論の基礎）， 有機化学（脂肪族及び芳香族化合物）， 生物化学（生体成分及び代謝） 以上6分野から3分野選択	

## （学力検査）

月 日	時 間	科 目 等	検 査 場
9月5日（土）	9：10～10：10	数 学	奈良工業高等専門学校
	10：30～12：30	専門科目	
	13：30～	面 接	

※新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み選抜期日を6月13日（土）から9月5日（土）に変更した

令和2年度 専攻科授業時間割

専攻科	月				水				木				金			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
専攻科一年	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20
	理学部 理学科 物理 創成	工学基礎研究・地域創生工学研究 研究方向上ゼミ （相園・早川）	研究方向上ゼミ （相園・早川）	電磁気学特講 （声原）	油空圧制御工学 （早川）	工学基礎研究・地域創生工学研究 工学基礎研究・地域創生工学研究 工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）
専攻科二年	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20
	理学部 理学科 物理 創成	数理科学 （細間）	研究方向上ゼミ （相園・早川）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	油空圧制御工学 （早川）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）
専攻科一年	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20	9:00 10:30	10:40 12:10	13:10 14:40	14:50 16:20
	理学部 理学科 物理 創成	工業材料 （谷口）	プレゼンテーション （金澤）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	油空圧制御工学 （早川）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）	工学基礎研究・地域創生工学研究 電子化学 （松浦）

## 専攻科特別講演会

回	日 時	講演者職名	演 題
18	平成 20 年 10 月 16 日(木) 14:40~16:10	三菱電機(株)開発本部 役員技監	企業における研究開発 ーレーザー加工機の例ー
19	平成 21 年 11 月 20 日(金) 16:00~17:30	(株)森精機製作所取締役社 長	工作機械の最近技術動向
20	平成 22 年 6 月 7 日(月) 14:40~16:10	元大阪大学総長	ナノサイエンスのロマン
21	平成 22 年 12 月 10 日(金) 15:00~17:00	京都大学名誉教授	次世代エネルギーシステムと 電池
22	平成 23 年 12 月 16 日(金) 13:00~14:30	日本資材(株)取締役社長	企業における研究の目的と研 究員の姿勢
23	平成 25 年 1 月 25 日(金) 13:00~14:30	豊橋技術科学大学教授	センサと LSI の融合が導くイ ノベーション
24	平成 25 年 12 月 20 日 (金) 14:40~16:10	大阪大学大学院教授	再生医療実用化の現状と取り 組みについて
25	平成 26 年 10 月 10 日 (金) 13:00~14:35	近畿大学水産研究所 所長・特任教授	クロマグロの完全養殖技術の 開発と産業化
26	平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:00~14:35	京都大学医学部附属病院 医療情報企画部 助教	コンピュータが視る世界、コン ピュータが描く世界
27	平成 28 年 12 月 8 日(木) 14:40~16:15	東レ(株)先端材料研究所 新エネルギー材料研究室 室長リサーチフェロー/工 務技監	新素材研究と医療・環境分野へ の適用
28	平成 29 年 11 月 30 日(木) 14:40~16:15	奈良先端科学技術大学院 大学 情報科学研究科 准教授	試行錯誤で行動を学習する人 工知能ロボットの進化
29	平成 30 年 10 月 18 日(木) 14:40~16:15	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科教授	スピン電子工学：入門
30	令和元年 12 月 12 日(木) 15:00~16:30	大阪大学院情報科学 研究科 情報数理学専攻 情報フォトニクス講座 助教	コンピューテーショナルイメー ジング
31	令和 3 年 1 月 21 日(木) 15:00~16:30	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 ソフトウェア工学研究室助教	ソフトウェアエコシステム研究： ドキュメンテーション・オープン サイエンス・エコノミクス

## 専攻科修了者の進路

奈良工業高等専門学校

年度	専攻名	進路					
		就職	進学	その他			
28	機械制御工学	東燃ゼネラル石油(株)	1	京都工芸繊維大学大学院 2 東北大学大学院 2 奈良先端科学技術大学院大学 2 兵庫県立大大学院 1 北陸先端科学技術大学院大学 1 同志社大学大学院 1			
		計	1	計	9	計	0
		電子情報工学	(株)エヌ・ティ・ティネオメイト	1	大阪大学大学院	2	
			三菱電機システムサービス(株)	1	信州大学大学院	1	
					岡山大学大学院	1	
					豊橋技術科学大学大学院	1	
				奈良先端科学技術大学院大学	2		
	計	2	計	10	計	0	
	化学工学			京都大学大学院	1		
				神戸大学大学院	1		
				東京工業大学大学院	1		
				奈良先端科学技術大学院大学	3		
計	0	計	8	計	0		
計		3	27		0		
29	機械制御工学	クオリカプス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2		
		ローランド(株)	1	京都工芸繊維大学大学院	2		
		(株)GSユアサ	1	九州大学大学院	1		
		シスメックス(株)	1	大阪市立大学大学院	1		
		日本電産(株)	1	大阪大学大学院	3		
		(株)近計システム	1	同志社大学大学院	1		
		大和ハウス工業株	1				
	計	7	計	10	計	0	
	電子情報工学	東海交通機械(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	8	未定	1
		三菱電機システムサービス(株)	1	大阪大学大学院	3		
		(株)ダイヘン	1	総合研究大学院大学	1		
		近畿日本鉄道(株)	1				
(株)LIFULL		1					
計	5	計	12	計	1		
化学工学	日本ニューマチック工業(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5			
	シスメックス(株)	1	大阪大学大学院	4			
			京都大学大学院	1			
計	2	計	11	計	0		
計		14	33		1		



年度	専攻名		進 路					
			就 職	進 学	そ の 他			
30	システム創成工学	機械制御システムコース	クオリカプス(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	7	未定	1
			(株)ヒラノテクシード	1	京都工芸繊維大学大学院	3		
			追手門学院小学校(教員)	1	京都大学大学院	1		
	計		3	計	11	計	1	
	システム創成工学	電気電子システムコース	サントリーホールディングス(株)	1	東北大学大学院	2		
					岡山大学大学院	1		
					千葉大学	1		
				奈良先端科学技術大学院大学	1			
			大阪大学大学院	1				
	計	1	計	6	計	0		
システム創成工学	情報システムコース	富士通エフサスシステムズ(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
		ゾーホージャパン(株)	1	大阪大学大学院	1			
		ハイウェイ・トール・システム(株)	1					
e-BASE(株)		1						
計	4	計	3	計	0			
物質創成工学	物質創成工学	三菱ガス化学(株)	1	東京工業大学大学院	2			
		オリエント化学工業(株)	1	大阪大学大学院	2			
				東京大学大学院	1			
			筑波大学大学院	1				
		奈良先端科学技術大学院大学	1					
計	2	計	7	計	0			
計		10		27		1		
31	システム創成工学	機械制御システムコース	セイコーエプソン(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	4		
			(株)奥村組	1	京都工芸繊維大学大学院	2		
					大阪大学大学院	3		
	計		2	計	9	計	0	
	システム創成工学	電気電子システムコース			奈良先端科学技術大学院大学	4		
					名古屋大学大学院	1		
					京都大学大学院	1		
	計		0	計	6	計	0	
	システム創成工学	情報システムコース	TRUNK(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5		
			自衛隊 幹部候補生	1				
TISシステムサービス(株)			1					
(株)ヘッドジャパン	1							
フェンリル(株)	1							
計	5	計	5	計	0			
物質創成工学	物質創成工学	呉竹(株)	1	神戸大学大学院	1			
		AGC(株)	1	京都大学大学院	2			
		吹田市	1	奈良先端科学技術大学院大学	2			
計		3	計	5	計	0		
計		10		25		0		

年度	専攻名	進 路					
		就 職	進 学	そ の 他			
R2	システム創成工学	ソフトバンク(株)	1	奈良先端科学技術大学院大学	5	未定	3
		(株)トクピ製作所	1	大阪大学大学院 京都大学大学院 同志社大学大学院	3 1 1		
		計	2	計	10	計	3
		電気電子システムコース	近畿日本鉄道(株)	1	同志社大学大学院	1	未定
	寺崎電気産業(株)	1	大阪大学大学院	3			
	パナソニック(株)インダストリアルソリューションズ社	1	奈良先端科学技術大学院大学 東京工業大学大学院	3 2			
	計	3	計	9	計	2	
	情報システムコース	アステック(株)	2	奈良先端科学技術大学院大学	3	未定	3
	(株)アイティフォース	1					
	(株)AHIRU	1					
計	4	計	3	計	3		
物質創成工学			京都大学大学院 神戸大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 大阪大学大学院	1 1 6 1			
計	0	計	9	計	0		
計	9		31		8		

奈良高専JABEE修了者進路状況

平成17年度												平成18年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
4	8	0	12	2	6	0	8	2	3	0	5	9	6	1	16	2	11	1	14	2	3	0	5
33.3%	66.7%	0.0%		25.0%	75.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%		56.3%	37.5%	6.3%		14.3%	78.6%	7.1%		40.0%	60.0%	0.0%	

平成19年度												平成20年度												
MS				EI				C				MS				EI				C				
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
2	12	1	15	6	11	0	17	17	3	4	0	7	6	11	3	20	7	8	1	16	3	3	0	6
13.3%	80.0%	6.7%		35.3%	64.7%	0.0%		42.9%	57.1%	0.0%		30.0%	55.0%	15.0%		43.8%	50.0%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%		

平成21年度												平成22年度												
MS				EI				C				MS				EI				C				
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
3	8	1	12	4	4	2	10	10	3	5	0	8	11	9	0	20	5	10	1	16	2	2	0	4
25.0%	66.7%	8.3%		40.0%	40.0%	20.0%		37.5%	62.5%	0.0%		55.0%	45.0%	0.0%		31.3%	62.5%	6.3%		50.0%	50.0%	0.0%		

平成23年度												平成24年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
9	8	0	17	3	8	2	13	2	8	0	10	8	6	0	14	6	6	1	13	4	3	0	7
52.9%	47.1%	0.0%		23.1%	61.5%	15.4%		20.0%	80.0%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		46.2%	46.2%	7.7%		57.1%	42.9%	0.0%	

平成25年度												平成26年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	7	0	14	6	13	1	20	5	6	0	11	2	12	0	14	10	7	0	17	2	5	0	7
50.0%	50.0%	0.0%		30.0%	65.0%	5.0%		45.5%	54.5%	0.0%		14.3%	85.7%	0.0%		58.8%	41.2%	0.0%		28.6%	71.4%	0.0%	

平成27年度												平成28年度											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	7	0	10	3	12	0	15	2	7	0	9	1	9	0	10	2	10	0	12	0	8	0	8
30.0%	70.0%	0.0%		20.0%	80.0%	0.0%		22.2%	77.8%	0.0%		10.0%	90.0%	0.0%		16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	

平成29年度												改組前 累計											
MS				EI				C				MS				EI				C			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
7	10	0	17	5	12	1	18	2	11	0	13	72	113	6	191	61	118	10	189	32	68	0	100
41.2%	58.8%	0.0%		27.8%	66.7%	5.6%		15.4%	84.6%	0.0%		37.7%	59.2%	3.1%		32.3%	62.4%	5.3%		32.0%	68.0%	0.0%	

平成30年度												平成31年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)												システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース				AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
3	11	1	15	1	6	0	7	4	3	0	7	2	9	0	11	0	6	0	6	5	5	0	10
20.0%	73.3%	6.7%		14.3%	85.7%	0.0%		57.1%	42.9%	0.0%		18.2%	81.8%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	

令和2年度											
システム創成工学専攻(SI専攻)											
AMコース				AEコース				AIコース			
就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計	就職	進学	その他	合計
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
2	10	3	15	3	9	2	14	4	3	3	10
13.3%	66.7%	20.0%		21.4%	64.3%	14.3%		40.0%	30.0%	30.0%	

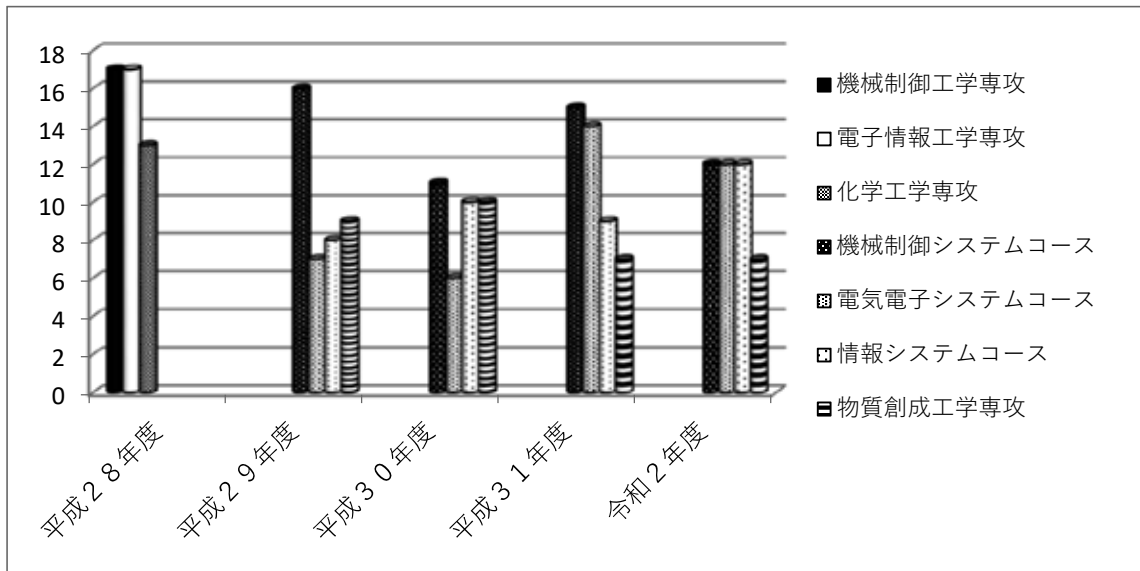


図 専攻科入学者数の推移

## 企業・大学等インターンシップ参加者数（専攻科・延べ人数）

年 度	機械制御 工学専攻	電子情報 工学専攻	化学工学 専攻	システム創成工学専攻			物質創成 工学専攻	合 計
				機械制御 システム コース	電気電子 システム コース	情報 システム コース		
平成28年度	6	9	2					17
平成29年度	0	1	1	9	5	4	5	25
平成30年度				5	3	7	5	20
平成31年度				11	4	7	1	23
令和2年度				4	2	1	1	8

※海外インターンシップ含む

## 専攻科生の論文等の学会発表件数

発表先	年度	機械制御工学専攻	電子情報工学専攻	化学工学専攻	機械制御システムコース	電気電子システムコース	情報システムコース	物質創成工学専攻	合計
学術雑誌論文	平成28年度	4	11	2					17
	平成29年度	3	15	0					18
	平成30年度				4	5	0	0	9
	平成31年度				4	2	1	0	7
	令和2年度				3	1	0	3	7
国際学会発表	平成28年度	11	1	10					22
	平成29年度	7	9	6					22
	平成30年度				8	4	1	6	19
	平成31年度				8	4	3	16	31
	令和2年度				4	1	5	3	13
国内学会発表※	平成28年度	22	33	9					64
	平成29年度	13	33	28					74
	平成30年度				26	20	12	36	94
	平成31年度				21	15	10	32	78
	令和2年度				19	12	16	23	70
その他 (特許, 研究 紀要, 解説 等)	平成28年度	0	0	0					0
	平成29年度	0	0	0					0
	平成30年度				0	1	0	0	1
	平成31年度				0	4	0	0	4
	令和2年度				2	0	0	0	2

※国内で開催された国際学会での発表は、国際学会発表欄に含めるものとする

## 専攻科生の学外表彰実績

学生氏名	タイトル	授与機関・学会議名
		賞名
システム創成工学専攻	機械制御システムコース 森川 建太	公益社団法人日本設計工学会誌「設計工学」2021年表紙デザイン 公益社団法人日本設計工学会 最優秀賞
	機械制御システムコース 森川 建太	公益社団法人日本設計工学会誌「設計工学」2021年表紙デザイン 独立行政法人国立高等専門学校機構 令和2年度学生表彰
	機械制御システムコース 牧 志峰	フラクタル構造を有する防風柵による減風効果の検証 日本機械学会 関西支部 第95期定時総会講演会 メカボケーション学生研究発表セッション 優秀ポスター賞
	電気電子システムコース 内田 啓太	画面上の和文読みにおける一行表示シフトUIの読解力評価と視線移動解析 ISS特別企画ジュニア&学生ポスターセッション 優秀ポスター賞
	電気電子システムコース 藤原 康太	LbL法アシスト複合めっきによるFe-B/Epoxyコンポジット薄膜の作製 表面技術協会関西支部 第22回関西表面技術フォーラム 優秀講演賞受賞
	電気電子システムコース 深瀬 雅己	スプレー熱分解法を用いた超伝導薄膜と作製及び調製 令和2年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞
	情報システムコース 杉野森 拓馬	手書きスケッチの自動3D変換へ向けたスケッチ表現の自己評価に関する調査 2019年度 情報処理学会関西支部 支部大会 ジュニア会員特別賞
物質創成工学専攻 紀ノ岡 健	Development of separation and recovery systems of Zn from plating wastewater using ion exchange/chelate fibers 令和2年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞	
物質創成工学専攻 小出 ゆり	Construction of zero emission process for semiconductor plating using ion exchange/chelate fibers 令和2年度第3ブロック専攻科研究フォーラム 優秀賞	

## 第2章 研究に関する評価関係



科学研究費等受入実績調べ

(単位:円)

学 科 名	科学研究費補助金 外数(研究分担金)		共 同 研 究 (産学連携等研究費)		受託研究・受託事業 (産学連携等研究費)		補 助 金 事 業		奨 学 寄 付 金		う ち 県 内		う ち 県 外	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成28年度	31 (11)	33,750,000 【9,810,000】 (3,080,000) 【924,000】	31	15,089,800	9	19,161,804	7	35,171,142	43	21,779,671	9	6,266,511	34	15,513,160
平成29年度	24 (11)	23,780,000 【6,960,000】 (2,750,000) 【825,000】	22	14,372,360	7	35,178,000	5	30,350,102	78	18,583,205	27	10,477,205	51	8,106,000
平成30年度	24 (10)	22,152,560 【6,540,000】 (2,250,000) 【675,000】	29	16,391,861	13	35,902,870	10	26,223,357	104	30,586,200	39	10,891,400	65	19,694,800
平成31年度	21 (10)	21,050,000 【6,180,000】 (2,095,000) 【628,500】	21	13,018,292	13	74,772,371	10	27,626,242	98	23,626,236	43	12,103,236	55	11,523,000
令和2年度	21 (14)	21,132,163 【6,120,000】 (2,920,000) 【876,000】	25	18,386,280	8	82,910,278	12	181,197,588	76	9,681,000	29	4,276,000	47	5,405,000

外数【間接経費】

令和2年度科学研究費採択状況一覽

「配分額」は学内受入総額(学外分担者分除く直接+間接)を指す。

年度	種別	申請数	採択数	採択率	直接経費(千円)	間接経費(千円)	氏名	種別	配分額(千円)	課題番号	内 題
2年度	特別推進研究	0	0	-	0	0	藤田 直幸	期間延長	0	16K02822	厚さ方向に磁気異質性が変化する金属一酸化物グラニュー薄膜のウェットプロセス形成
	新学術領域研究	0	0	-	0	0	朴 權英	期間延長	0	17K04598	音声データ分析による英語プレゼンテーション授業の教育評価方法に関する研究開発
	学術変革領域研究	0	0	-	0	0	和田 任弘	期間延長	0	17K06102	耐浸着性および耐アプレシブ性に優れた切削工具用被膜の開発
	基礎研究(S)	0	0	-	400	120	上野 秀剛	継続	520	16K00114	生体データと作業履歴に着目したプログラム理解過程の分析
	基礎研究(A)	0	0	-	800	240	金澤 直志	継続	1,040	18K00991	Predictabilityを育む授業と連携した英文速読精読Web教材開発
	基礎研究(B)	4	0	0.0%	1,000	300	江川 一光	継続	1,040	18K04830	微生物を含むマイクロチップを空気中マイクロリアクターとする生体フェイバーの合成
					1,100	330	宇田 亮子	継続	1,430	18K05068	光イオン化マラカイトグリーン誘導体によるDNA固定化の構築とメカニズムの解明
					800	240	三木 功次郎	継続	1,040	19K03131	新規なハイオク電池および自己駆動型クーロメトリの構築とその教育カリキュラムの作成
					700	210	名倉 誠	継続	520	19K03435	破壊現象による基本的構造物ペクトル空間の新しい分類
					300	90	福岡 寛	継続	390	19K04182	衝撃波閉じ込め領域の制御に向けた壁面表面設計
					1,000	300	中村 篤人	継続	1,300	19K04202	音波共振管実験と分子気体力学に基づき非平衡状態下での蒸気係数測定法の開発
					800	240	松浦 幸仁	継続	1,040	19K06338	ノーミラーオフコンピュテーティングをめざすポリシリン-強磁性金属ハイブリッドの構築
					400	120	山田 裕久	継続	520	19K05682	新規高イオン伝導性層状水酸化物を電解質とした次世代型全固体AFCの開発
					2,400	720	竹原 實也	新規	3,120	20K03143	自由手書きされた重ね書き文字認識を可能とする新処理の実現
					700	210	谷口 幸典	新規	780	20K02366	技術者倫理教育の教育実証研究を通じた教育改善と効果的な学習教材の開発
					1,200	360	亀井 総之	新規	1,560	20K04204	圧粉成形における降伏圏挙動の向定手法-一般化と成形不良事例の解析
					1,500	450	山口 智浩	新規	1,950	20K05492	PXXをコアとする多様な含酸素芳香族化合物の合成と物性評価
					1,300	390	山中 秀美	新規	1,040	20K11946	多目的強化学習の学習結果全ての分布を可視化する報酬生起確率ベクトル空間の構築
				2,100	630	頭師 孝祐	新規	2,730	20K12248	イオン交換/キレート繊維を用いた半導体めっきゼロ・エミッションプロセスの構築	
	挑戦的研究(萌芽)	1	0	0.0%	0	0					
	若手研究(B)	0	0	-	0	0	高原 佑樹	期間延長	0	16K18126	高い高度分解能を持つロケッツGPSモジュール技術の実証実験
	若手研究	8	1	12.5%	1,900	570	池田 陽紀	期間延長	0	18K13750	風力発電タービン用サージ特性を全時間領域で表現可能な理論的回路解析モデルの開発
	研究活動スタート支援	2	2	100.0%	1,000	300	顧谷 智也子	継続	2,470	20K15092	ベンチルによる有機反応制御・位置選択性を有する溶媒としての自己集合体
	研究成果公開発表(ひらめき文とめきサイエンス〜ようこそ大学の研究室へ〜KAKEN HI)	1	1	100.0%	292	-	名倉 誠	新規	1,300	19K23307	アクティブラベリングにおける基礎的・汎用的能力の定量的評価の研究
	国際共同研究強化(A)	0	0	-	0	0			1,300	19K23464	将来衛星多観測ミッションを実現する小型・高性能な新型プロセス波動観測機
	奨励研究	6	1	16.7%	440	-	井上 智弘	新規	292	20HT0186	4次元の世界を見てみよう〜4次元の立体・正120胞体に挑戦!〜
	小計(代表)	63	21	33.3%	21,132	6,120			25,822	20H00769	風の可視化とペーパークラフト風車製作で風力を学ぶ体験理解・課題解決教材の開発
	基礎研究(A) 研究分担者				280	84	板倉 和裕	新規	364	17H01636	分権的発展の効果と潜在力:インド29州の比較分析を通じた民主主義的安定のかたち
	基礎研究(B) 研究分担者				200	60	松井 真希子	継続	260	18H00611	油画修復を中心とする日本洋装の研究とアークタイプ構築
	基礎研究(B) 研究分担者				100	30	若田 大志	新規	1,300	18H02308	太陽光型雑物工場のための任意ストレス付与可能な水蒸気飽和差制御システムの開発
	基礎研究(B) 研究分担者				350	105	大谷 真弘	継続	455	18H03308	遅延時間を活用した丈夫で多様なネットワークダイナミクスの設計・構築とその応用展開
	基礎研究(B) 研究分担者				500	150	板倉 和裕	継続	650	19H04367	司法積極主義と社会運動からみる現代イデオロギの自由民主主義体制の持続可能性
	基礎研究(B) 研究分担者				60	18	上島 智史	新規	78	20H01394	防災・災害復興に向けた地図・総覧資料の歴史GISデータ化
	基礎研究(B) 研究分担者				50	15	朴 權英	継続	65	17K02706	日本語話者と英語話者による英語連発音における語末子音の発話及び知覚に関する研究
	基礎研究(C) 研究分担者				500	150	宇田 亮子	新規	650	18K12123	マイクロ波精密照射による細胞死制御と可視化-癌セラピューティクス開発を目指して
	基礎研究(C) 研究分担者				300	90	池田 陽紀	継続	390	19K02989	超光速で100%を目指す専門人材育成のための工学教育プログラムの構築
	基礎研究(C) 研究分担者				80	24	福岡 寛	継続	104	19K03815	国家再エネ100%を目標とする2つのプログラムの衝突過程を用いた複合ナノ粒子の創成
	基礎研究(C) 研究分担者				200	60	上野 秀剛	継続	260	19K12561	地域の食文化を対象とした観光の形成手法と波及効果に関するアクションリサーチ
	基礎研究(C) 研究分担者				200	60	後藤 景子	新規	260	20K02417	電界新法とイオン交換による再生繊維の持続可能な染色加工
	基礎研究(C) 研究分担者				50	15	太田 孝雄	新規	65	20K04202	多品種少量ハイパー半導体製造向け多層イオンマイクロロビーム装置色加工
	基礎研究(C) 研究分担者				50	15	太田 孝雄	新規	65	20K04944	大気圧プラズマを応用した多層塗装における対象表面で制御させ易くする手法の提案
	小計(分担)	14	14	100.0%	2,920	876			3,796		
	合計	77	35	45.5%	24,052	6,996					

## 令和2年度 受託研究・受託事業・補助金事業一覧

## 受託研究

学 科	氏 名	受託研究申込者	所 在 地	研 究 題 目	研 究 期 間	研究経費受入額
電子制御工学科	飯田 賢一 他	企業等との守秘義務の関係上、個人を特定できる情報を割愛することといたしました。ご了承願います。			R2.4.1-R3.3.31	11,637,500
機械工学科	福岡 寛	国立大学法人東京大学 工学系・情報理工学系等 事務部長 見供 隆	東京都文京区本郷7-3-1	脳深部計測のための音響光技術開発 (日本医療研究開発機構(AMED) 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト)	R2.4.1-R3.3.31	2,730,000
物質化学工学科	山田 裕久	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構	神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー18階	『燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業/水素利用等高度化先端技術開発/PEFC用イオン液体含浸型Pt/MPC高活性・高耐久カソード触媒合成技術の研究開発』	R2.7.31-R4.6.30	38,207,000
電気工学科	池田 陽紀				R2.12.28-R3.3.31	1,650,000
電気工学科	池田 陽紀				R2.12.28-R3.3.31	350,000
計	5件					54,574,500

## 受託事業

学 科	氏 名	受託事業申込者	所 在 地	プログラム名	受託期間	受託金額
電気工学科	芦原 佑樹	文部科学省 研究開発局長 生川 浩史	東京都千代田区霞が関三丁目2番2号	「観測ロケット実験を通じた宇宙機器エンジニアリングスキル養成プログラム」	R2.4.1-R3.3.31	15,999,787
校長	後藤 景子	株式会社村田製作所 技術・事業開発本部 技術管理部 部長 林 幹生	京都府長岡京市東神足1丁目10番1号	奈良高専イノベーションアイデアコンテスト (期間延長契約)	R1.7.1-R3.3.31	0
物質化学工学科	山田 裕久	国立大学法人大阪大学 学長 西尾 章治郎	大阪府吹田市山田丘1-1	「阪奈機器共用ネットワーク」 文部科学省 先端研究基盤共用促進事業(研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム(SHARE))	R2.4.1-R3.3.31	12,257,991
情報工学科	内田 眞司	郡山城にぎわいづくり実行委員会 会長 飯田 喜代視	奈良県大和郡山市北郡山町248番地4	郡山城天守台プロジェクションマッピング	R2.7.13-R2.12.20	78,000
計	3件(期間延長のみの変更契約分は件数に含まない)					28,335,778

## 補助金事業

学 科	氏 名	補助事業実施者	所 在 地	プロジェクト名	補助期間	補助金額
機械工学科	和田 任弘	公益財団法人軽金属奨学会	大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号 御堂筋ダイワビル 東洋アルミニウム株式会社内	高圧クランク供給を用いたTi-6Al-4V合金のねじ旋削における工具磨耗 (軽金属奨学会 2020年度研究補助金)	R2.4.1-R3.3.31	300,000
物質化学工学科	宇田 亮子	公益財団法人高橋産業経済研究財団	東京都品川区西五反田2-12-19 五反田NNビル10階	光応答型アニオン四重鎖プロブを目標としたトリフェニルメタン誘導体の開発 (高橋産業経済研究財団 令和2年度助成金)	R2.4.1-R3.3.31	1,300,000
機械工学科	谷口 幸典 須田 敦	公益財団法人奈良県地域産業振興センター 理事長 奥田 喜則	奈良県奈良市柏木町129番地1	次世代型接合技術を用いたユニットバスフレームの研究開発 (令和2年度中小企業経営支援等対策費補助金(戦略的基盤技術高度化支援事業))	R2.4.1-R3.3.5	3,399,999
校長	後藤 景子	奈良県知事 荒井 正吾	奈良県奈良市柏木町129番地1	令和2年度奈良高専技術情報活用支援事業補助金	R2.4.1-R3.3.31	1,405,000
電子制御工学科	西田 茂生 他	独立行政法人工業所有権情報・研修館	東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー 8階	知財力開発校支援事業	R2.4.27-R3.3.31	319,789
情報工学科	松村 寿枝	文部科学省	東京都千代田区霞が関3-2-2	2020年度科学技術人材育成費補助金(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型))	R2.4.1-R3.3.31	8,900,000
電気工学科 機械工学科	藤田 直幸 須田 敦	関西工学会協会高等部会長 明石工業高等専門学校長 神戸 宣明	兵庫県明石市魚住町西岡679-3	高専におけるSDGs教育カリキュラムの計画と実施 (令和2年度関西工学会協会高等部会教育研究助成)	R2.6.30-R3.3.31	150,000
電子制御工学科	島岡 三義	関西工学会協会高等部会長 明石工業高等専門学校長 神戸 宣明	兵庫県明石市魚住町西岡679-3	原子炉廃炉作業を題材にしたゴールが見えにくいタイプの技術開発の指針書の作成 (令和2年度関西工学会協会高等部会教育研究助成)	R2.6.30-R3.3.31	150,000
物質化学工学科	山田 裕久 亀井 稔之	文部科学大臣 萩生田 光一	東京都千代田区霞が関3-2-2	先端研究設備整備補助事業(研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備)	R2.7.10-R2.12.31	63,522,800
物質化学工学科	宇田 亮子	公益財団法人コーセーコスメロジー研究財団 理事長 小林 保清	東京都中央区八重洲1丁目5番17号 八重洲香川ビルディング4階	紫外線応答型リボソームの膜融合性を用いた送達システムの開発 (公益財団法人コーセーコスメロジー研究財団 2020年度 コスメロジー研究助成)	R2.12.1-R5.3.31	2,000,000
物質化学工学科	山田 裕久	文部科学大臣 萩生田 光一	東京都千代田区霞が関3-2-2	先端研究設備整備補助事業(研究施設・設備・機器のリモート化・スマート化)	R3.2.18-R3.3.31	99,000,000
一般教科	竹原 信也	公益財団法人ちゅうでん教育振興財団 事務局長 重野 拓郎	愛知県名古屋市中区東桜二丁目6番30号 東桜会館4階	高専・NPO・企業の協働による貧困問題を「技術」で解決するためのアイデアソン開催 (2020年度 ちゅうでん教育振興助成(高等専門学校の部))	R3.4.1-R4.3.31	750,000
計	12件					181,197,588

## 令和 2 年度 共同研究一覧

学 科	氏 名	会 社 名	所 在 地	研 究 題 目	変更契約	研 究 期 間	研究経費受入額
電子制御工学科	飯田 賢一					R2.4.2 ~ R3.3.31	550,000
機械工学科	和田 任弘					R2.4.14 ~ R3.3.31	22,000
機械工学科	須田 敦					R2.3.31 ~ R4.3.31	0
物質化学工学科	中村 秀美		企業等との守秘義務の関係上、個人を特定 できる情報を割愛することいたしました。ご 了承願います。			R2.4.14 ~ R3.3.31	500,000
物質化学工学科	山田 裕久			研究費増額	H28.4.25 ~ R3.3.31	500,000	
機械工学科	和田 任弘				R2.5.19 ~ R3.3.31	198,000	
機械工学科	福岡 寛				R2.5.26 ~ R3.3.31	500,000	
電気工学科	石飛 学					R2.5.26 ~ R3.5.31	99,000
情報工学科	上野 秀剛					R2.5.26 ~ R3.3.31	500,000
電気工学科	石飛 学				期間延長 担当者変更 研究費増額	H29.7.1 ~ R3.3.31	500,000
物質化学工学科	中村 秀美					R2.7.2 ~ R2.12.28	2,420,000
情報工学科	上野 秀剛					R2.7.27 ~ R3.3.31	500,000
情報工学科	上野 秀剛					R2.8.25 ~ R3.3.31	660,000
校長	後藤 景子					R2.9.3 ~ R4.3.31	50,000
機械工学科	須田 敦					R2.9.3 ~ R4.3.31	500,000
物質化学工学科	松浦 幸仁					R2.9.14 ~ R3.3.13	500,000
校長 物質化学工学科	後藤 景子 山田 裕久					R2.10.1 ~ R3.9.30	900,000
物質化学工学科	中村 秀美				期間延長	R2.7.2 ~ R3.2.26	-
物質化学工学科	片倉 勝己					R3.2.1 ~ R3.12.28	2,997,280
物質化学工学科	中村 秀美					R2.12.1 ~ R4.3.31	1,950,000
電子制御工学科	早川 恭弘				期間延長 研究費増額	H30.4.16 ~ R4.3.31	1,000,000
物質化学工学科	片倉 勝己				期間延長	H29.10.23 ~ R3.12.31	-
機械工学科	福岡 寛				期間延長	R2.4.1 ~ R4.3.31	-
機械工学科	福岡 寛				期間延長	R2.5.26 ~ R4.3.31	-
情報工学科	上野 秀剛				期間延長	R2.5.26 ~ R4.3.31	-
情報工学科	上野 秀剛				期間延長	R2.7.27 ~ R4.3.31	-
情報工学科	上野 秀剛				期間延長 研究費増額	R2.8.25 ~ R4.3.31	990,000
機械工学科	福岡 寛				研究費増額	R2.5.26 ~ R4.3.31	500,000
情報工学科	上野 秀剛				研究費増額	R2.5.26 ~ R4.3.31	500,000
電子制御工学科	飯田 賢一				期間延長 研究費増額	R2.4.2 ~ R4.3.31	550,000
物質化学工学科	中村 秀美					R3.4.1 ~ R4.3.31	1,000,000
物質化学工学科	山田 裕久				期間延長	H30.10.19 ~ R4.3.31	-
物質化学工学科	山田 裕久				期間延長	H28.4.25 ~ R4.3.31	-
計	25件（期間延長のみの変更契約分は件数に含まない）						18,386,280



49	亀井准教授研究助成金			○	21,000円		R2.7.15
50	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	60,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.8.3
51	谷口幸典准教授研究助成金			○	15,000円		R2.8.27
52	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.23
53	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.30
54	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.30
55	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.2
56	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.11
57	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.30
58	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.30
59	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.3
60	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.3
61	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.30
62	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.9.25
63	長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会研究助成			○	200,000円		R2.9.30
64	福岡准教授研究助成金			○	750,000円		R2.10.27
65	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.10.14
66	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.10.30
67	中村准教授研究助成金			○	50,000円		R2.11.11
68	「奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアム」年会費			○	20,000円	奈良工業高等専門学校地域イノベーションコンソーシアムの事業助成のため	R2.11.30
69	産学連携促進助成金			○	100,000円		R2.12.4
70	D00N2021 プロトタイプ制作費			○	30,000円		R2.11.30
71	奈良高専産学連携促進助成金			○	200,000円		R2.12.16
72	土井滋貴准教授研究助成金			○	50,000円		R3.3.4
73	太田准教授研究助成金			○	50,000円		R3.3.10
74	教育助成金			○	2,000,000円		R3.3.15
75	石飛学教授研究助成金			○	500,000円		R3.4.28
76	中村秀美教授研究助成金			○	500,000円		R3.4.28
合 計					9,681,000円		

学会賞等の受賞状況(奈良高専在任期間中)

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	小島 耕二	昭和59年5月	論文賞	日本塑性加工学会	論文「炭素鋼の焼きもどし温間鍛造」
情報工学科	山口 智浩	平成13年5月	第14回人工知能学会優秀論文賞	人工知能学会	PAE-PIA:報酬獲得効率を最大化する政策の強化学習
物質化学工学科	宇田 亮子	平成13年6月	講演奨励賞	日本科学会	長鎖アルキル基を有するビスクラウン化マラカイトグリーンの合成と物性評価
電気工学科	大谷 真弘	平成14年5月	第4回LSIIPデザイン・アワード開発奨励賞	LSIIPデザイン・アワード運営委員会	広ダイナミックレレンジを有するエッジ検出ビジョンチップ
一般教科	勢田 勝郭	平成14年11月	平成14年国立高等専門学校協会の長奨励賞	国立高等専門学校協会	
一般教科	安田 智之	平成15年12月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	
情報工学科	松尾 賢一				
一般教科	堀内 泰男	平成16年8月	平成16年度高等専門学校教育教員研究集会機構理事賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	寮生活の規律の確立～自主的な生活を目指して～
一般教科	北川 誠之助				
電子制御工学科	櫻 弘明				
電気工学科	中村 善一	平成17年3月	平成16年度独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰奨励賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	
	三木 功次郎				
物質化学工学科	直江 一光	平成17年8月	平成17年度教育教員研究集会文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学生が主体となった小・中学生対象化学実験教室の運営とその教育効果
	石丸 裕士				
	宇田 亮子				
一般教科	榊原 和彦	平成18年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	
機械工学科	小島 耕二	平成18年5月	日本塑性加工学会賞教育賞	(社)日本塑性加工学会	たたら操業の再現とものづくり教育
機械工学科	小島 耕二	平成18年10月	第1回モノづくり連携大賞特別賞	日刊工業新聞社	古代製鉄法「たたら吹き」の再現と日本刀および和釘等の製造
物質化学工学科	嶋田 豊司	平成18年11月	第4回支部賞	(社)有機合成化学協会関西支部	機能性材料を指向したアリルシラン誘導体およびそれら関連有機化合物の合成
一般教科	中西 茂巳	平成18年11月	教育表彰	天理市教育委員会	
電気工学科	京兼 純	平成19年1月	優秀論文賞	電気材料技術懇談会	高イオン導電性フッ素系ゲル電解質の電気的特性と色素増感太陽電池への応用
一般教科	武田 充啓	平成19年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生との信頼関係確立による教育活動等への貢献
物質化学工学科	宇田 亮子	平成19年5月	講演奨励賞	(社)日本化学会	光応答マラカイトグリーン界面活性剤によるベシクル形成の光制御
電子制御工学科	玉木 隆幸	平成19年9月	第29回応用物理学会論文賞	(社)応用物理学会	Welding of Transparent Materials Using Femtosecond Laser Pulses
機械工学科	酒井 史敏	平成19年9月	2007年度計測自動制御学会論文賞	(社)計測自動制御学会	連続時間システム同定のための耐雑音性を有する反復学習制御

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
電子制御工学科	矢野 順彦	平成19年11月	日本AEM学会奨励賞	日本AEM学会	超音波モーターと磁気粘性流体を用いたアクチュエータに関する研究
物質化学工学科	泉 生一郎	平成20年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	地域に根ざして全国展開する新生国立高専への貢献
機械工学科	和田 任弘	平成20年8月	日本工学会教育協会賞著作賞	(社)日本工学会教育協会	教科書「機械工作法(増補)」刊行によるもの作り教育への貢献
電気工学科	芦原 佑樹	平成20年8月	Young Scientist Award	Union Radio-scientifique International	
物質化学工学科	三木 功次郎				
一般教科	北村 誠				
一般教科	榊原 和彦				
一般教科	名倉 誠				
一般教科	長瀬 潤				
一般教科	新野 康彦	平成20年8月	平成20年度教育教員研究会(学生指導分野)文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	課外活動を利用した技術者教育の推進～多面的な教育効果を狙った新たな試み～
物質化学工学科	直江 一光				
物質化学工学科	宇田 亮子				
情報工学科	松尾 賢一				
情報工学科	山口 賢一				
情報工学科	本間 啓道	平成20年8月	功労賞	高等専門学校情報処理教育研究会	
電気工学科	藤田 直幸	平成21年3月	平成20年度独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学内横断プロジェクトの構築による教育研究の推進
物質化学工学科	三木 功次郎				
物質化学工学科	直江 一光				
一般教科	北村 誠				
物質化学工学科	宇田 亮子				
一般教科	名倉 誠	平成21年8月	平成21年度教育教員研究会(学生指導分野)文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	高専生の国際科学オリンピックへの挑戦とその教育的効果
一般教科	長瀬 潤				
一般教科	榊原 和彦				
一般教科	新野 康彦				
情報工学科	山口 賢一				
情報工学科	松尾 賢一				
電子制御工学科	早川 恭弘	平成22年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官連携及び外部資金獲得による貢献と学生教育改善
情報工学科	山口 賢一	平成22年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	課外活動を利用した学生の資質向上に向けた取り組み
一般教科	鍵本 有理	平成22年8月	平成22年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究会(教育研究分野)理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学生の相互評価を活用した短歌・俳句指導-国語表現の一環として-



学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
物質化学工学科	三木 功次郎				
一般教科	北村 誠				
一般教科	名倉 誠				
一般教科	榊原 和彦	平成22年8月	平成23年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究集会(学生指導分野)文部科学大臣賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	サイエンスボランティア活動を活用した技術者教育-人間力育成を旨して-
情報工学科	山口 賢一				
物質化学工学科	直江 一光				
物質化学工学科	宇田 亮子				
情報工学科	松尾 賢一				
電気工学科	芦原 佑樹	平成22年9月	AP-RASC'10 Young Scientist Award	Union Radio-scientifique International, 電子通信情報学会	Estimation of Electron Density Profile in the Lower Ionospheric D Region from MF Radio Wave Observation by S-310-37 Rocket
電気工学科	藤井 治久	平成22年10月	Best Paper of Session	11th Spacecraft, Charging Technology Conference	Electrostatic Discharges from Electrically Floating Electrodes under Electron Irradiation
電気工学科	藤井 治久	平成23年1月	電気材料技術懇談会第267回優秀論文賞	電気材料技術懇談会	真空中荷電粒子による絶縁材料の帯電現象
情報工学科	松尾 賢一	平成23年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生の自発性を育む実践的教育とその効果
電気工学科	石飛 学	平成23年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生の懐に飛び込んで意識改革を行う教育
物質化学工学科	宇田 亮子	平成24年1月	第7回近畿分析技術研究奨励賞	日本分析化学会近畿支部	光応答性トリフェニルメタン誘導体の分離分析化学への応用
電子制御工学科	飯田 賢一	平成24年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ロボコンを通じたものづくり教育の実践
電気工学科	宇田 亮子	平成24年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	高専の特徴を活かした教育・学生指導
一般教科	井上 次夫	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀ポスター賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	学科枠を越えて交流する読書体験発表会
一般教科	井上 次夫	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀発表賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	論文・レポートで適切な単語文体が使用できるための教材開発
物質化学工学科	石丸 裕士	平成24年8月	平成24年度全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門)優秀発表賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	Q-Uを活用した学級経営改善に対する全学的な取り組み
一般教科	鍵本 有理	平成25年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	教科の特性を生かした多面的学生指導と学校運営
一般教科	井上 次夫	平成25年8月	論文集「高専教育」第36号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	読書意欲を喚起し、読書の幅を広げる読書発表会
機械工学科	谷口 幸典	平成25年10月	Outstanding Paper Award	The 4th TSME International Conference on Mechanical Engineering in AMM	Small Billet Forming of Porous Sintered Copper Sheet

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	児玉 謙司	平成25年10月	Outstanding Paper Award	The 4th TSME International Conference on Mechanical Engineering in AMM	Small Billet Forming of Porous Sintered Copper Sheet
物質化学工学科	片倉 勝己	平成26年8月	平成25年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰理事賞(一般部門)	独立行政法人国立高等専門学校機構	多角的な広報・国際戦略によるグローバル人材の育成
機械工学科	谷口 幸典	平成26年8月	平成25年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰分野別優秀賞(若手部門)	独立行政法人国立高等専門学校機構	「サイエンスカフェ」による学生の自己実現
情報工学科	内田 眞司	平成26年8月	平成26年度 全国高専教育フォーラム・教育研究活動発表会(個人研究部門・学生指導分野)優秀ポスター賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	FFS理論による新入生の特性分析
電気工学科	藤田 直幸	平成26年8月	論文集「高専教育」第37号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信 - 連携による女子学生の成長を指した活動 -
一般教科	竹原 信也	平成26年8月	論文集「高専教育」第37号 高専教育論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	技術者教育におけるオーラル・ヒストリーの活用 - 青函連絡船、羊蹄丸のオーラル・ヒストリーに取り組んだ事例 -
情報工学科	上野 秀剛	平成27年3月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	専攻科・大学院連携キャリア教育の実践
機械工学科	和田 任弘	平成27年8月	平成26年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 一般部門 優秀賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	教育や研究・専門性を活用した多様な社会貢献
物質化学工学科	石丸 裕士	平成27年8月	論文集「高専教育」第38号 高専論文賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	Q-Uを用いた高専生の価値観の解析と学習・進路に及ぼす影響
情報工学科	松尾 賢一	平成27年9月	FIT論文賞	情報科学技術フォーラム運営委員会	採点ミス発見支援システムの開発: ~部分点と採点記号の認識を用いた採点ミス発見手法~
電子制御工学科	玉木 隆幸	平成27年10月	奈良教弘賞	(公財)日本教育公務員弘済会奈良支部	教育研究実践論文
機械工学科	酒井 史敏	平成27年10月	2015年度計測自動制御学会著述賞	(公社)計測自動制御学会	著書「制御工学 - 技術者のための、理論・設計から実践まで - (豊橋技術科学大学・高等専門学校制御工学教育連携プロジェクト)」
物質化学工学科	石丸 裕士	平成27年11月	サイエンティスト・プラクティショナー賞	日本教育カウンセリング学会	
校長	後藤 景子	平成28年4月	日本油化学会学会賞	(公社)日本油化学会	汚れの洗浄に関する基礎的・応用的研究
機械工学科	谷口 幸典	平成28年5月	平成28年度(第51回)学会賞 教育賞	(一社)日本塑性加工学会	粉末冶金 - 焼結法を教材化した小中学生向け教育プログラムの開発
電子制御工学科	早川 恭弘	平成28年5月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官金連携活動および外部資金獲得による貢献

学科	氏名	年月	賞の名称	主催者	備考
機械工学科	児玉 謙司	平成28年5月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	産学官による医工連携事業の推進と地方創生への貢献
一般教科	名倉 誠	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
一般教科	梅本 悠莉子	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
一般教科	竹原 信也	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
情報工学科	上野 秀剛	平成28年8月	平成28年度全国高専フォーラムポスターセッション(教育研究活動発表)優秀発表賞	平成28年度全国高専フォーラム実行委員会	
機械工学科	酒井 史敏	平成28年9月	工学教育賞	(公社)日本工学会教育協会	制御工学一技術者のための、理論・設計から実践まで
一般教科	名倉 誠	平成29年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	やる気と自主性を引き出す集団作り・学生指導
電子制御工学科	中村 篤人	平成29年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	PBL教育による問題解決能力を有した技術者、研究者の養成
物質化学工学科	中村 秀美	平成30年4月	平成29年度 独立行政法人国立高等専門学校機構教員顕彰 一般部門 理事長賞	独立行政法人国立高等専門学校機構	教育・研究を通じた地域社会貢献と人材育成の推進
一般教科	竹原 信也	平成30年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	技術者教育としての社会科教育を考えるー10年の取組とその成果ー
情報工学科	山口 賢一	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	プログラミン導入教育の地域への普及促進とセキユリティ人材確保に向けた取り組み
電気工学科	芦原 佑樹	平成31年4月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成
物質化学工学科	伊月 亜有子	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	学生に寄り添った指導支援の実践
電気工学科	芦原 佑樹	令和2年9月	教員顕彰	奈良工業高等専門学校	ステークホルダー・コミュニケーションを通じた学生育成

## 特許等申請・取得状況

No	学科	氏名	特許出願日	出願番号	特許登録日	特許名称	特許権者
1	機械工学科	小柴 孝	2005. 02. 10	2005-034243	2007. 06. 22 (特許第3972109号)	液体の曳糸性評価方法	国立高等専門学校機構
2	電子制御工学科	早川 恭弘	2005. 12. 20	2005-365829	2009. 11. 27 (特許第4411439号)	靴底及び靴	国立高等専門学校機構
3	機械工学科	谷口 幸典 児玉 謙司	2014. 02. 28	2014-038088	2017. 02. 10 (特許第6086388号)	箔の絞り加工	国立高等専門学校機構
4	物質化学工学科	片倉 勝己	2013. 08. 29	2013-177590	2017. 08. 25 (特許第6195154号)	デンドライトの生成を抑えた亜鉛二次電池	国立高等専門学校機構
5	機械工学科	児玉 謙司	2013. 05. 24	2013-109894	2017. 10. 27 (特許第6230096号)	強磁性非磁性複合体	国立高等専門学校機構
6	電子制御工学科 電気工学科	玉木 隆幸 小野 俊介	2013. 07. 25	2013-154687	2018. 03. 23 (特許第6308733号)	レーザー加工装置および製造方法	国立高等専門学校機構
7	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2015. 06. 22	2015-124380	2019. 06. 14 (特許第6539126号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構
8	校長 電気工学科	谷口 研二 土井 滋貴	2019. 5. 15	2019-091803	2020. 10. 16 (特許第6779537号)	揺れ検知駆動装置および揺れ検知駆動方法	国立高等専門学校機構

### 第3章 社会との連携, グローバル教育, 男女共同参画推進関係

## 公開講座実施実績一覧（平成31年度）

講座名	開催日時	対象	募集人数 (受講者数)	担当学科 または委員会等
日本文学講座Ⅶ -古代から近代まで-	第1回 8月20日(火) 第2回 8月27日(火) 第3回 9月3日(火) 第4回 9月10日(火) 全日とも 10:00~11:30	一般・学生 (高校生以上)	60 (88)	一般教科
やたやま 社会の森 オープンセミナー	第1回 10月5日(土) 第2回 10月19日(土) 第3回 11月9日(土) 第4回 11月30日(土) 全日とも 10:00~11:30	一般	60 (78)	一般教科
デジタルファブリケーション 入門! ～レーザーをあやつってみよう～	8月17日(土) 10:00~15:00	小学生 (5~6年) 中学生 (1年)	8 (16)	機械工学科
楽しいIoT教室 ～こんなものがインターネットに つながる!～	9月15日(日) 13:00~16:00	中学生 (1~3年)	16 (16)	電気工学科
楽しく作るライン追跡ロボット ～君にもできるロボット製作～	8月21日(水) 10:00~15:00	小学生 (5~6年)	20 (20)	電子制御工学科
ビジュアルプログラミングで プログラミングを学ぼう (初級・中級)	8月10日(土) 10:00~16:00	小学生 (4~6年)と 保護者 または中学生 と保護者	40 (40)	情報工学科
親子でチャレンジ! スーパースライムをつくらう!! ～夏休みの自由研究～	7月28日(日) 9:30~12:30	小学生と 保護者	36 (36)	教育研究支援室

## 公開講座実施実績一覧（令和2年度）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全て中止しました。

## 令和2年度 学市連携事業一覧

## 学市連携「出前授業」

※令和2年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大和郡山市、生駒市共に小中学校への出前授業は実施しませんでした。

## 学市連携「科学教室（高専教室）」

市	テーマ名	担当学科	実施日	対象	人数	備考
大和郡山市	1 超低温の世界を探る	一般教科	12月19日（土）	小学5～6年生	20	
					20	
生駒市	1 超低温の世界を探る	一般教科	11月28日（土）	小学4～6年生	15	
					15	

## 令和2年度 学市連携以外派遣事業一覧

	派遣者	実施日	派遣先	派遣事業
1	情報工学科 松村	10月27日（火）	三笠中学校（奈良市）	出前授業「身近な音を調べてみよう」

## 令和2年度 展示会・地域連携事業一覧

	展示会・地域連携事業名	実施者	実施日	会場・実施場所
1	NEXT 関西イノベーション・マッチング	産学協働研究センター	8月25日（火）	オンライン開催
2	国際フロンティア産業メッセ2020	産学協働研究センター	9月3日（木） ～ 9月4日（金）	神戸国際展示場（神戸市）
3	けいはんなビジネスメッセ2020 Virtual	産学協働研究センター	10月27日（火） ～ 10月28日（水）	オンライン開催
4	イノベーションストリームKANSAI2020	電子制御工学科 早川	11月16日（月） ～ 1月31日（日）	WEB 展示会
5	IPビジネスサイト（ブース）MOBIO 企画展	機械工学科 福岡	12月2日（水） ～ 1月28日（木）	クリエイション・コア東大阪（東大阪市）
6	MOBIO テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会	電子制御工学科 玉木	12月9日（水）	クリエイション・コア東大阪（東大阪市）
7	大和郡山市・阪南大学・奈良高専 3機関連携「大和郡山城天守台プロジェクトマッピング」	情報工学科 内田 一般教科 稲田	12月20日（日）	大和郡山城（大和郡山市）
8	第2回おしごとフェスタ in 大和郡山 子どものおしごと体験「歯ブラシで動く金魚ロボットを作ろう！」	機械工学科 須田・谷口	3月7日（日）	三の丸会館（大和郡山市）

施設開放状況一覧

ー 1 / 1 ー

年度	日付	使用目的	使用団体	選択教室5	教室(6E)	大視聴覚室	視聴覚室	電子工学実験室	第一会議室	大講義室	本館R	大会講室	ボール更衣室	第1体育館	第2体育館	陸上競技場	インフォ	テニスコート	7-子ポ-場
H28年度	H28.5.8	第66回市民体育大会	大和郡山市体育協会											300	300			300	300
	H28.5.8	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.5.29	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.6.12	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.6.19	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.7.24	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.7.31	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.9.4	第47回市民陸上競技大会	大和郡山市体育協会															200	
	H28.9.28	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H28.12.10	第24回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	960	300	300
小計																			
H29年度	H29.5.14	第67回市民体育大会	大和郡山市体育協会															300	300
	H29.5.14	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H29.5.21	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H29.6.11	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H29.6.18	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H29.7.9	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H29.6.11	奈良県家庭婦人バレーボールクラブ協議会北部ブロック大会	奈良県家庭婦人バレーボールクラブ協議会												200				
	H29.12.17	第25回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	200	0	700	300	300
小計																			
H30年度	H30.5.13	第68回市民体育大会	大和郡山市体育協会															300	300
	H30.5.13	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H30.5.20	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H30.6.17	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H30.7.15	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	H30.12.16	第26回大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	250	300	300
小計																			
H31年度	R1.5.12	第69回市民体育大会	大和郡山市体育協会															300	300
	R1.5.19	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	R1.5.26	奈良県サッカー協会入リーグ	奈良県サッカー協会															80	
	R1.10.5	第50回市民陸上競技大会	大和郡山市体育協会															200	
	R1.12.15	大和郡山市ラグビーカーニバル	大和郡山市ラグビーフットボール協会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	300	300	0	610	300	300
小計																			
R2年度		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため貸出業務なし																	
小計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年平均				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	275.00	275.00	0.00	710.00	300.00	300.00
合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1100	1100	0	2840	1200	1200



留学生年度別受入一覧表

年度	機械工学科		電気工学科		電子制御工学科		情報工学科		物質化学工学科		計		在籍数		退学数		卒業数			備考
	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	国費	政府派遣	進学	帰国	就職	
28		2 マレーシア				1 マレーシア			1 モンゴ ル	1 マレーシア	1 政府派遣	1 4	4 4			1 1		1 2		
29									1 マレーシア	1 マレーシア	1 政府派遣	1 1	4 4	7 7			4 4			
30							1 ラオス			1 マレーシア	1 政府派遣	1 3	3 11	8 8			5 5			
31		1 マレーシア							1 モンゴ ル		1 1	2 2	3 8	5 5			1 1		1 2	
2		1 マレーシア					1 インドネ シア		1 インドネ シア	1 インドネ シア	2 4	2 10	4 10	6 6			2 2		2 4	

国際交流 派遣・受入事業一覧

令和元年度 海外派遣	日程	引率教職員(派遣代表者)	派遣学生		人数	国・地域	派遣先
			学年	学年			
1	令和元年7月13日(土) ～7月18日(木)	一般教科 中山 大輝 【事業名: Asian Youth Forum 2019】	本科2年 (2E 5名, 2S 1名)		6名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
2	令和元年8月1日(木) ～8月29日(木)	引率無し	専攻科1年 (IAM 1名, IAI 3名)		4名	シンガポール	ナンヤンポリテクニク
3	令和元年8月1日(木) ～8月31日(土)	引率無し	専攻科1年 (IAM 2名)		2名	台湾	国立勤益科技大学
4	令和元年8月12日(月) ～9月20日(金)	引率無し 【事業名: トビタテ留学JAPAN!】	本科2年 (2S 1名)		1名	イギリス	Naceel English School London
5	令和元年9月2日(月) ～9月25日(水)	引率無し	専攻科1年 (IAI 1名)		1名	シンガポール	リパブリックポリテクニク
6	令和元年10月7日(月) ～10月13日(日)	引率無し 【事業名: ISTS2019】	専攻科1年 (IAM 1名)		1名	タイ	キングモンクット工科大学 ラカバン校
7	令和元年12月18日(水) ～12月24日(火)	一般教科 金澤 直志 【事業名: 日タイICTフェア】	本科2年 (2E 3名, 2S 2名, 2C 2名)		7名	タイ	プリンセスチュラボン・サイエン スハイスクーラ ムクダハン校
8	令和2年2月22日(土) ～3月14日(土)	引率無し 【事業名: 海外インターンシップ】	専攻科1年 (IMC 1名)		1名	マレーシア	東洋エンジニアリング(株)
9	令和2年1月7日(火) ～3月16日(月)	引率無し 【事業名: トビタテ留学JAPAN!】	本科5年 (5S 1名)		1名	ドイツ	デッタンドルフ工科大学
10	令和2年3月1日(日) ～3月16日(月)	引率無し 【事業名: トビタテ留学JAPAN!】	専攻科2年 (2AE 1名)		1名	ドイツ	カールスルーエ工科大学

令和2年度 海外派遣なし

令和2年度 オンライン国際交流

令和2年度	日程	事業名	参加学生		人数	国・地域	相手先
			学年	学年			
1	令和2年6月23日(火) ～8月6日(木)	ビデオカンファレンス	本科1～5年		19名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
2	令和2年8月27日(木) ・11月16日(月) ・11月24日(火)	Asian Youth Forum 2020 ウェビナー (ウェブセミナー)	本科2年 (2M 1名, 2I 3名, 2C 1名)		5名	台湾, 韓国, ベ トナム, インド ネシア	奈良女子大学附属中等教育学校他, 台湾, 韓国, ベトナム, インドネシ アのAIF参加校
3	令和2年10月9日(金) ～2月5日(金)	E-palプロジェクト	本科1～5年		30名	台湾	国立中山大学附属国光高級中学 (Guoguang Laboratory School)
4	令和2年11月7日(土) ・11月21日(土)・12月5日(土) ・12月19日(土)・1月9日(土)	ISTS / JSTS2020代替プログラム SDGs Webinar 2020 “今”を視て創造する新しいSDGs-	本科5年, 専攻科1年 (5M 1名, IAM 2名)		3名		SDGs Webinar 2020 参加高専及び参 加技科大
5	令和2年11月7日(土)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年		40名	シンガポール	ナンヤンポリテクニク
6	令和2年12月11日(金)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年		38名	シンガポール	リパブリックポリテクニク
7	令和2年12月19日(土)	レゴを活用した英語コミュニケーション ワークショップ	本科1～5年		29名		
8	令和3年3月29日(月)	オンライン国際交流イベント	本科1～5年		14名	香港 シンガポール	香港VTC 香港職業教育學院 リパブリックポリテクニク

令和元年度 海外からの学生受入

令和元年度	日程	受入対応	指導教員	受入人数	所属先	
					国・地域	学校名
1	令和元年5月8日(木) ～7月26日(金)	電気工学科・物質化学工学科・学寮	土井教員・片倉教員・寮務主事	学生: 3名	シンガポール	ナンヤンポリテクニク
2	令和元年10月1日(火) ～12月21日(土)	機械工学科・電気工学科・学寮	和田教員・小柴教員・土井教 員・寮務主事	学生: 8名	シンガポール	ナンヤンポリテクニク
3	令和元年10月1日(火) ～12月24日(火)	電気工学科・学寮	高橋教員・土井教員・寮務主事	学生: 2名	シンガポール	リパブリックポリテクニク

令和2年度 海外からの学生受入なし

## 資料 55

## 教員の兼業状況

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2 年度
承認件数	4 0 件	4 0 件	5 1 件	4 2 件	5 4 件

## 資料 56

## 非常勤講師の配置状況

(令和 2 年度)

学 科	科目等	人数 (延べ)	授業時間数/週		備 考
			前期	後期	
一般教科	国 語	1	6	6	国語Ⅲ
	社 会	3	1 0	4	地理, 現代社会と法, 公共
	体 育	1	8	4	保健・体育Ⅱ, 体育実技
	数 学	4	2 2	2 4	数学特論 $\alpha$ , 数学特論 $\beta$ , 線形代数, 応用数学 $\alpha$ , 応用数学 $\beta$
	物 理	1	3	7	物理Ⅰ, 物理Ⅱ
	生 物	2	6	4	生物
	芸 術	2	0	1 2	美術, 音楽
	英 語	5	2 6	1 8	英語Ⅰ, 英語Ⅳ, 英語Ⅴ, 英文法Ⅱ グローバル・エンジニアスキル
情報工学科	—	5	1 1	9	情報工学実験Ⅲ, データ構造とアルゴリズム, コンピュータアーキテクチャ, マルチメディア情報処理, プログラミングⅡ
専攻科	—	4	6	2	情報ネットワークとセキュリティー, 技術者倫理, アドバンスト・グローバル・エンジニアスキル
留学生	日本語	1	4	4	留学生の日本語
	情 報	1	2	2	デジタル回路, 論理回路Ⅰ
	計	3 0	1 0 4	9 6	

## 授業アンケート結果総括（令和 2 年度）

## 【授業内容に関する質問】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
1	担当教員の指導（話し方・問いかけ・指示・板書等）は適切であり、授業の進行や内容は整理されていて理解し易かったと思いますか。	3.48	3.47	3.63	3.50	3.38	3.49
2	担当教員は学生の理解度を確認しながら授業を進めていたと思いますか。	3.35	3.38	3.50	3.36	3.23	3.39
3	授業の進め方や授業内容は、最初の授業で説明されたシラバスに沿っていたと思いますか。	3.55	3.52	3.65	3.54	3.49	3.57
4	授業の形態（講義、演習、実験、実習、グループワーク等）は内容を理解するうえで適切であり、到達目標（シラバス参照）を達成するための工夫があったと思いますか。	3.43	3.43	3.56	3.45	3.36	3.43
5	授業で使用した教材（教科書・参考図書・配付資料・課題・宿題等）は、内容を理解するうえで適切であったと思いますか。	3.47	3.45	3.60	3.51	3.38	3.48

設問 1～5 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

## 【検証】

- ・いずれの設問においても「そう思う」、「ややそう思う」の回答が多く平均点が高い。各授業の内容に関しておおむね設問にかかる内容は満たしている。
- ・いずれの設問においても学科間の差は認められない。

## 【自学自習と学習時間】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
6	あなたは授業概要の把握、予習のために、積極的にシラバスを活用できたと思いますか。	2.75	2.80	2.89	2.70	2.53	2.84
7	あなたはこの授業の内容を理解するために努力（予習・復習、質問等）をして、積極的に内容の理解を目指す行動がとれたと思いますか。	3.14	3.06	3.22	3.15	3.09	3.17
8	あなたがこの科目の学習を行った時間（授業時間、予習・復習、宿題、試験勉強等含む）はどのくらいですか。週当たりの平均値で教えてください。	1.88	1.80	1.96	1.91	1.88	1.75

設問 6, 7 そう思う（4点）、ややそう思う（3点）、あまりそうは思わない（2点）、そう思わない（1点）

設問 8 270 分以上（4点）、180 分～270 分（3点）、120 分～180 分（2点）、120 分未満（1点）

## 【検証】

- ・比較的授業内容を理解するための努力をしているものの、各個人の週当たりの学習時間は 120 分未満に近い。
- ・週当たりの学習時間の平均点は昨年よりも 0.3 上がっている。遠隔授業で課題、自学自習をする時間が増えたためであると考えられる。
- ・特に実験実習系科目については学習時間が多くなる傾向がある。
- ・シラバスの使用は、平均は悪くはないものの改善の余地がある。積極的に活用できるようにさらなる周知が必要である。
- ・いずれの設問においても学科間の差は認められない。

## 【学習到達度、学習満足度】

設問	設問内容	全校平均	M	E	S	I	C
9	あなたはこの授業でどの程度到達目標を達成できましたか。優・良・可の基準で自己評価してください。	2.97	2.74	3.03	2.99	3.06	2.88
10	あなたのこの授業に対する総合的満足度はどのくらいですか。	3.30	3.27	3.39	3.34	3.27	3.30

設問 9 優（4点）、良（3点）、可（2点）、不可（1点）

設問 10 満足（4点）、やや満足（3点）、やや不満足（2点）、不満足（1点）

## 【検証】

- ・達成度、満足度ともに昨年よりも 0.2 点程度あがっている。
- ・設問 9 到達目標は比較的「優」「良」の回答が多い。科目によっては「可」を半数以上が選択している授業もあり、授業によりばらつきがある。
- ・設問 10 満足度はほとんどの授業で「満足」「やや満足」が多数を占めており、学生はおおむね授業に対して満足しているものと考えられる。
- ・いずれの設問においても学科間の差は認められない。

## 【web アンケートについて】

今回 web によりアンケートを行ったが、回答数が学生数を超えている授業、あるいは半分の学生しか回答していない授業があり、信頼性については少し疑問が残った。仕事量は増えるものの従来のマークシート式とするか、web アンケートを必ず授業中に回答させる等の対策が必要である。

## 令和2年度卒業生・修了生アンケートの集計結果について

### 【調査目的】

卒業・修了を迎える学生の高専への満足度や自分自身の達成感、成長実感を把握することで、より良い教育を提供するための高専の教育改善に活用することを目的とする。

### 【実施年】

令和3年1月～3月（本校では令和3年1月～2月に実施）

### 【調査対象】

令和2年度に在籍する国立高専51校の本科5年生及び専攻科2年生

### 【調査方法】

Microsoft365 Forms によるアンケート形式

### 【アンケート項目】

#### <高専満足度－1>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの高専の満足度を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・一般科目の授業
- ・専門科目の授業
- ・実験実習等
- ・卒業研究や特別研究等での研究指導
- ・就職・進学に関する指導や支援

#### <高専満足度－2>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの高専の満足度を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・授業外の学習支援
- ・クラブ活動や課外での活動
- ・学生生活の指導や支援
- ・寮での指導や支援

#### <自分自身の達成感>

高専生活を振り返って、下記項目ごとの自分自身の達成感を5段階で評価してください。ただし、専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・授業等の学習
- ・卒業研究や特別研究等の研究活動
- ・進学・就職に向けた取り組み

#### <自分自身の成長実感>

高専生活を通して、下記項目について入学時点に比べて自分自身が成長した（身につ

けた)と感じているかを5段階で評価してください。本科は5年間での成長を,専攻科は専攻科2年間での成長について評価してください。

- ・実践的技術者に必要な基礎知識や技術
- ・修得した専門知識や技術を社会に還元できる力
- ・コミュニケーション力と人間力(社会人基礎力)
- ・自ら学ぶ力
- ・物事を論理的に思考・表現することができる力

#### <総合満足度>

高専生活全体を振り返って,総合的な満足度を自分のキャリア形成(卒業後の自分の考え方・生き方)に役立ったか,これからも役立ちそうかどうかを5段階で評価してください。ただし,専攻科の場合は専攻科課程について評価してください。

- ・思い描いていた卒業後の将来像実現のために,高専生活は役立ちましたか?
- ・高専生活は,これからのキャリア形成に役立ちそうですか?

#### 【機構本部からの集計・分析結果を踏まえた本校学生のアンケート結果】

##### <高専満足度-1>

一般の授業,専門の授業,実験実習,卒業研究,就職進学に関する指導の満足度については平均が4点(5点満点)を超えている。一般の授業,実験実習,就職進学に関してはおおむね高専全体の平均,専門の授業,卒業研究は平均よりもわずかに高いが,ほぼ誤差範囲である。

##### <高専満足度-2>

授業外の学習支援,クラブ活動,学生生活のサポート,寮のサポートなど学習外の満足度の平均が4点(5点満点)を少し下回っている。高専全体の平均も学習外の満足度が低く,奈良高専の点数は平均以上である。

##### <自分自身の達成感>

自分自身の達成感は授業等の学習に関しては4点(5点満点)程度と少し低く,卒業研究や特別研究等の研究活動,進学・就職に向けた取り組みは4.2点程度となっている。この傾向も高専全体とほぼ同じである。

##### <自分自身の成長実感>

自分自身の成長実感は(実践的技術者に必要な基礎知識や技術,修得した専門知識や技術を社会に還元できる力,コミュニケーション力と人間力(社会人基礎力),自ら学ぶ力)については,ほぼ高専平均と等しく4~4.2点程度である。一方,物事を論理的

に思考・表現することができる力だけが高専平均（4点）よりも高く4.2点となっている。

<総合満足度>

思い描いていた卒業後の将来像実現に，高専生活が役立ったか，高専生活はこれからのキャリア形成に役立ちそうかについて聞いている。奈良高専はともに高専平均は満たしているものの，将来像実現の方がキャリア形成よりも満足度が高い。

【本科と専攻科の満足度・達成感の比較】

一般教科は本科，専門教科は専攻科の満足度が高い評価となっている。自身の成長実感についてはコミュニケーション能力，論理的思考能力，卒業研究（特別研究），進学就職への取り組みは，5年生の方が，達成感が高い。これは論理的思考・コミュニケーション能力（いずれもアンケート項目）についてはある程度5年生までで達成できており，専攻科としてはその先にある，技術の社会への還元，自ら学ぶ力（いずれもアンケート項目）に注力した結果であると考えられる。

ただし，全体として専攻科の方が本科よりも満足度は低めであり，専攻科の教育の改善は必要かもしれない。

## 令和2年度遠隔授業アンケートの集計結果について

### 【教員向けアンケート項目・集計結果】

<令和2年5月29日～6月5日 実施分>

#### 遠隔授業振り返りアンケート（教員向け）

82  
応答

42:01  
完了するのにかった平均時間

終了済み  
状態

...

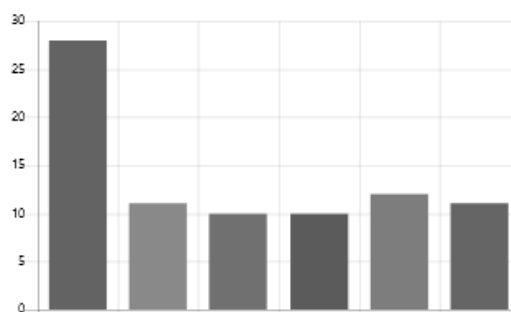
結果の表示

Excelで開く

#### 1. 所属を教えてください。

詳細

● L	28
● M	11
● E	10
● S	10
● I	12
● C	11



#### 2. 5月11日から2週間の遠隔授業移行期間において、担当科目で遠隔授業を実施されましたか。

詳細

● はい	82
● いいえ	0





3. どのような形式で遠隔授業を実施されていますか？ 科目毎に異なる手法を採用されている方は該当する選択肢を複数選択してください。当てはまる手法がない場合はその他を選択し、形式についてご記入ください。

講義資料配布型→主として、事前、あるいは授業時間に講義資料（音声、ビデオ含まず）を提示し、学生が各自学習を進める形式

オンデマンド型→主として、講義資料に音声、ビデオ等を加えた教材を提示し、学生が各自学習を進める形式

リアルタイム型→主として、Teamsの会議機能等を利用し、教員と学生がリアルタイムでやり取りを行える環境で実施する形式

詳細

● 講義資料配布型	20
● オンデマンド型	36
● リアルタイム型	52
● その他	6



4. 講義中、どのような形式で学生からの質問を受け付けていますか？

詳細

● チャット	82
● 音声	40
● 映像	8
● メール	25
● その他	8



5. 学生の受講環境（端末、ネット環境）に関連して、遠隔授業の実施に影響があったという事例がありましたら、ご記入ください

詳細

51

応答

最新の回答

“演習環境を一般家庭でも導入しやすい（最悪の場合スマホでも可...  
“streamで動画が読み込みづらいつきがあった。時間割通りの教科...  
“理由はわからないがwifiが不安定でなんとか立ち上げ直す必要があ...

6. 遠隔授業期間中の出欠管理に関連して、不都合等生じた事例がありましたら、ご記入ください

詳細

42

応答

最新の回答

“アンケート回答のみでは全員確認できないことがあり、会議参加...  
“”

7. その他、遠隔授業を実施されてお気づきになった問題点、改善すべき点がありましたら下記に記入をお願いいたします。

詳細

50

応答

最新の回答

“時間制限のあるテストが公正に実施できない”  
“プリンターがない学生も多く、1週間に一度くらいは登校日を設け...

8. 今後継続して遠隔授業を実施するうえで必要なサポートや情報がありましたら教えてください。

詳細

41

応答

最新の回答

<令和2年10月1日～10月9日 実施分>

## 教員向け遠隔授業アンケート

69

応答

21:04

完了するのにかった平均時間

終了済み

状態

...

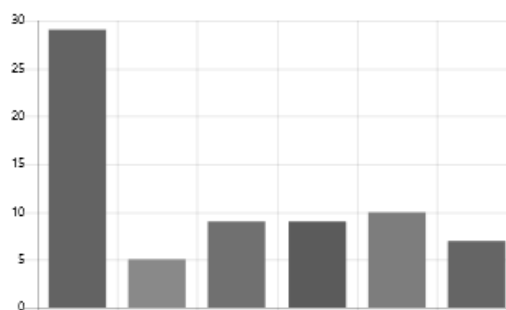
結果の表示

Excelで開く

1. 所属学科を選択してください。

詳細

● 一般教科	29
● 機械工学科	5
● 電気工学科	9
● 電子制御工学科	9
● 情報工学科	10
● 物質化学工学科	7



2. 遠隔授業の実施方法

詳細

● 講義資料配布型（非同期型）...	17
● オンデマンド型（非同期型）一...	30
● リアルタイム型（同期型）ーリア...	42
● その他	5



### 3. 遠隔授業の準備にかかった時間

詳細

● 対面授業より短い	0
● 対面授業と変わらない	8
● 対面授業より長い	61



### 4. 授業時間外の課題の設定回数

詳細

● 毎回課題を設定した	34
● 概ね8割程度	9
● 2回に1回程度	8
● 概ね2割程度	15
● ほぼ設定しなかった	3



### 5. 1回あたりの想定課題遂行時間（授業時間外）

詳細

● 30分以下	32
● 30分～1時間	27
● 1～2時間	7
● 2時間以上	3



### 6. 遠隔授業を自己評価して点数をつけてください

詳細

69  
応答

3.57  
数値の平均

### 7. 遠隔授業の実施において学生の学びにつながった授業要素があれば記述してください。

詳細

48  
応答

最新の回答

“授業の展開を予習できた。”

“事前のガイダンス動画・資料の閲覧、課題のダウンロード、リア...

“事前に予習を課し、リアルタイムで授業を行い、チャットで質問...

### 8. 遠隔授業の実施において学生の学びが深まった授業方法があれば記述してください。

詳細

37  
応答

最新の回答

“学生ひとりひとりの考えと理解度を確認することができた。”

“よりクリアな声（教員の音声のボリュームが各自調整できるメリッ...

“チャットでの質問はなるべくその場で共有し、間違いやすい箇所...

10. 遠隔授業よりも対面授業が優れていると感じた部分を記述してください。

詳細

58  
応答

最新の回答

"理解度を一人一人顔を見ながら確認できる。"

"学生の顔が見れるので、反応が分かりやすい。"

"遠隔では生徒の名簿のみの配布であったため、性別すらわから...

11. 遠隔授業の課題点があれば記述してください。

詳細

54  
応答

最新の回答

"実際にその場にいるかどうか、疑問に思うことがあった。"

"特になし。"

"資料の準備、授業外の質問対応、課題のチェックなどにて忙殺さ...

12. その他、何かお気づきの点があれば記述してください。

詳細

29  
応答

最新の回答

"AIと共存する、そして在宅勤務が推奨される未来社会で生きて...

### 【学生向けアンケート項目・集計結果】

<令和2年5月28日～6月5日 実施分>

### 遠隔授業に関するアンケート

842  
応答

17:21  
完了するのにかった平均時間

終了済み  
状態

...

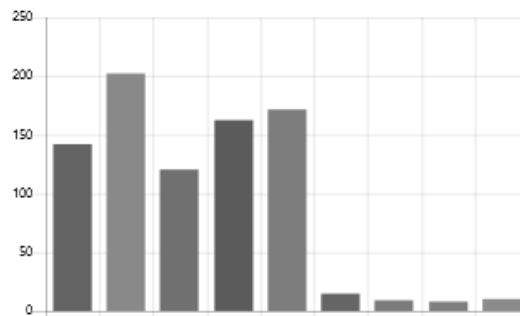
結果の表示

Excelで開く

#### 1. 学科を教えてください

詳細

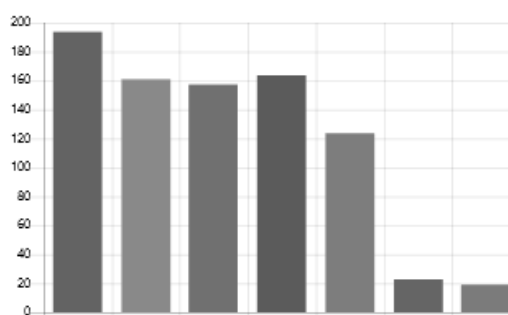
● 機械工学科	142
● 電気工学科	202
● 電子制御工学科	121
● 情報工学科	163
● 物質化学工学科	172
● システム創成工学専攻 機械制...	15
● システム創成工学専攻 電気電...	9
● システム創成工学専攻 情報シ...	8
● 物質創成工学専攻	10



## 2. 学年を教えてください

詳細

● 本科1年	194
● 本科2年	161
● 本科3年	157
● 本科4年	164
● 本科5年	124
● 専攻科1年	23
● 専攻科2年	19



## 3. 2週間(5/11~5/22)遠隔授業を受講してみて、課題・宿題・レポートの分量は通常授業（対面授業）と比較して適当でしたか？本科1年生は中学校の時の分量と比較してください。

詳細

● 分量が少ない	8
● ちょうどいい	373
● 分量が多い	461



## 4. 遠隔授業を受講してみて、通常授業（対面授業）と比較してどう感じましたか？

詳細

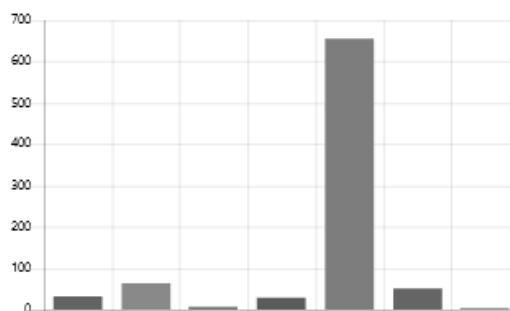
● 通常授業より効果的である	204
● 通常授業と変わらない	267
● 通常授業の方が効果的である	371



## 5. 実際に遠隔授業を受講する際に、最もよく使用したデバイスを教えてください。

詳細

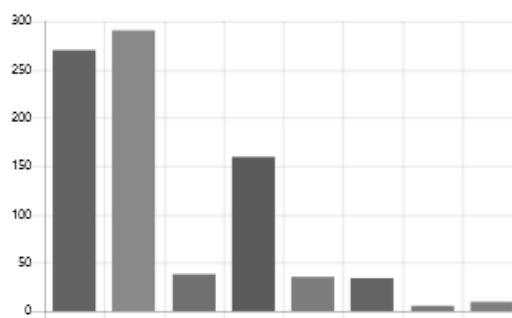
● スマートフォン(android)	32
● スマートフォン(iPhone)	64
● タブレット(android)	7
● タブレット(iPad)	28
● パソコン(Windows)	655
● パソコン(Mac OS)	52
● その他	4



6. 遠隔授業を受講する通信環境を教えてください。

詳細

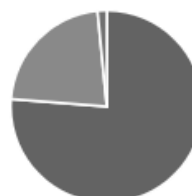
● 光ファイバ（1Gbps以上）	270
● 光ファイバ（1Gbps未満、不明）	290
● ADSL	38
● 1ヶ月あたりのデータ通信量が無制...	159
● スマホ/LTEルータのテザリング（1ヶ...	35
● スマホ/LTEルータのテザリング（1ヶ...	34
● スマホ/LTEルータのテザリング（1ヶ...	6
● 高速通信できる環境でない（128...	10



7. 通信速度についてどう感じていますか？

詳細

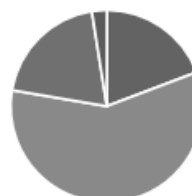
● 問題なし	642
● 時間帯によっては通信速度が足り...	187
● 常時、通信速度が足りない	13



8. どの授業形式が授業に適していると思いますか？

詳細

● 講義資料配布型（非同期型）...	162
● オンデマンド型（非同期型）一...	492
● リアルタイム型（同期型）ーリア...	167
● その他	21



9. 1日の講義視聴時間は平均で何時間くらいでしたか？（課題遂行時間を除く）

詳細

● 0～3時間	153
● 3～4時間	310
● 4～5時間	247
● 5～6時間	102
● 6時間以上	30



10. 1日の課題遂行時間(授業時間外)は平均で何時間くらいでしたか？

詳細

● 0～2時間	239
● 2～3時間	381
● 3～4時間	157
● 4時間以上	65



11. 規則正しい生活で学習できていますか？

詳細

● はい	696
● いいえ	146



12. 5月11日から22日まで遠隔授業を受けることができましたか？できた場合は「できた」旨回答ください。できなかった科目がありましたら、科目名とその原因を教えてください。

詳細

774  
応答

最新の回答

"できた"

"できた。"

"できた"

13. これまで遠隔授業を受けた中で、課題提出やスマホによる操作等、受講上困難が生じた事例はありましたか？ありましたらその科目と困難の内容を教えてください。

詳細

357  
応答

最新の回答

14. これまで遠隔授業を受けた中で、楽しかったことや良かったこと、新しい発見はありましたか？ありましたら教えてください。

詳細

412  
応答

最新の回答

"周りの人を気にする必要もなく意外と集中して受講できた。"

"ビデオを止めて板書ができること。"

15. これまで遠隔授業を受けた中で工夫したことや「こうした方がよい」など分かったことがありましたら教えてください。

詳細

339  
応答

最新の回答

"高専から送られてくる授業動画や講義資料のファイル名を整理す..."

16. 引き続き遠隔授業を受けていく上で自分の中で課題だと思うことまたは、来週の目標を設定してください。

詳細

598

応答

最新の回答

"課題を忘れずに提出する。"

"たまに授業開始時間から2分ほど遅れることがある。"

17. 今後しばらく遠隔授業が継続することに関して、不安なことがあれば教えてください。

詳細

383

応答

最新の回答

18. 対面授業が開始された（登校が可能となった）場合に、不安なことがあれば教えてください

詳細

354

応答

最新の回答

"今までは家で受講できたために時間に比較的余裕があったが、登..

"クラスターなどが発生しないかなどが少し不安"

<令和2年10月7日～10月16日 実施分>

(3～9の設問は機構本部作成分のため省略)

## 28(奈良)2020「高専での学びの状況」に関する調査

636

応答

11:56

完了するのにかかった平均時間

終了済み

状態

...

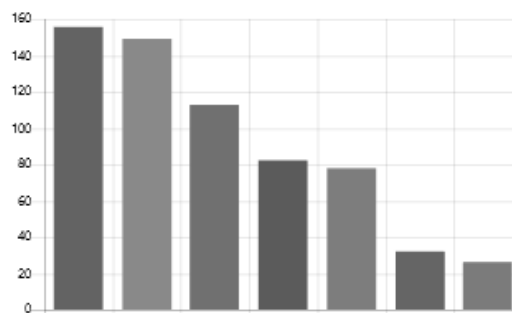
結果の表示

Excelで開く

1. 学年を選択してください。

詳細

● 本科1年	156
● 本科2年	149
● 本科3年	113
● 本科4年	82
● 本科5年	78
● 専攻科1年	32
● 専攻科2年	26

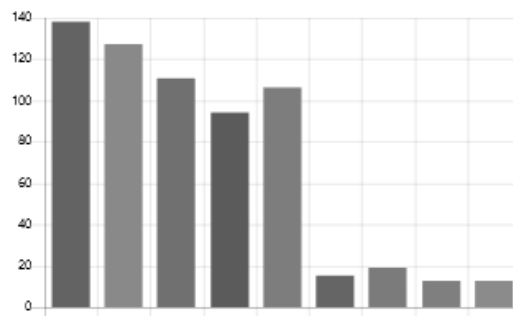




2. 学科・専攻名を選択してください。

詳細

● 機械工学科	138
● 電気工学科	127
● 電子制御工学科	111
● 情報工学科	94
● 物質化学工学科	106
● システム創成工学専攻・機械制...	15
● システム創成工学専攻・電気電...	19
● システム創成工学専攻・情報シス...	13
● 物質創成工学専攻	13



10. 今の高専生活が、自分が思い描く卒業後の将来像につながるものだと思いますか？  
一番近いものを1つ選んでください。

詳細

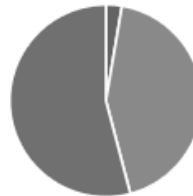
● 1.非常にそう思う	76
● 2.そう思う	264
● 3.どちらでもない	193
● 4.あまりそう思わない	73
● 5.思わない	30



11. 遠隔授業（5/11～7/22）を受講してみて、課題・宿題・レポートの分量は対面授業（7/27～）と比較して適当でしたか？

詳細

● 分量が少ない	17
● ちょうどいい	275
● 分量が多い	344



12. 遠隔授業を受講してみて、対面授業と比較してどう感じましたか？

詳細

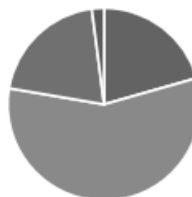
● 対面授業より効果的である	129
● 対面授業と変わらない	182
● 対面授業の方が効果的である	325



13. 遠隔授業の授業形式はどれが適していたと思いますか？

詳細

● 講義資料配布型（非同期型）...	131
● オンデマンド型（非同期型）一...	363
● リアルタイム型（同期型）ーリア...	129
● その他	13



14. 遠隔授業と対面授業では、どちらが規則正しい生活で学習ができていましたか？

詳細

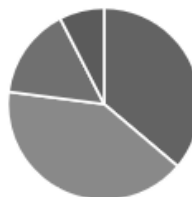
● 遠隔授業	201
● 対面授業	435



15. 遠隔授業において、1日の課題遂行時間（授業時間外で）は平均で何時間くらいでしたか？

詳細

● 0～2時間	230
● 2～3時間	260
● 3～4時間	98
● 4時間以上	48



16. 対面授業が開始してから、1日の課題遂行時間（授業時間外で）は平均で何時間くらいですか？

詳細

● 0～2時間	396
● 2～3時間	180
● 3～4時間	39
● 4時間以上	21



17. 遠隔授業期間中、困ったこと、悩んだことがあれば教えてください。

詳細

234  
応答

最新の回答  
"やる気が全くでん"

18. 対面授業開始後、困ったこと、悩んだことがあれば教えてください。

詳細

188

応答

最新の回答

"テストやばい"

19. 対面授業と比較して、遠隔授業の良かった点、悪かった点があれば教えてください。

詳細

277

応答

最新の回答

"課題やる気が出る"

20. 今後遠隔授業と対面授業を混在させるとしたら、遠隔授業の割合は何割程度が望ましいですか？

詳細

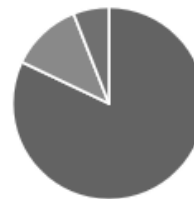
● 1割未満	119
● 1～2割程度	113
● 2～3割程度	132
● 3～4割程度	94
● 4割以上	178



21. また、どのような形態が望ましいですか？

詳細

● 毎週決まった曜日に実施	522
● 特別日課など対面授業のない時...	76
● その他	38



【対面・遠隔授業方法別成績比較 令和元年度-令和2年度（成績は非公開）】

- ・平均点は1・5年生が微増、2・4年生が微減。3年生は差なし。有意性は不明。
- ・標準偏差は1・2年生で増、3年生は微増、4・5年生は微減。高学年ほどばらつきが減る傾向。
- ・高学年生の成績は、授業方法に影響されにくい可能性がある。

【今後の課題】

- ・対面と遠隔の方法の違いによらず、学校として学生への課題総量を把握し、担当教員と情報共有を図る必要がある。
- ・今後も学生の学習状況の実態やニーズを把握し、それらへの適切な対応が取れるよう組織的な活動が必要である。
- ・対面と遠隔の並列的な授業実施方法の検討については、恒久的に特定の曜日における遠

隔授業の実施が考えられるが、成績への影響という観点からはハイブリッド化を高学年から始めることも考慮してよいのではないか。

## 資料 58

### アドミッションポリシーの適合度割合の確認

アドミッションポリシー妥当性、および入学生徒の適合度の確認の為、  
本科1年担任に於いては、クラスの学生さんの様子から、  
専攻科1年生の指導教員においては、1年の様子から、  
それぞれのアドミッションポリシーにどの程度適合しているか、おおよそのパーセンテージでお答え下さい。大変答えにくい質問と思いますが、(適合している学生/受け持たれている学生)×100%を基準に考えてください。

#### 【本科】

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

#### 【専攻科】

- (1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人
- (2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人
- (3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人

[システム創成工学専攻]

- (4) 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人

[物質創成工学専攻]

- (4) 環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関してその課題発見と解決に貢献したい人

教員名

本科      ・      専攻科      学年      \_\_\_\_\_

学科、専攻-コース      \_\_\_\_\_

受け持ちの学生数      \_\_\_\_\_名

アドミッションポリシーの適合割合

(1) \_\_\_\_\_%      (2) \_\_\_\_\_%      (3) \_\_\_\_\_%      (4) \_\_\_\_\_%

## アドミッションポリシーの適合度割合の結果について

### 【本科】

- (1) 技術者や理工系の研究者になるという強い意志を持ち、社会の発展に貢献したい人
- (2) 工学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、自ら進んで学習できる人
- (3) 科学技術の分野に関心を持ち、自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人
- (4) 倫理観や協調性を持ち、多様な個性や価値観を尊重できる人

### 【専攻科】

- (1) 豊かな人間性を有する技術者になりたい人
- (2) 自らの専門分野を生かし、さらに応用する力を育みたい人
- (3) 技術を通して国際社会や地域に貢献したい人
- (4) [システム創成工学専攻] 創造性を高め、新しいシステムをつくり出したい人
- (4) [物質創成工学専攻]環境、エネルギー、バイオ、新材料およびこれらを融合したプロセスに関して  
その課題発見と解決に貢献したい人

	1 M	1 E	1 S	1 I	1 C	1 AM	1 AE	1 AS	1 AI	1 AC
(1)	85%	90%	80%	70%	80%	90%	100%	100%	83%	100%
(2)	90%	80%	80%	90%	80%	90%	100%	100%	100%	100%
(3)	70%	80%	80%	70%	80%	90%	83%	100%	92%	100%
(4)	95%	80%	80%	80%	100%	90%	100%	100%	100%	100%
平均	85%	83%	80%	78%	85%	90%	96%	100%	94%	100%
回答者数	42	42	43	40	40	5	12	7	12	7

アドミッションポリシー（AP）の適合度は、本科の平均で80%を超え、専攻科では95%を超える高いものである。調査は、まだ2年なので、もう少し続けて時系列と合わせ評価する必要がある。

一方で現時点で考えられる問題点として、本科AP(3)で、一部低い(とは言っても70%)クラスがあるが、その原因を推測すると、前半の「科学技術分野に関心を持ち」は、入学時の「条件」に当たるもので、比較的適合できていると思われるが、後半の「自ら工夫して新しいものを創造する意欲のある人」は、どちらかという「将来の希望・目指す人物像」にあたり、判断も難しく新入生の適合が低い可能性があると思われる。

この観点を整理するために、APを「入学時に満たすべき条件」と「将来の希望・目標」を記載する項目に分けるほうがより良いと考えられる。

これを将来の改善項目として委員会で決定した。  
(企画会議、運営会議にて報告済み。)

# 令和2年度 内部質保証に係るカリキュラムの点検表のまとめ

総務委員会

各科から検討要望が出された項目をまとめて、また、検討を担当すべきと考える組織を挙げた。各組織に連絡を行う。

## ○検討要望とともに具体的な内容が提示されたもの

### 1. 教育の内部質保証システム

- (1) 学校の「理念と目標」及び学科・専攻科の3つの方針（DP、CP、AP）が、社会の状況等の変化を踏まえた上で、現状、適切であると言えるか？ →教務・専攻科

検討要望内容：

- ・ 社会的ニーズを確認しながら、その妥当性について検証していく必要があると考えている。(C)

### 2. 教育組織及び教員・教育支援者等

- (1) 必要な教員が適切に配置されているか？ →企画会議

検討要望内容：

- ・ 教員の人数が削減され厳しい。近隣高専で専門学科8名体制のところはあるのか？ (E)
- ・ 現状では配置できているが、教員の退職等があった場合に十分な対応ができない分野が生じる懸念がある。(C)

- (2) 教員の能力向上を図る取組(研修・FD)がなされているか？ →総務委員会

検討要望内容：

- ・ 他高専の状況など幅広く聞きたい (E)
- ・ Cからも検討要望あり (内容は明記されていない)

- (3) 教育支援者等が適切に配置されているか？

検討要望内容：→教育研究支援室・企画会議・教務委員会

- ・ 高専の機械工学科のカリキュラムとして実習・実験を重視している。特に実習では、製造業の労働災害で最も死亡災害・死傷災害が多い「はさまれ・巻き込まれ」になりかねない内容も実施している。そのために、これまで安全衛生に専門性を持つ技術職員の配置に配慮をいただいていたと理解している。しかしながら、今後は、技術職員の専門性、内容の危険度を全く考慮せずに、人数・時間数のみを基準とした配置案としていきたいという意向を示されており、実習における死傷災害を懸念しているところである。もちろんこの問題は、機械系の実習だけではなく、感電や火傷といった恐れのある内容を含む他学科の実習・実験にもあてはまり、全学的な議論が必要であると考えている。(M)
- ・ 現状では配置されていると考えるが、分析装置を用いた実験や研究指導等における支援者体制において、将来的な不安がある。(C)

### 3. 教育課程・教育方法

(1) 授業科目の学年ごとの適切な配置、教育課程の体系的な編成がなされているか？

検討要望内容：→教務委員会・専攻科委員会

- ・ 学年配当を検討されているようだが、数字の議論が先走っており、体系的な教育課程の編成という観点で議論してほしい。専門と一般の調整が必要
- ・ Cからも検討要望あり（内容は明記されていない）

(2) 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか？

検討要望内容：→教務委員会・専攻科委員会

- ・ 教員グループとして工夫されているが、学科レベルでも共有化を進める必要がある。(C)

(3) 講義・演習・実験・実習のバランスは適切か？学習指導上の適切な工夫は？

検討要望内容：→教務委員会・専攻科委員会

- ・ 指導体制の確保について (C)

### 4. 点検内容

(1) この点検項目について追加、不要、修正などの意見があるか？

検討要望内容：→総務委員会

- ・ 調査を実行力のある点検にしていくことが課題だと思います。また、「カリキュラム点検表」とありますが、カリキュラム以外の記述が多いので名称変更ください。(E)
- ・ PDCA を考えた時、問題ない・問題あり という両極端な表現は避けてはどうでしょうか。どの項目に対しても常に問題意識は持っているはずです。そこで、回答としては、ほぼ全項目に検討希望と書いていますが、その意味合いは項目により異なることをご承知おきください。(C)

### ○検討要望とともに具体的な内容が提示されていないもの

#### 1. 教育課程・教育方法→教務委員会・専攻科委員会

(1) 授業科目の学年ごとの適切な配置、教育課程の体系的な編成がなされているか？ (C)

(2) 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請が配慮されているか？ (C)

#### 2. 学習・教育の成果 →教務委員会・専攻科委員会

(1) 成績評価・卒業認定の結果から判断して、成果が認められるか？ (C)

(2) 学生・卒業生・進路先関係者等の意見から判断して、成果が認められるか？ (C)

(3) 卒業後の進路状況（就職・進学）から判断して、成果が認められるか？ (C)



令和2年度 授業チェックシート集計結果

学科等	設問番号・内容													はい／総数		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	13	オフイス アワー	課題・ レポート	追試験・ 追実験	その他
	学生に授業科 目の学習到達 目標・教育方 法等の説明を しましたか？	開講時にシラ バスの内容を 説明しました か？	授業はシラバ スの内容・機 械計画に沿っ て実施しまし たか？	適切な教材を 用いています か？	学生の授業中 の反応を チェックし て、活用して いますか？	課題・レポート ・小テスト 等を適切に実 施しました か？	成績はシラバ スの評価割合 に依って評価 しましたか？	成績評価の根 拠資料（定期 試験・小テスト と、課題など） は適切にま 保持しています か？	学生の興味や 理解度を高め る工夫をしま したか？	授業アンケート や公開授業 などの点検結 果を来年度の 授業に反映し ますか？	学生が授業に 自律的に取り 組む工夫を 行っています か？	22/29	22/29	22/29	22/29	22/29
本 科	国語	29/29	22/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	22/29	22/29	22/29	5/29	0/29
	社会	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	35/35	13/35	13/35	31/35	9/35	2/35
	英語	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	39/39	27/39	27/39	30/39	21/39	0/39
	体育	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	25/25	15/25	0/25	0/25
	数学	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	40/40	35/40	35/40	39/40	27/40	9/40
	理科	29/38	36/38	38/38	38/38	38/38	38/38	38/38	38/38	38/38	26/38	22/38	22/38	29/38	19/38	0/38
	芸術	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5
	機械	28/28	28/28	27/28	28/28	28/28	28/28	28/28	28/28	26/28	24/28	20/28	17/28	11/28	8/28	0/28
	電気	33/33	33/33	32/33	33/33	33/33	33/33	32/33	32/33	32/33	24/33	29/33	18/33	14/33	15/33	7/33
	電子制御	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	29/29	28/29	29/29	24/29	26/29	26/29	14/29	1/29
情報	41/41	41/41	41/41	41/41	38/41	41/41	41/41	41/41	41/41	33/41	32/32	32/41	31/41	10/41	0/41	
物質化学	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	36/36	32/36	26/36	30/36	24/36	14/36	0/36	
小計	369/378	369/378	376/378	378/378	375/378	378/378	376/378	377/378	374/378	318/370	320/369	267/378	272/378	142/378	19/378	
割合	97.6%	97.6%	99.5%	100.0%	99.2%	100.0%	99.5%	99.7%	98.9%	85.9%	86.7%	70.6%	72.0%	37.6%	5.0%	
専 攻 科	社会	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	0/3	0/3	3/3	0/3	2/3
	英語	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	4/5	5/5	4/5	4/5	4/5	4/5	0/5
	体育	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	数学	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1	0/1
	理科	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	2/2	0/2	0/2
	機械	6/6	6/6	6/6	6/6	6/6	6/6	6/6	6/6	5/6	5/6	5/6	3/6	0/6	0/6	0/6
	電気	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	8/8	4/8	4/8	7/8	3/8	4/8	0/8	0/8
	電子制御	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
	情報	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	5/5	4/5	4/5	2/5	4/5	4/5	0/5	0/5
	物質化学	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	14/14	12/14	14/14	12/14	10/14	1/14	3/14
小計	44/44	44/44	44/44	44/44	44/44	44/44	44/44	44/44	43/44	35/44	39/44	29/44	28/44	5/44	5/44	
割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.7%	79.5%	88.6%	65.9%	63.6%	11.4%	11.4%	
合計	413/422	413/422	420/422	422/422	419/422	422/422	420/422	421/422	417/422	353/414	359/413	296/422	300/422	147/422	24/422	
割合	97.9%	97.9%	99.5%	100.0%	99.3%	100.0%	99.5%	99.8%	98.8%	85.3%	86.9%	70.1%	71.1%	34.8%	5.7%	

【評価】  
 ・問1～11については、85%の科目については、各授業ともシラバスの活用、教材の選択、学生に対する対応などが十分できていると言える。  
 ・授業時間外の学習指導については、科目の性質や教員の指導方法の違いなどもあり、実施割合の低いものも何らかの取り組みがなされており、全  
 体として学生の指導ができています。

## グループ（学科）FD

（目的）学科ごとに科内会議の時間等を利用して、「成績根拠資料」の確認や担当している科目の内容、成績評価方法、学生の様子等について情報交換・意見交換を行い、教育改善に結び付けることを目的とします。分野ごとの小グループで実施いただいても構いません。

（報告書）グループ（学科）FD報告書に必要事項を記入して、各科総務委員に提出してください。

（グループFD報告書）		例
グループ（学科）FD報告書（令和3年3月〇日（〇）一般教科 各科総務委員へ提出）		
報告者 一般教科 高専 太郎 グループ構成：高専太郎（代表）、高専次郎、高専花子		
FD開催日時：令和3年3月〇日（〇）15：30～16：30		
FD開催場所：□□会議室		
確認した「成績根拠資料」 ・高専太郎：微分積分Ⅰ ・高専次郎：代数・幾何Ⅰ ・高専花子：応用数学α		
FD結果 ①「成績根拠資料」の確認 上記担当科目のファイルの確認を別紙「成績根拠資料」状況確認表のように行った結果、問題なく作成されていた。 ②担当科目に対する情報交換や検討内容 ・〇〇系科目の教授内容について情報交換を行い、重複部分についての扱い方等を検討した。		

（状況確認書様式）								
令和2年度 成績根拠資料 状況確認表【〇〇工学科 グループ 年 月 日：参加者】								
【追加・修正箇所は、朱書きください。】								
学年 クラス	授業科目、授業担当教員	作成状況		点検状況			作成 及び 保管教員	チェック教員
		作成済	未作成	成績評価割合は シラバス通りか	試験もしくはレポ ート課題のレベル は適切か	模範解答や採点 基準はあるか		

（結果については、内部資料とするため割愛する。）

## あ と が き

教育・研究の高度化，教育機関の個性化・多様化，教育の成果（アウトカムズ）の可視化，組織運営の活性化等の要求から高等教育機関における内部質保証システムの重要性は今後益々高まっていくであろう。本報告書は，本校の内部質保証の評価点検結果をまとめたものであり，各部門の総括と重点課題，各学科の総括，機関別認証評価の観点に合わせた自己点検評価からなる本文編と，関係する資料からなる資料編で構成されている。

今年度は主に，本文はR2年4月からR3年3月まで，資料はH28年4月からR3年3月までの5年間を対象としてまとめているが，「第1章 重点課題，その他特筆すべき事項」については，掲載内容を吟味し，昨年度41ページであったものを22ページとコンパクトにまとめる形にした。また，「第3章 研究活動 3. 1 個人の活動（研究実績）」については，科学技術振興機構のresearchmapに全教員の研究実績が公開されているため，今年度からは，本自己点検・評価報告書に掲載することを中止した。

本校は外部評価として，運営諮問会，認定専攻科審査，専攻科特例認定審査，機関別認証評価，日本技術者教育認定機構（JABEE）認定等を受けている。R2年度には，大学改革支援・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価による評価を受けた。その結果，高等専門学校評価基準に適合していること，重点評価項目である内部質保証システムの整備，機能については，評価項目を全て満たしていると評価された。しかし，改善を要する点として，「学生が卒業時に身に付けた学力，資質・能力について，進路先関係者等からの意見聴取が行われていない。」ことが挙げられた。今後，この評価結果を踏まえ，さらなる内部質保証システムのブラッシュアップを実施していく予定である。

また，年1回実施される運営諮問会では毎年テーマを設定しており，本年度は「奈良高専の学生支援について（仮題）」を予定している。学生を取り巻く環境は年々変化しており，今日の状況を踏まえた上で学生支援の在り方について外部の視点を取り入れながらより良い支援体制，支援手段の構築を目指したい。

今後も本校教職員が一丸となり，本校の教育研究活動をさらに改善，発展させていくが，この報告書がその一助になると期待している。

最後に，ご多忙の中，本報告書の執筆，編集にご尽力頂きました教職員の方々に深甚な謝意を表します。

令和3年10月

奈良工業高等専門学校 校長補佐（総務担当） 藤田 直幸

奈良高専の教育・研究・社会貢献への取組みと課題  
—自己点検・評価報告書—

令和3年10月発行

編 集 奈良工業高等専門学校総務委員会  
発 行 独立行政法人 国立高等専門学校機構  
奈良工業高等専門学校  
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町2-2  
TEL 0743-55-6013  
URL <https://www.nara-k.ac.jp/>